



2023 年東京都港区

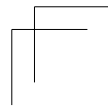
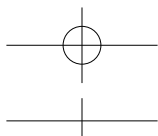
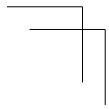
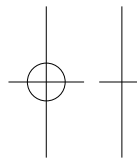
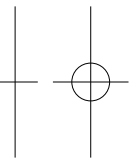
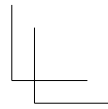
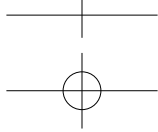
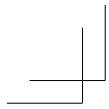
チャレンジコミュニティ・クラブの
活動実態調査報告書
—地域における学びと活動のあり方—

2024 年 8 月

チャレンジコミュニティ・クラブ
港区高輪地区総合支所協働推進課

目次

あいさつ	5
はじめに	11
1 調査の概要	13
2 調査の結果 基本集計	15
3 調査の結果 クロス集計	41
4 調査の結果 自由回答	53
5 2023年活動実態調査から見えてきたこと ～2018年調査と比較して～	77
おわりに一地域における学びと活動のあるべき方向性を求めて	87
資料 CCクラブ 2018年度活動実態調査票	93
チャレンジコミュニティ大学とは	102
チャレンジコミュニティクラブとは	104
チャレンジコミュニティクラブと会員の活動 (CC通信に掲載された17年間)	105



チャレンジコミュニティ・クラブの更なる発展を祈念して

チャレンジコミュニティ大学学長 港区長 清家 愛



チャレンジコミュニティ大学は、地域の活性化や地域コミュニティの育成を図るため、地域で積極的に活躍するリーダーを養成することを目的として、平成19年に、港区と明治学院大学が連携して開設しました。これまでの修了生は、約900名にのぼります。

チャレンジコミュニティ・クラブの会員の皆さまは、区民参画による検討組織への参加や区民まつりへのブース出展など、区と協働して地域を盛り上げてくださっています。それに加え、地域の子どもたちや明治学院大学の学生と連携したボランティア活動、各地区に分かれての自主活動など、多方面でご活躍いただいております。心から敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

現在、港区の人口は27万人に迫り、今後もあらゆる世代で増加し、将来31万人に達する見込みです。コロナ禍を経て、港区がこれまでにないスピードで変わっていく中で、さらなる地域コミュニティの活性化が期待されています。

例えば、人々の価値観やライフスタイルの多様化、家庭環境や地域における人と人とのつながりの変容に伴い、地域コミュニティにおける住民同士の活発な交流は、日々の安全で安心できる暮らしや、災害時の共助において欠かすことができないものになっています。

しかし、町会、自治会でも、会員数の減少や会の活動への住民の関心が低下するなど、活動の担い手不足が課題となっています。

区民、在勤者、学生、外国人等、多様な人々が共生する社会で、地域が一体となって防災・防犯・環境美化・交通安全などの様々なコミュニティ活動に取り組むためには、その活動を支え、先導していくリーダーとなる人材が必要です。

人生100年の長寿社会を迎えた今、多くの方々が、心新たに、それぞれの未来に思いを馳せていることと思います。

チャレンジコミュニティ大学での学びや交流を通じて、皆さまがこれまでに培ってきた豊富な知識と経験に、更に磨きをかけ、自主的・主体的に地域の中で活躍していただくことは、港区の更なる発展のための大きな力となります。

区は、地域の課題を自ら解決できるコミュニティをつくることを基本政策として掲げています。区民参画や地域における協働により築いてきた区民との信頼関係や、地域との絆を大切にしながら、地域の課題を地域の皆で解決し、お互いに支え合えるような、「誰もが住みやすく、地域に愛着と誇りを持てるまち・港区」の実現をめざし、地域活動への積極的な支援に全力で取り組んでまいります。

結びに、今後のチャレンジコミュニティ・クラブの益々の発展と、会員の皆さまが、地域コミュニティの育成や活性化を推進するリーダーとして、これからもいきいきと地域でご活躍いただけることを心から願っております。

チャレンジコミュニティ・クラブのますますの発展を祈念して

明治学院大学学長 今尾 真



2007年に「チャレンジコミュニティ大学（以下、「CC大学）」が開校し、2024年度に第17期生を迎え（コロナ禍で1年間中断）、この18年間に受講生1000人を超えました。そして、CC大学修了生組織として2008年に発足した「チャレンジコミュニティ・クラブ（以下、「CCクラブ）」も、会員数800名を数えるに至っております。港区と共働連携している明治学院大学としても、こうした成果を大変喜ばしく思っております。また、私も、第1期から第16期までの17年間、CC大学統括コーディネーターとして、この大学に設置から関わり、地域リーダーの育成に携わってきたことを誇りに思います。

このたび「2023年度CCクラブ活動実態調査報告書」が公にされるにあたり、明治学院大学を代表して、この調査にかかわった皆さまにお礼と、調査報告書に対するコメントなどを述べさせていただきます。

まず、今回の調査を含めて4回の調査を主導された河合克義明治学院大学学長特別補佐・同大学名誉教授、帝京平成大学健康医療スポーツ学部石川由美准教授、および港区高輪地区総合支所、CCクラブ地域連携部会、ならびにCCクラブ会員の皆さまには、調査にご尽力とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、今回の調査では、CC大学修了生で地域活動をしている方の割合が約7割と、多くの修了生がCCクラブに所属して活動していることが分かります。活動の内訳としては、最も割合が高いものが「高齢者支援」で34.5%、次いで「町会・自治会活動」と「趣味・教養を生かした支援活動」がともに26.7%、「マンション管理組合、自治会活動」が23.0%、「地域防災」と「区民参加型の区の事業」がともに17.4%、「子育て支援」が14.2%、「障害者支援」と「知識・資格取得を通じた支援活動」がともに11.5%、「緑化・環境美化」が10.2%となっております。

また、区内4地区での「地区CCクラブ」（芝地区CCクラブ、地区CCクラブ明虹会、高輪地区CCクラブ、3Aクラブ）の活動も行われており、4地区の活動報告と情報交換を目的とした「地区CC会議」も年4回開催されるなど、独自に地区CCクラブ活動も活発に展開されていることは特筆に値します。

このように、今回の調査結果からは、地域社会において、CCクラブの会員の多くが、多様な活動を行い、地域コミュニティ活性化のリーダーとして活躍していることが明らかとなっております。CC大学開講から17年を経て、CC大学ひいてはCCクラブの大きな存在意義があったことの証左といえます。このことは、他区にない港区の大きな財産になっていると思います。

明治学院大学としても、CC大学にかかわっていくことに大きな自信を確信したところです。これからも、皆さまの活動をさらに支援できる環境の整備と、新たな学びの提供を模索したいと思います。とりわけ、CC大学での学びを活かしてCCクラブ会員として社会で活躍し、その経験をさらにブラッシュアップそして深化させられる新たな学びの仕組み（CC大学の上に〔仮称〕アドバンスコース）も現在検討しております。

今後ますます会員の皆さまが、地域コミュニティの育成と活性化の担い手として、元気に地域でご活躍されることを祈念いたします。

チャレンジコミュニティ・クラブ活動実態調査報告書の発行に 寄せて

明治学院大学副学長 黒田 美亜紀



チャレンジコミュニティ大学は、高齢期を迎えようとしている、あるいは迎えた世代の方々が、1年間の講義・体験学習・実地見学を基本とした学びを通し、これまで培ってきた知識や経験を生かして、コミュニティリーダーとして地域活性化に貢献することを目的としています。1年間の学びを終えた修了生の組織である「チャレンジコミュニティ・クラブ」では、すでに第1期生から第16期生までの800名超が、各方面において活躍しています。

この度、チャレンジコミュニティ・クラブの活動実態と課題を明らかにし、今後の活動の方向性を考えていく基礎資料を得るため、2023年に活動実態調査が実施されました。その調査結果からは、チャレンジコミュニティ大学での学びや交流が、新たな人間関係の形成や地域での繋がりの形成に大きな役割を果たしていることがみてとれます。他方で、今後の方向性として、チャレンジコミュニティ・クラブでもっと学びたい、もっと地域に貢献したいと考えている人も多いことが分かります。現状の活動では少し物足りない、もっとできるはずだと思っている人も多いと言えそうです。現在、大学が修了生向けに設置することを検討している（仮称）アドバンストコースは、まさにそうした欲求に応える場を提供することを目指すものであり、地域課題の解決や活動の深化に向け、積極的に活用していただきたいと思っております。

ところで、前回2018年の調査からの間に、わたしたちは新型コロナウイルスの世界的大流行に見舞われました。コロナ禍は、医療危機にとどまらず、社会経済的な危機でもあり、地域のコミュニティ活動にも大きな影響を与えました。そのことは、調査結果からも読みとれます。困難な状況下で、何とかして人との繋がりを維持しようと、また活動を存続させようと、オンラインツールの活用など工夫を凝らして対応してくださった修了生の方に敬意を表します。

2023年調査が行われた頃は、新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行されたばかりで、まだまだわたしたちは、意識的に、ときに無意識的に自分たちの行動を制約していたような時期だったと思います。この文章の執筆時にはそれから1年経っており、わたしたちは社会経済活動の回復を感じられるようになりました。コロナ禍を経て、今後、地域のコミュニティ活動のさらなる活性化に向け、本学もどのような役割を果たすことができるのか、皆さまと協議しながら考えていきたいと思っております。

最後に、2023年調査に関わってくださった方々、関係諸機関・団体に感謝申し上げます。今後、チャレンジコミュニティ・クラブがますます発展することを願うとともに、修了生の皆さまが自主的・主体的に地域コミュニティにおいて活躍してくださることを願っております。

活動実態調査報告書から思うこと

チャレンジコミュニティ・クラブ 代表 阿部 令子



はじめに、チャレンジコミュニティ・クラブの実態と活動に関する調査について、ご提案いただいた港区高輪地区総合支所様に心より感謝申し上げます。

また、実施に際しては協働推進課の皆様、港区社会福祉協議会、明治学院大学の皆様には、惜しみないご協力をいただきまして誠にありがとうございました。

CCクラブ会員の皆様にも、ご協力をいただき6割以上の返答がありました。その内容は、ご自身の活動の様子や日常生活の変化、また、CCクラブについての厳しいご意見や心温まる励ましのお言葉もあり、多くの会員の皆様にご協力をいただき、忌憚のないご意見をくださいましたことも嬉しく、改めてお礼申し上げます。

さまざまな意見をすくい上げ、調査結果を集計・分析していただきました帝京平成大学健康医療スポーツ学部 石川由美先生、河合克義先生、地域連携部会の皆様は、根気の要る作業を繰り返し、今回の調査報告書を作り上げてくださいました。ご尽力に、重ねて深く感謝申し上げます。

こうして、多くの皆様のご協力により編纂された調査報告書を手に取り、貴重なご意見を受け止めて、改めてCCクラブの意義について考えさせられました。

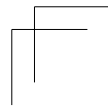
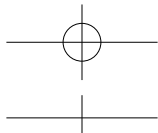
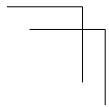
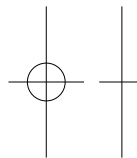
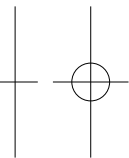
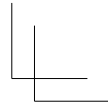
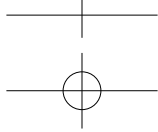
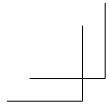
2008年3月に創設されたCCクラブは、毎年CC大学修了生が加入し、今や800名になろうとする大所帯です。先輩方のたゆまぬ努力のお陰で、しっかりとした組織が出来上がりCC大学を修了しても、希望すれば、引き続き繋がりを持ち、期やグループを超えた交流ができるCCクラブとなりました。

CCクラブの会員は、さまざまな場面で活躍しています。町会や自治会などの地域でのお役目だけでなく、特技を活かした地域貢献活動、港区社会福祉協議会や港区の関連施設でのボランティア活動など、自らの知識や資格、趣味を活かし、ご自身も楽しみながら活動しておられます。ここまで読んで、私は何もしてないと、気が引けておられるかもしれません。それでも、目の前にいる家族や友人の心を満たし笑顔にすることも立派な貢献です。中には、地域活動に貢献し、積極的に活動するリーダーを養成することが謳われているCC大学を修了したものの、現役でお仕事をなさっていたり、ご家族の介護であったりと、活動がままならない方も、また、残念ながら地域活動への熱意が失われた方も、おられるかもしれません。それでもなお、時間に余裕ができた場合や、興味を持ったCCクラブの活動が見つかった時には、誰もが気楽に復帰し、参加できるCCクラブでありたいと、さらには、地域で積極的に貢献活動をしている皆様に、陰ながら支えるCCクラブでありたいと、願っています。

またCCクラブは、その成り立ちを考えると「古い」の問題と向き合わざるを得ません。その大問題に対しても、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックに素早く対応し、対策を練ったように、新しい知識や技術を取り入れながら柔軟に対応し、その時に、でき得る何かを見つけられる頼もしいCCクラブであり続けるのが理想と考えました。

その為には、より多くの会員に関わりを持ち続けていただくことが肝要です。この調査報告書が、皆様にとっても「自分にとってのCCクラブとは？」と考えるきっかけとなりましたら幸いです。

チャレンジコミュニティ・クラブの
活動実態調査報告書
—地域における学びと活動のあり方—



はじめに 一楽しみ・学びながら港区・全国の地域づくりに新しい風を

河合 克義（明治学院大学学長特別補佐・名誉教授）

「チャレンジコミュニティ大学」（CC大学）は、2007年度に開校しました。本年、2024年度は17期生が入学しています。1学年の入学生は60人ですから、CC大学17年で1000人を超える受講生がいることとなります。CC大学の修了生組織として「チャレンジコミュニティ・クラブ」（CCクラブ）が翌年2008年に発足しました。CCクラブも今年で16年目となります。その会員数はいま800人を超えようとしています。いまや、住民の地域組織としては、他の地域では例の少ない大きな組織となりました。

CC大学がスタートした当時の港区の状況を振り返ると、まず港区は日本でもトップレベルの豊かな地域と言われていました。ところが高齢者の孤立の点から見ると、港区は全国でも深刻な問題を抱える地域でもあったのです。私が国勢調査のデータを再集計して見えてきたことを紹介します。

孤立問題の深刻さということではひとり暮らし高齢者に問題が発生しやすいことはよく指摘されています。そこで国勢調査のデータを再集計し、ひとり暮らし高齢者出現率（高齢者のいる世帯中のひとり暮らし高齢者の割合）から、全国の地方自治体の中での港区の位置を見てみましょう。港区のひとり暮らし高齢者出現率は、全自治体の中で割合の高い方から見ると、1995年には123位でした。2000年は37位、2005年には13位で、この時、港区は東京都下で島嶼部をのぞいて第1位となっていました。チャレンジコミュニティ大学を設置しようという議論をした背景にはこの当時の状況が背景にありました。港区でも一人で亡くなって何日も発見されない「孤独死」が発生しました。他方、地域のつながりの希薄化も進行しました。町内会・自治会活動のあり方も問われた時期です。

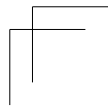
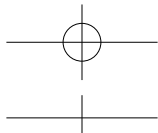
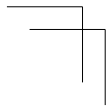
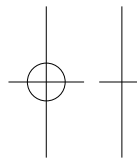
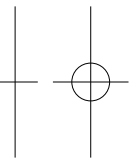
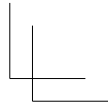
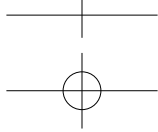
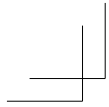
その後、港区はタワーマンションが建設され、人口増の傾向となり、夫婦世帯の高齢者も増えたことから、港区のひとり暮らし高齢者出現率は、相対的に下がり、2015年には全国の中で53位になりました。しかし最近はまだ高齢者世帯の単身化が進み、2020年の国勢調査結果で見ると港区は41位と上昇してきていますし、また、区の調査によれば実質の単身高齢者はこの1年で約1000人増え、9000人を超えました。

高齢者の孤立問題だけではなく、港区民の地域のつながりの希薄化も、これからの大きな課題となると思います。

CCクラブとしては、4回目の会員の活動実態調査を実施し、いま、報告書を発行することになりました。CCクラブの会員が自ら調査票を設計し、実施・集計・分析・報告書の作成をしました。私たち研究者は、側面から専門的技術援助をしたに過ぎません。

さて、いま800人を超えようとする地域組織としてのCCクラブは、日本の地域活動の事例としては、外に例を見ない先進的なものです。高齢期になって、新たに地域で多くの知り合い・友だちができることは、大変な喜びとなっています。楽しみ・学びながら、地域に埋もれている課題に多方面から接近する活動がこの港区で展開されているのです。

CCクラブの今後の活動に期待し、私もCCクラブと共に歩みたいと思います。



1 調査の概要

(1) 調査の名称

調査の名称は、「チャレンジコミュニティ・クラブ 2023 年活動実態調査」である。

(2) 調査主体

調査の主体は、港区高輪総合支所とチャレンジコミュニティ・クラブ（以下、「CCクラブ」と略す。）である。ただし、調査の設計、調査結果の集計・分析については、港区高輪地区総合支所、CCクラブ地域連携部会、明治学院大学学長室、明治学院大学名誉教授・学長特別補佐・CCクラブ顧問の河合克義、帝京平成大学健康医療スポーツ学部准教授の石川由美が共同で行った。

なお、調査データの集計ソフトへの取り込み、データチェック、基本データの出力、クロス集計等は河合克義と石川由美が行った。

(3) 調査の目的と経過

本調査の目的は、CCクラブの活動実態と課題を明らかにし、今後のCCクラブ活動の方向性を考える基礎資料を得ることにある。

CCクラブは、2008年3月にチャレンジコミュニティ大学（以下、「CC大学」と略す。）を修了した第1期生が自主的に創設した組織である。CCクラブの活動は今年で16年の歴史をもつ。

2023年現在でCCクラブの会員数は約750名となっている。CC大学の修了者は約850名いるが、区外への引越あるいは諸事情で退会された方がおり、この会員数となっている。

地域の地域活動組織としては、他に例を見ない規模と言える。

CCクラブは、2018年に会員の生活実態と活動内容の調査を行っている。報告書は『東京都港区チャレンジコミュニティ・クラブの実態と活動に関する調査報告書』として2019年7月にCCクラブから発行した。それから5年が経過し、会員としてCC大学12期生から15期生を迎え、会員数は161名増加している。

CC大学修了後、多くの会員が地域の中で多様な活動を展開しているが、特にこの3年間は新型コロナウイルス禍があり、CCクラブ会員の生活と活動にはいろいろな変化が見られた。会員の活動においても、対面活動や会議が制限され、いろいろな困難に直面していた。そうした状況下、CCクラブとして、実態把握が必要であることを痛感していた。そのなかで港区高輪地区総合支所からの調査の提案があり、今回の調査が実現した。港区高輪地区総合支所に心から感謝申し上げたい。

(4) 調査対象

調査対象は、2023年6月1日現在のCCクラブ会員753名である。

(5) 調査時点及び期間

調査時点は2023年6月1日現在であり、調査期間は2023年6月1日から2023年7月11日までである。

(6) 調査の方法

本調査は、郵送調査である。全会員に返信用封筒を同封し、調査票を回収した。

(7) 回収数及び回収率

本調査の回収総数は480ケース、回収率は63.7%、有効回収数は471ケース、有効回収率は62.5%である。

(8) 執筆分担

本報告書の執筆者は以下の通りである。

- ① 「調査の概要」 明治学院大学名誉教授河合克義
- ② 「調査の結果－基本集計」
帝京平成大学健康医療スポーツ学部准教授石川由美
- ③ 「コロナ禍で現在もできていないことに関する自由回答の内容」 地域連携部会
- ④ 「行政、社会福祉協議会、港区の関連団体、CCクラブなどに関する自由回答の内容」 帝京平成大学健康医療スポーツ学部准教授石川由美
- ⑤ 「調査の結果－クロス集計」 帝京平成大学健康医療スポーツ学部准教授石川由美
- ⑥ 2023年活動実態調査から見えてきたこと～2018年調査と比較して 地域連携部会
- ⑦ おわりにー地域における学びと活動のあるべき方向性を求めて
地域連携部会長 金原智子

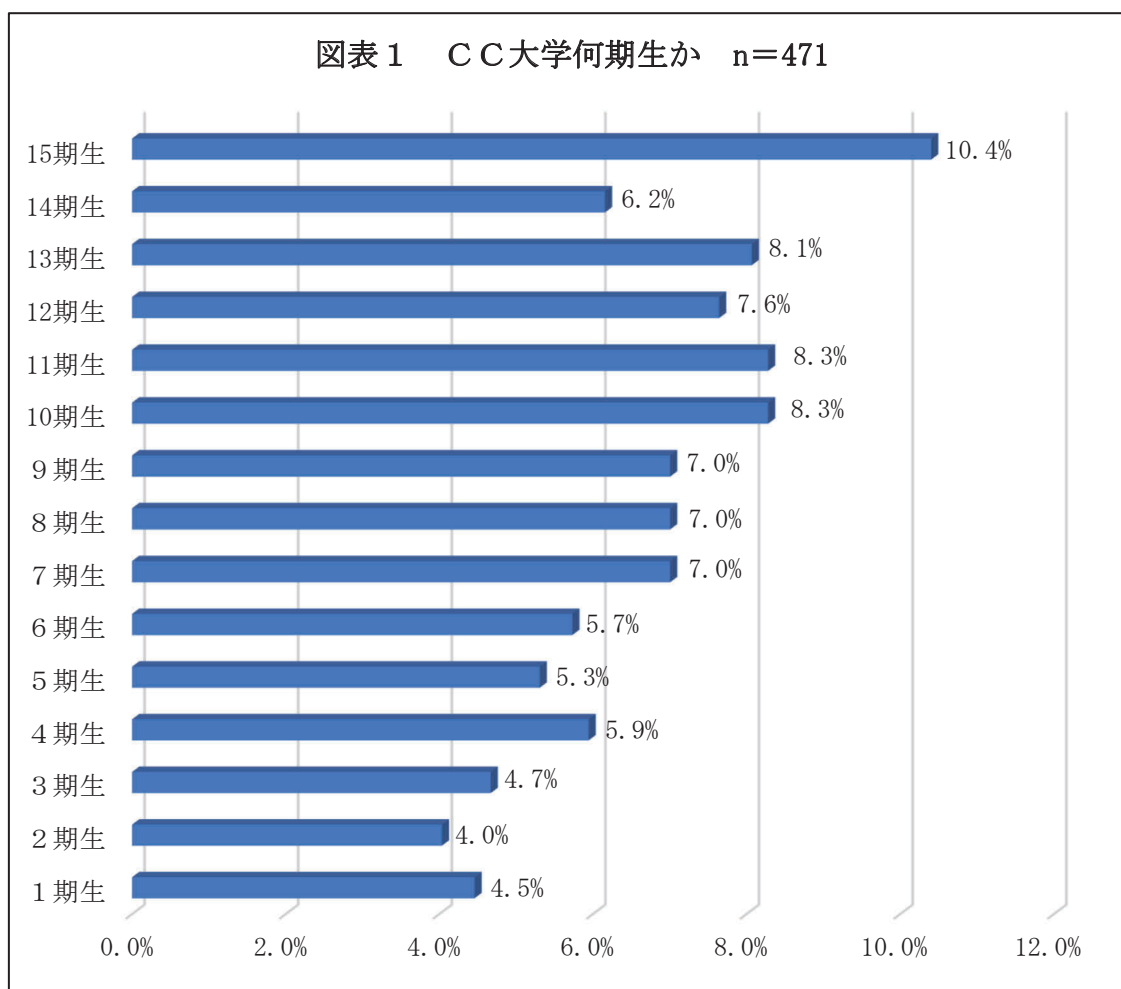
なお、CCクラブ17年の歩みは、地域連携部会員 太田則義がまとめた。

2 調査の結果 基本集計

ここでは、本調査で回収された471ケースの基本集計結果を概観する。

(1) CC大学何期生か

本調査の対象は、CC大学の1期生から15期生までである。回収された調査票の各期の分布は、図表1の通りである。15期生が10.4%と最も割合が高く、ついで10期生と11期生がともに8.3%、13期生が8.1%、12期生が7.6%となっている。7期生、8期生、9期生はいずれも7.0%、14期生は6.2%であった。4期生、5期生、6期生は5%台、1期生、2期生、3期生は4%台であった。

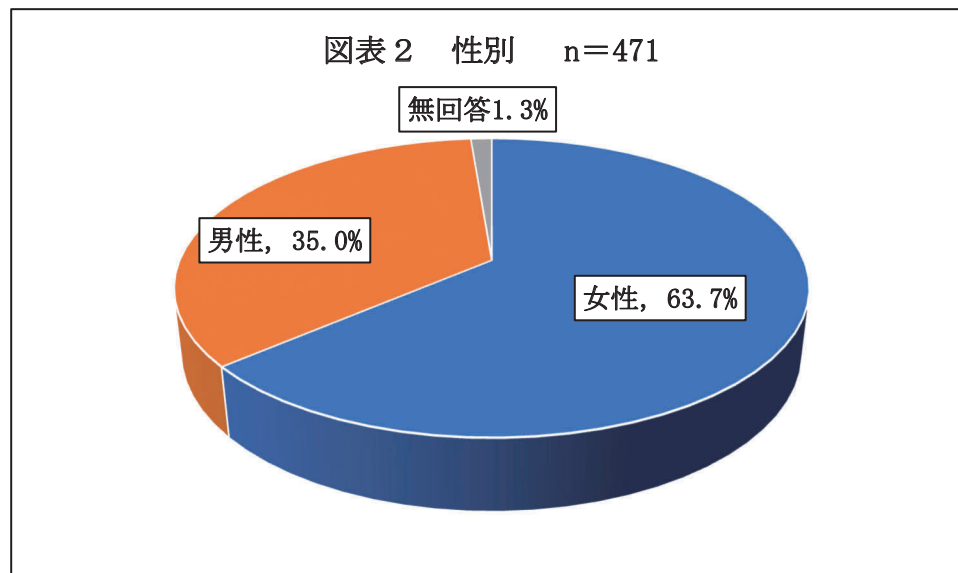


(2) 性別、年齢

①性別

性別は、女性が63.7%、男性が35.0%であった(図表2)。このように回答者の約6割は女性であった。なお、今回の調査対象者(調査母数)753名の性別を見ると、女性が

503名、66.8%、男性が250名、33.2%となっている。母数でも女性の割合が高い。

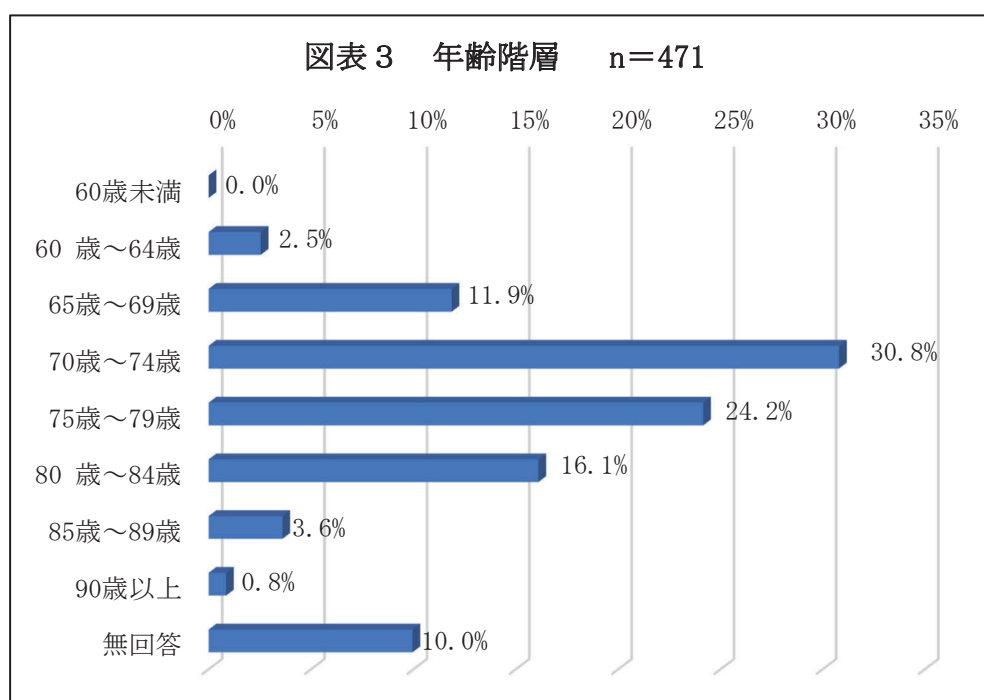


②年齢

年齢は最低年齢が、60歳、最高年齢が92歳であった。平均年齢は75歳である。

各年代別に集計した図3を見ると、「70歳～74歳」が最も高く30.8%を占め、次いで「75歳～79歳」が24.2%であり、70歳代を合計すると55.0%で全体の5割を占めている。

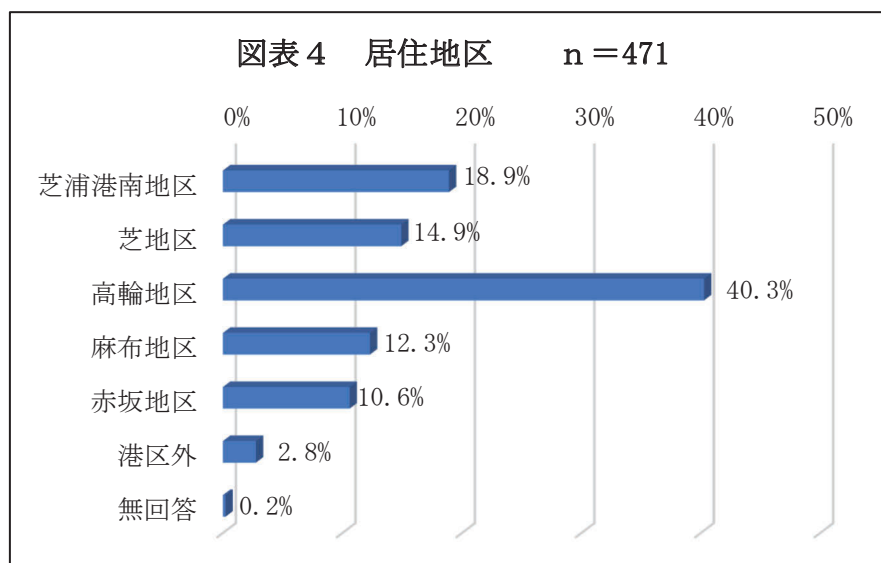
一方、「80歳～84歳」は16.1%となっている。80歳以上を合計すると20.5%と全体の約2割を占めている。



(3) 居住地区

港区は、行政区として5つの地区に分けている。その5地区ごとにCCクラブ会員が居住している地区を見ると、「高輪地区」が40.3%と最も割合が高い。次いで「芝浦港南地区」が18.9%、「芝地区」が14.9%、「麻布地区」が12.3%、「赤坂地区」が10.6%となっている（図表4）

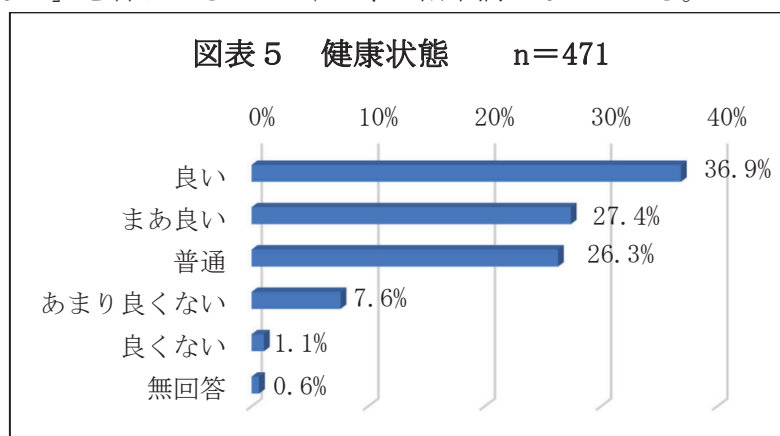
高輪地区にCCクラブ会員が多いのは、CC大学が明治学院大学において開講されており、大学が地理的に近いことが理由のひとつであろう。なお、CC大学を修了後、港区外に転居したCCクラブ会員が2.8%いる。



(4) 健康状態

健康状態は、社会活動、地域活動または外出の前提として重要な要素である。図表5は、CCクラブ会員の健康状態を見たものである。

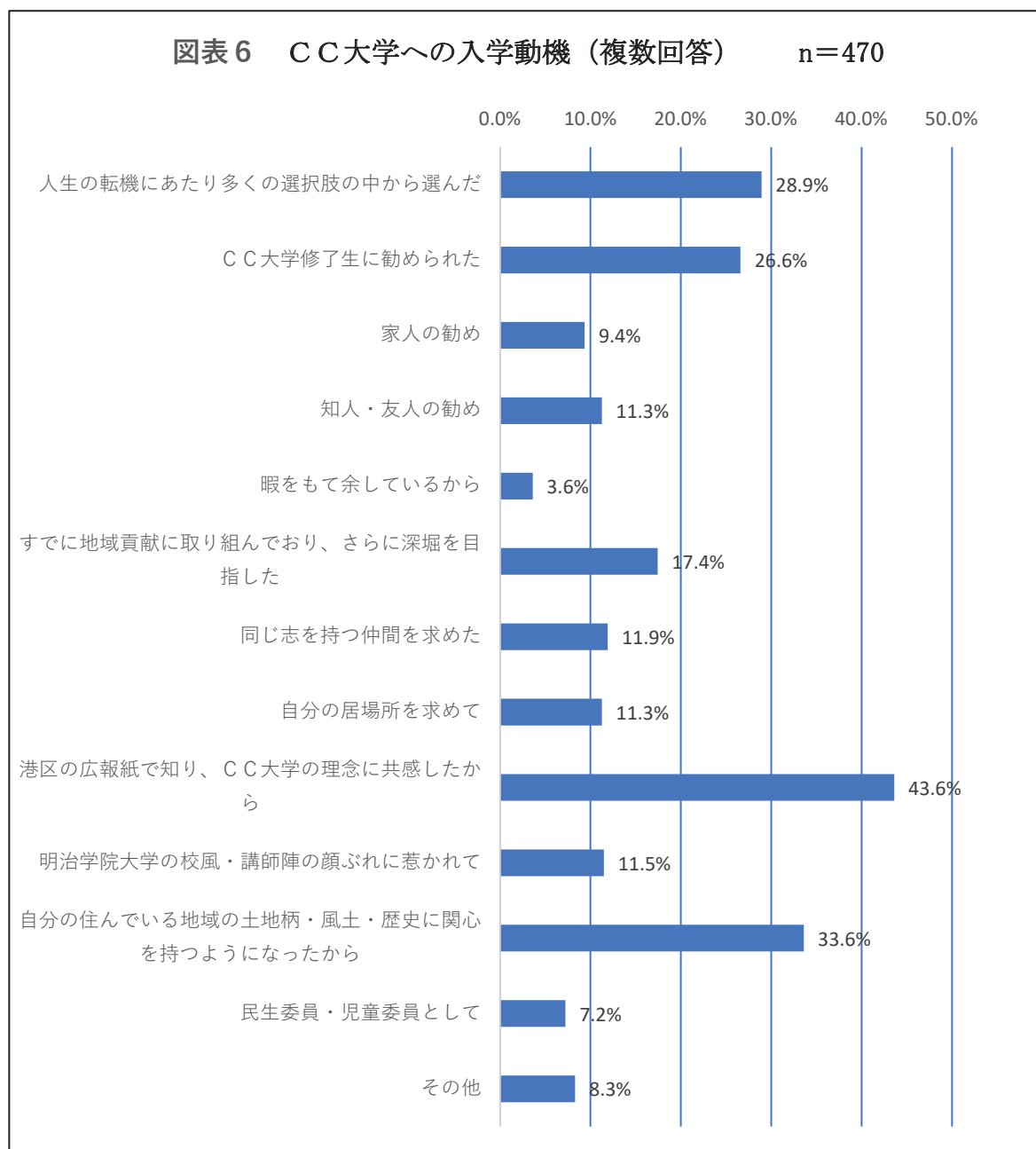
「良い」が36.9%、「まあ良い」が27.4%となっている。この2つを合わせると64.3%と全体の約6割を占めており、大半が健康状態を良いと感じている。他方、「あまり良くない」と「良くない」を合わせると8.7%で、1割未満となっている。



(5) CC大学への入学動機

図表6は、CC大学への入学動機（複数回答）を見たものである。全体のケース数は470で、それに対する割合を項目ごとに示した。

最も割合が高いのは、「港区の広報紙で知り、CC大学の理念に共感したから」が43.6%、次いで、「自分の住んでいる地域の土地柄・風土・歴史に関心を持つようになったから」が33.6%、「人生の転機にあたり多くの選択肢の中から選んだ」が28.9%、「CC大学修了生に勧められた」が、26.6%、そして、「すでに地域貢献に取り組んでおり、さらに深堀を目指した」が17.4%となっている。これ以外の項目は概ね10%前後の割合であった。

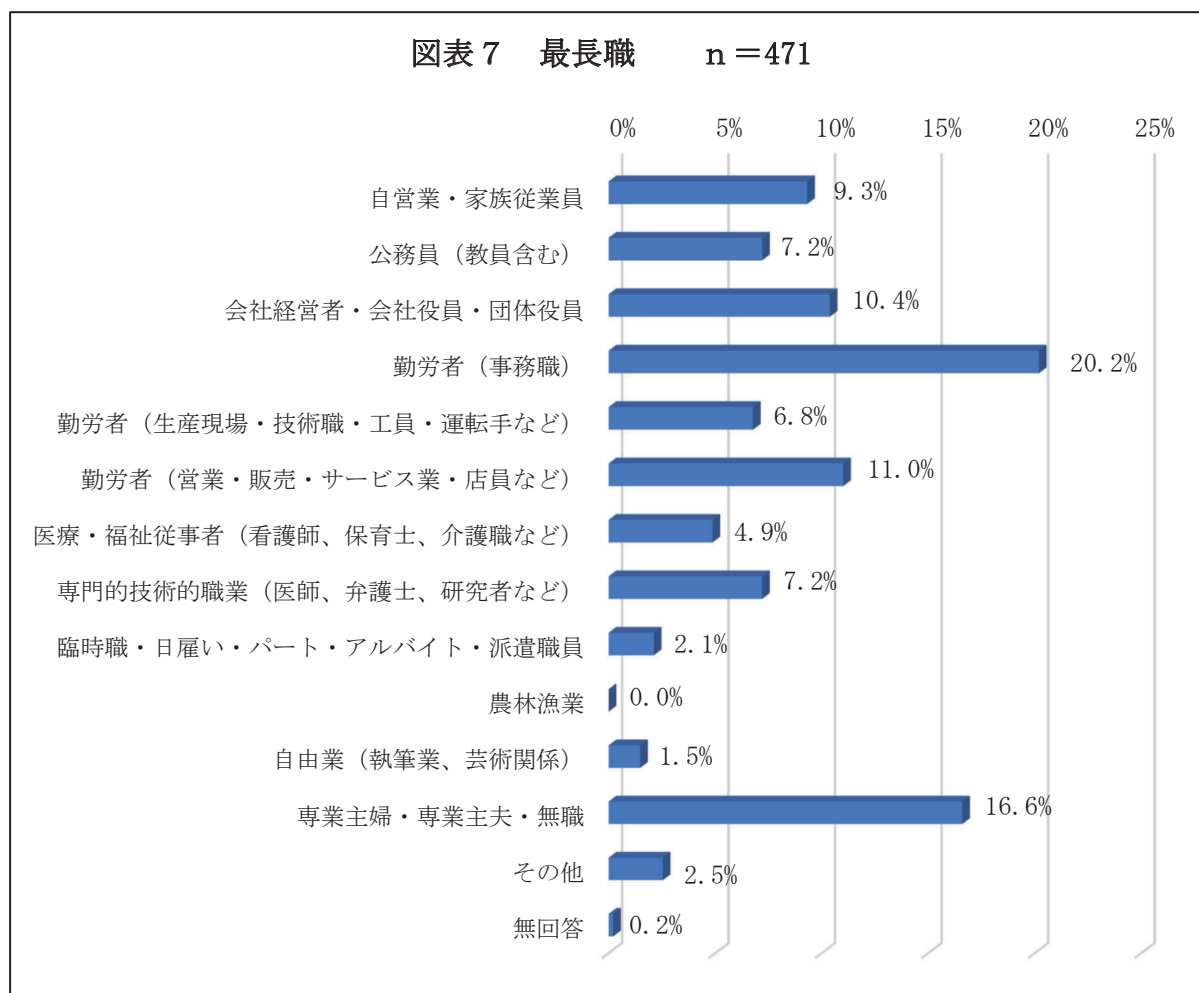


(6) 最長職

最長職すなわち生涯の中で一番長くしていた職業については(図表7)、最も割合が高いものは、「勤労者(事務職)」で20.2%を占めている。次いで、「勤労者(営業・販売・サービス業・店員など)」が11.0%、「会社経営者・会社役員・団体役員」が10.4%、「自営業・家族従業員」が9.3%と、それぞれ10%前後であった。

その他、「公務員(教員含む)」と「専門的技術的職業(医師、弁護士、研究者など)」がともに7.2%、「勤労者(生産現場・技術職・工員・運転手など)」が6.8%、「医療・福祉従事者(看護師、保育士、介護職など)」が4.9%であった。

なお、「専業主婦・専業主夫、無職」は16.6%である。



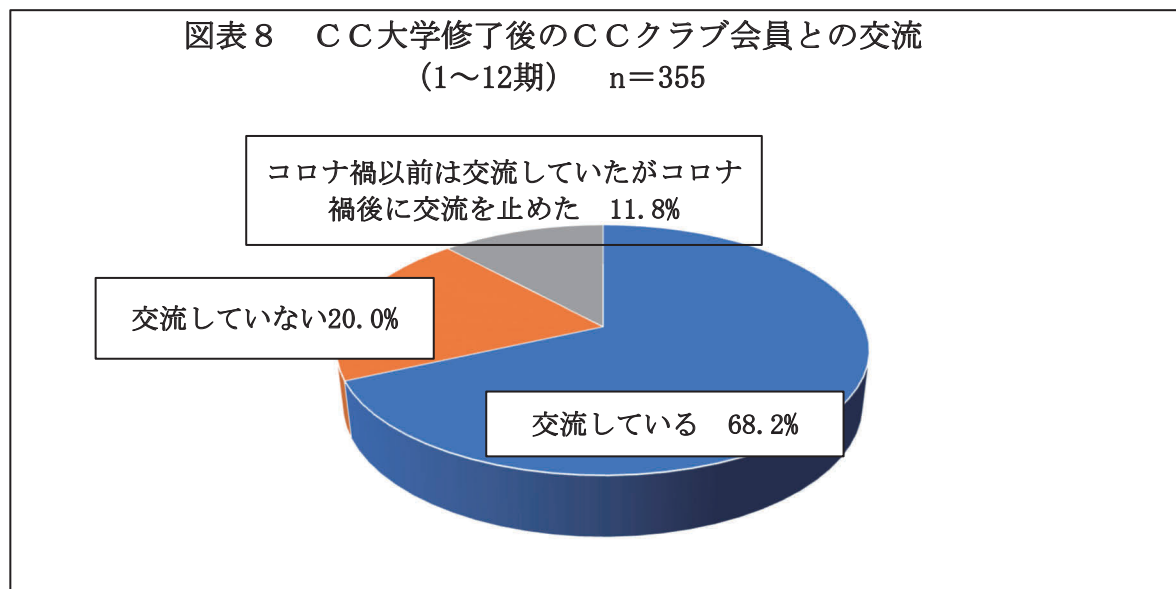
(7) CC大学修了後の状況について(1期生~12期生)

(7)の①~⑤は、コロナ禍以前にCC大学に修了した1期生~12期生に対して、CC大学修了後の状況について尋ねたものである。

① CCクラブ会員との交流

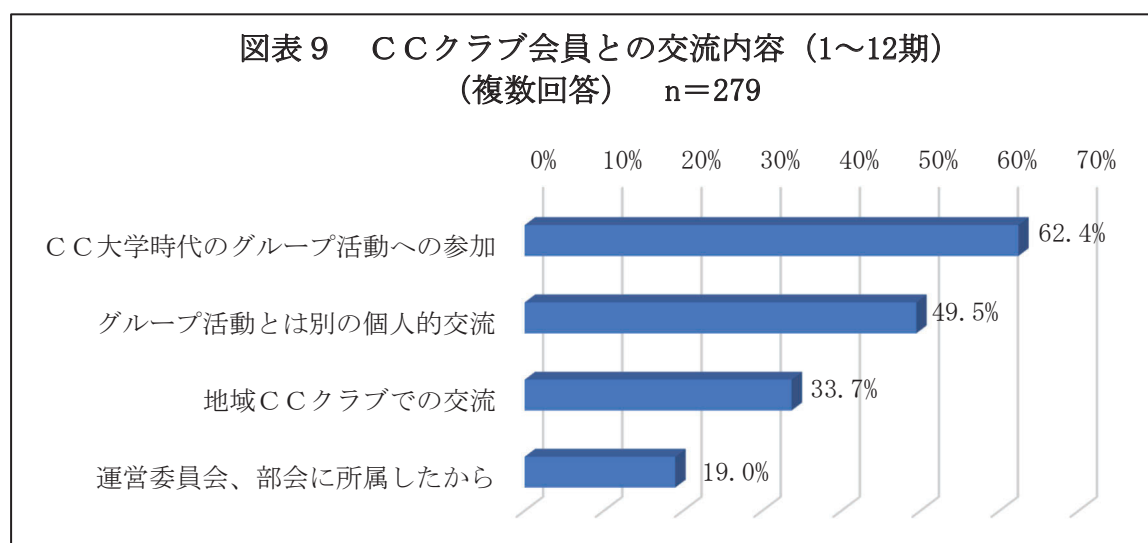
この設問は、CC大学修了後に、CCクラブ会員と交流しているかどうかを尋ねたものである。図表8のとおり、「交流している」が68.2%、「交流していない」が20.0%であっ

た。「コロナ禍以前は交流していたがコロナ禍後に交流を止めた」は 11.8%で、コロナ禍の影響が見られる。



② CCクラブ会員との交流内容

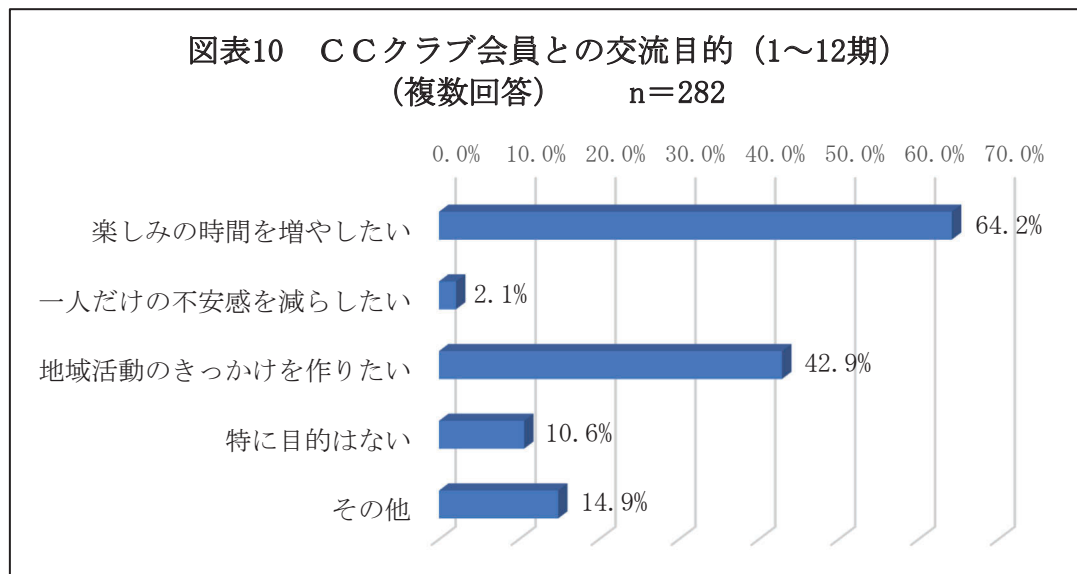
図表9は、CCクラブ会員と交流している人に尋ねた質問で、交流の内容を答えてもらったものである（複数回答）。最も割合が高いものは、「CC大学時代のグループ活動への参加」で 62.4%を占めている。次いで、「グループ活動とは別の個人的交流」が 49.5%、「地域CCクラブでの交流」が 33.7%、「運営委員会、部会に属したから」が 19.0%となっている。



③ CCクラブ会員との交流目的

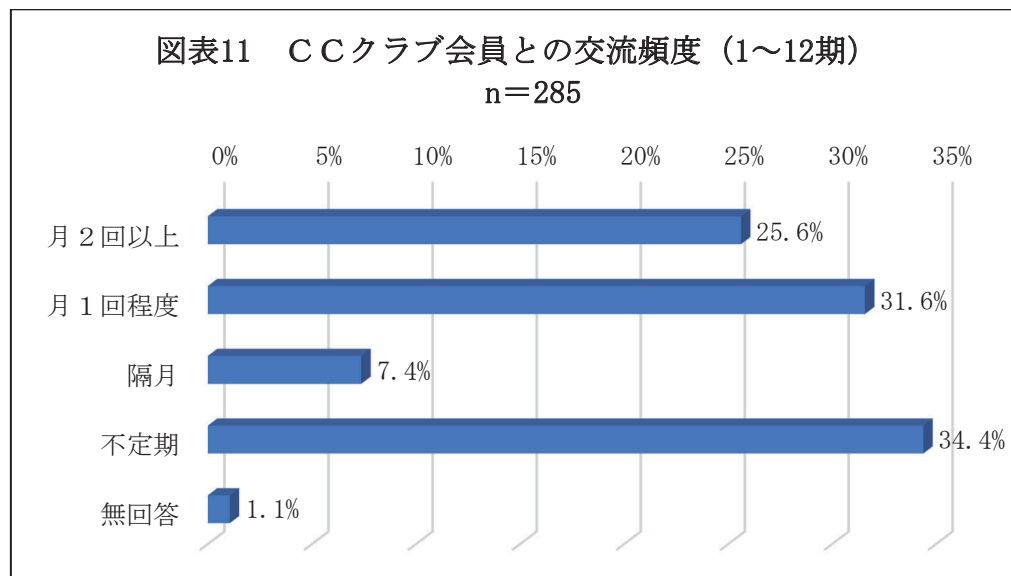
CCクラブ会員との交流目的については（図表10、複数回答）、「楽しみの時間を増やし

たい」が64.2%と最も割合が高く、次いで「地域活動のきっかけを作りたい」が42.9%となっている。「特に目的はない」が10.6%、「一人だけの不安感を減らしたい」が2.1%であった。



④ CCクラブ会員との交流頻度

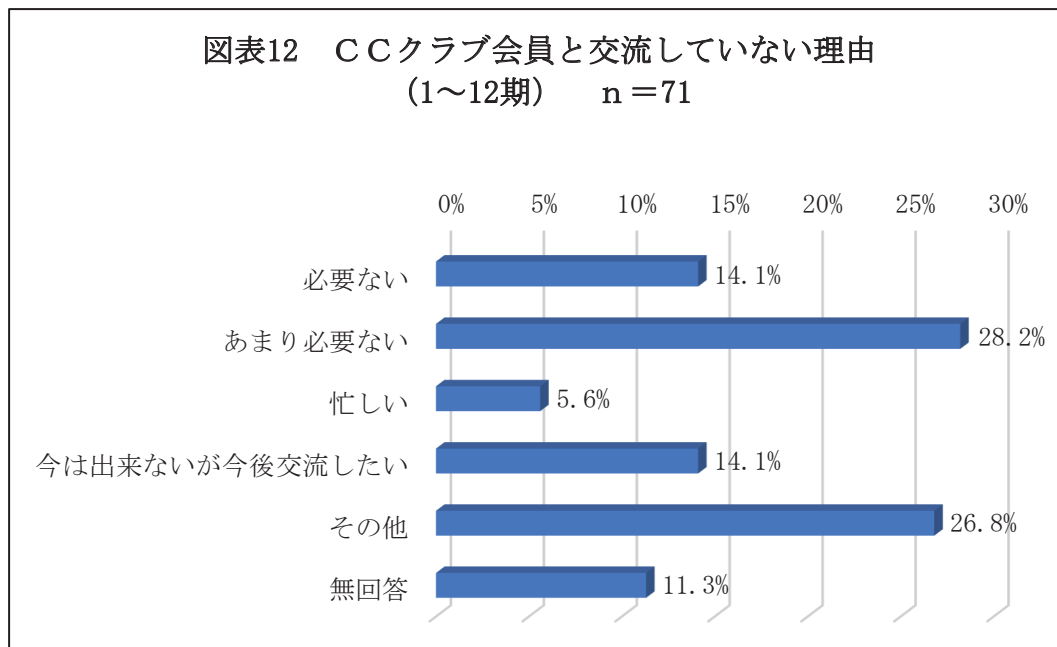
CCクラブ会員との交流の頻度については（図表11）、「不定期」が34.4%と最も割合が高く、次いで「月1回程度」が31.6%、「月2回以上」が25.6%、「隔月」が7.4%であった。



⑤ CCクラブ会員との交流がない理由

CCクラブ会員との交流がない71人に、その理由を尋ねた（図表12）。「あまり必要ない」が28.2%、「その他」が26.8%、「必要ない」と「今は出来ないが今後交流したい」が

ともに14.1%、「忙しい」が5.6%であった。

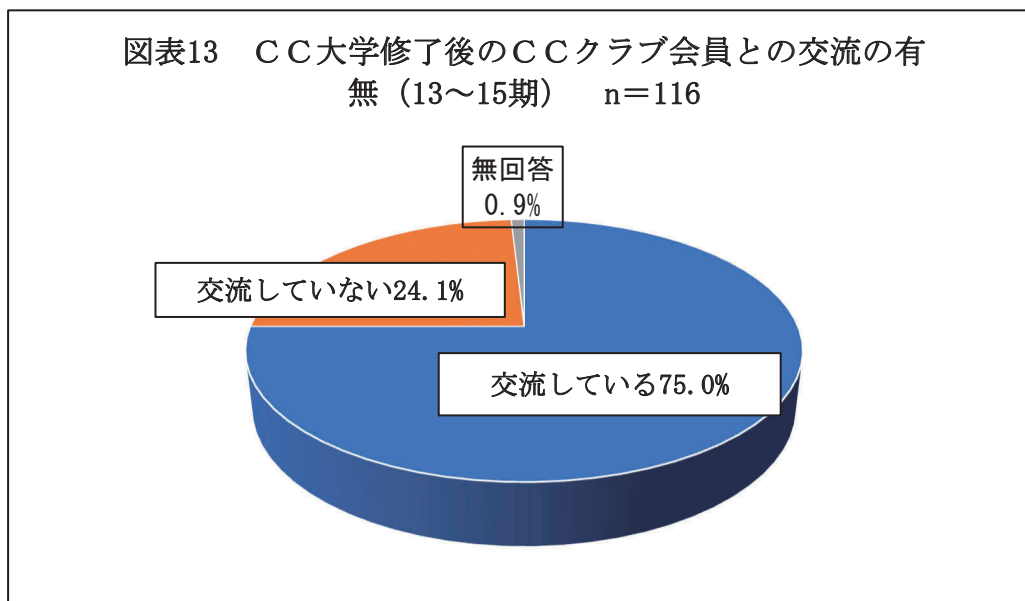


(8) CC大学修了後の状況 (13期生～15期生)

(8) ①～⑤は、コロナ禍以降にCC大学に修了した13期生～15期生に対して、CC大学修了後の状況について尋ねたものである。

①CCクラブ会員との交流

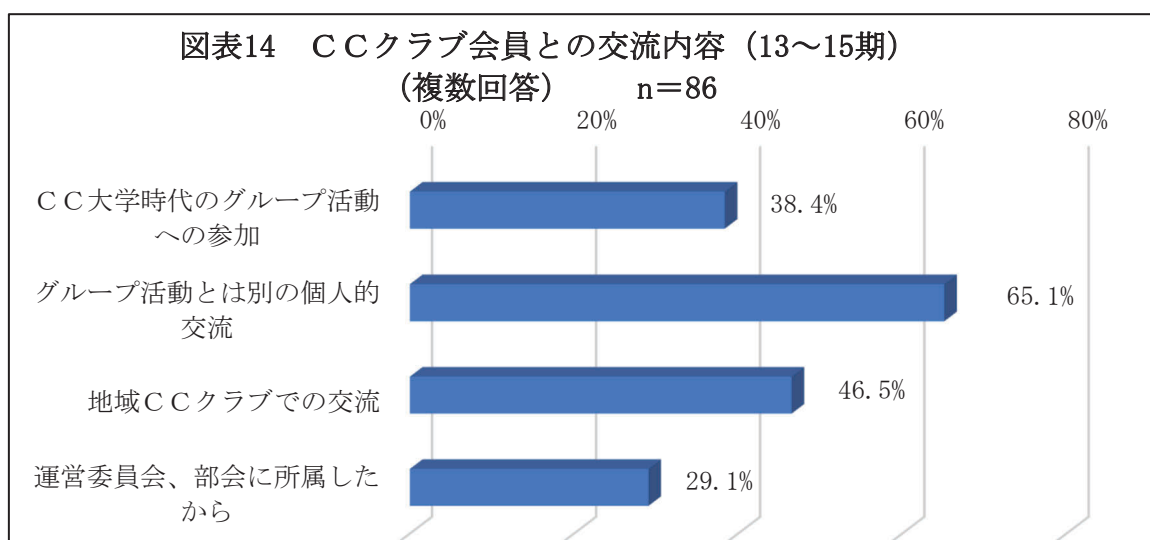
この設問は、CC大学修了後に、CCクラブ会員と交流しているかどうかを尋ねたものである。図表13のとおり、「交流している」が75.0%、「交流していない」が24.1%であった。



② CCクラブ会員との交流内容

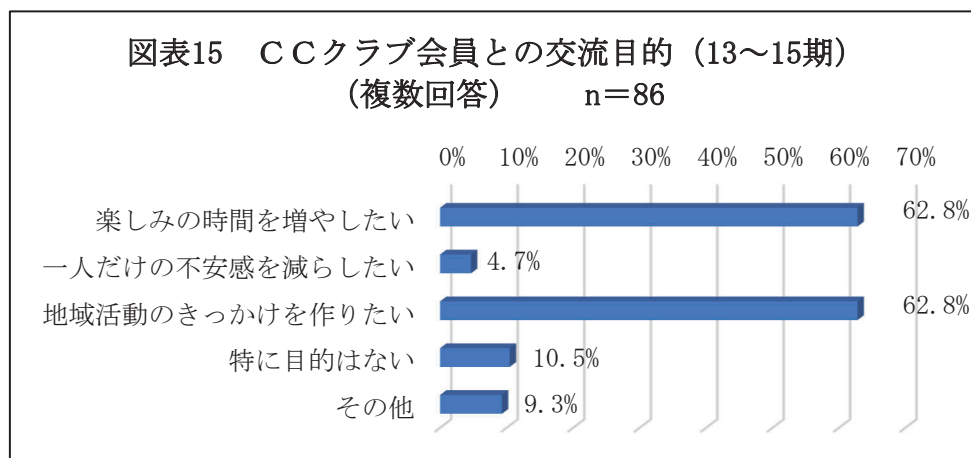
図表 14 は、CCクラブ会員と交流している人に尋ねた質問で、交流の内容を答えてもらったものである（複数回答）。最も割合が高いものは、「グループ活動とは別の個人的交流」で65.1%を占めている。次いで、「地域CCクラブでの交流」が46.5%、「CC大学時代のグループ活動への参加」が38.4%、「運営委員会、部会に所属したから」が29.1%となっている。

1期から12期については、最も割合が高いものが「CC大学時代のグループ活動への参加」の62.4%であったが、13期～15期では「グループ活動とは別の個人的交流」が65.1%であり、交流内容の傾向に変化が見られる。



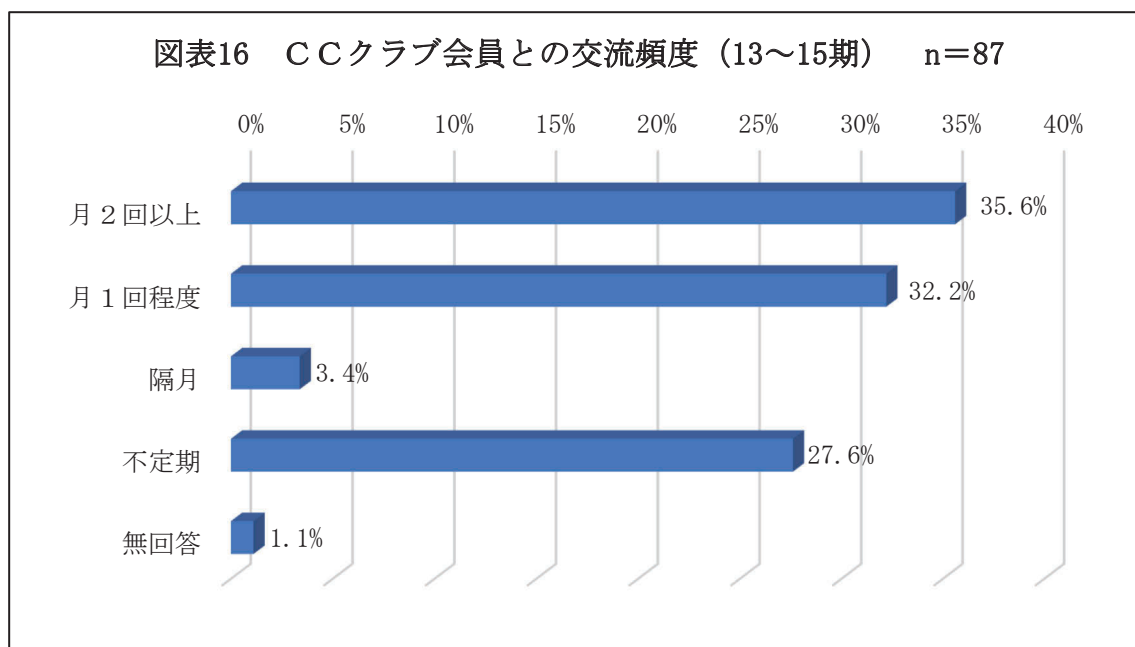
③ CCクラブ会員との交流目的

CCクラブ会員との交流目的については（図表 15、複数回答）、「楽しみの時間を増やしたい」と「地域活動のきっかけを作りたい」がともに62.8%で最も割合が高く、「特に目的はない」が10.5%、「一人だけの不安感を減らしたい」が4.7%であった。



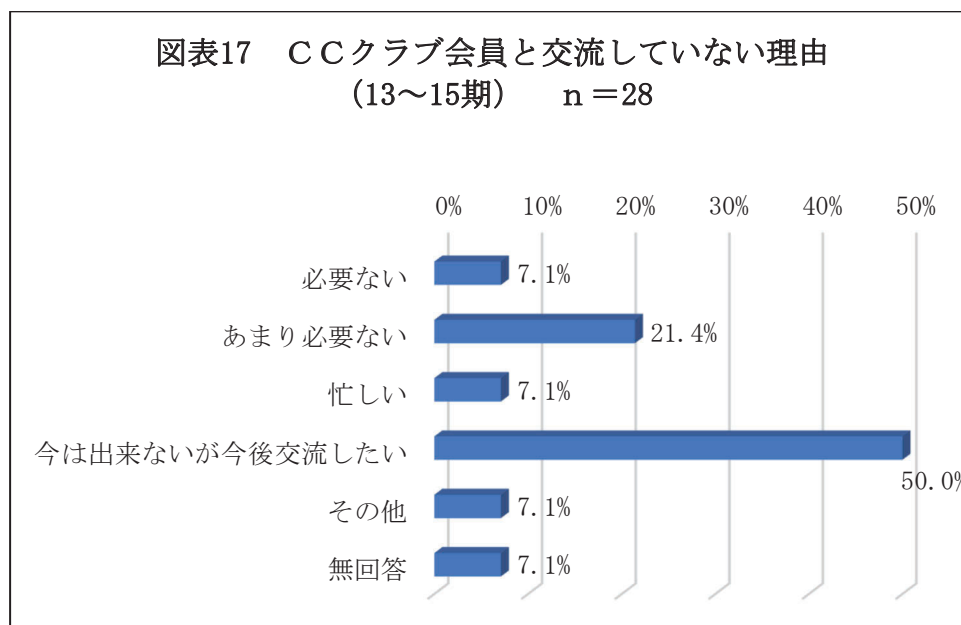
④ CCクラブ会員との交流頻度

CCクラブ会員との交流の頻度については(図表16)、「月2回以上」が35.6%と最も割合が高く、次いで「月1回程度」が32.2%、「不定期」が27.6%、「隔月」が3.4%であった。



⑤ CCクラブ会員との交流がない理由

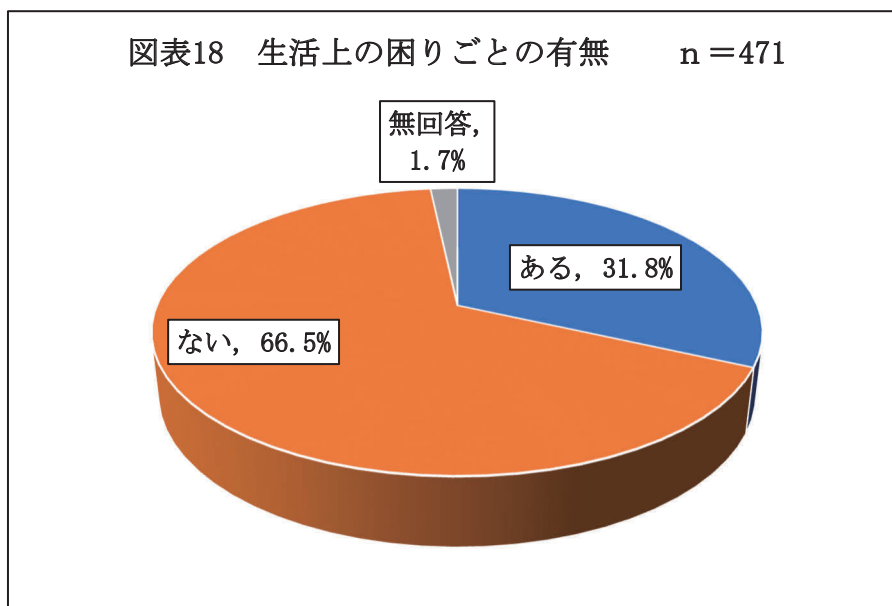
CCクラブ会員との交流がない28人に、その理由を尋ねた(図表17)。「今は出来ないが今後交流したい」が50.0%と最も割合が高かった。次いで、「あまり必要ない」が21.4%、「必要ない」と「忙しい」がともに7.1%であった。



(9) 生活上の困りごと
 (ここから 1~15 期全員への質問に戻ります)

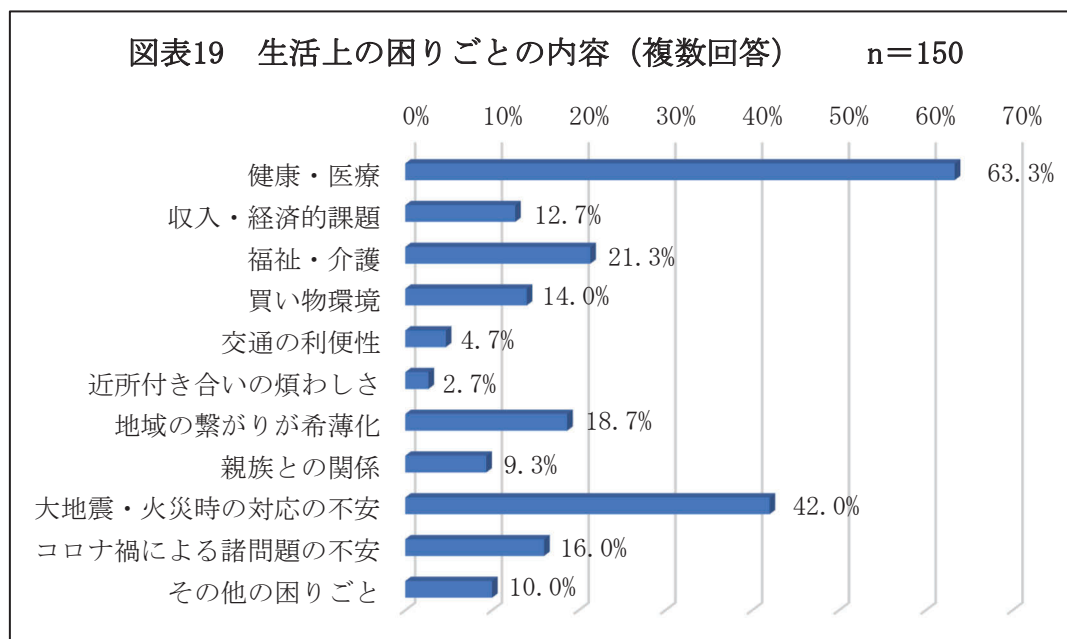
①生活上の困りごとの有無

生活上の困りごとについては (図表 18)、「ない」が 66.5%、「ある」が 31.8%であった。



②生活上の困りごとの内容

生活上の困りごとがあると答えた人に、その内容を尋ねた (図表 19、複数回答)。最も割合が高いものは、「健康・医療」で 63.3%を占めている。次いで「大地震・火災時の対応の不安」が 42.0%、「福祉・介護」が 21.3%、「地域の繋がりが希薄化」が 18.7%、「買い物環境」が 14.0%であった。また、「コロナ禍による諸問題の不安」は 16.0%であった。



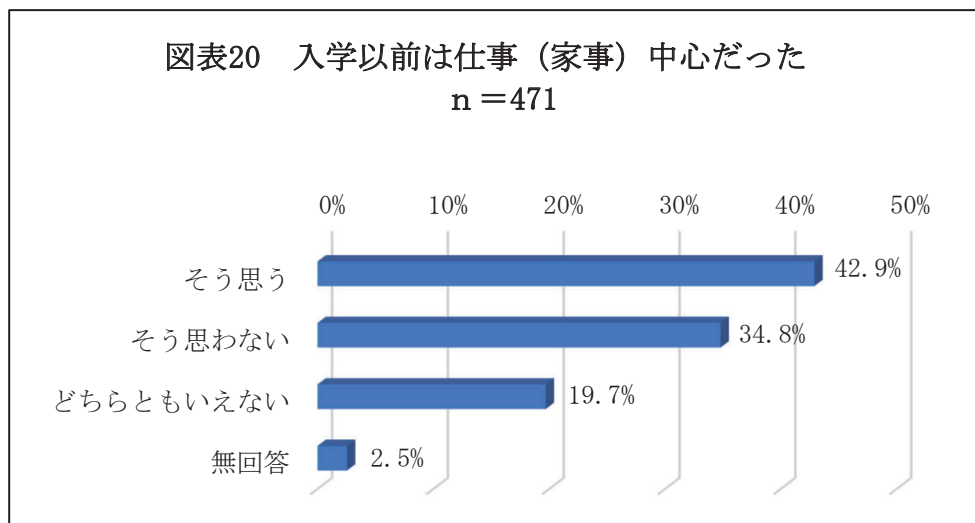
(10) CC大学入学以前と以降の意識について

CC大学入学以前と以降の意識について、次の10項目について尋ねた。

①入学前は仕事（家事）中心だったかどうか

まず、入学前は仕事（家事）中心であったかどうかの意識を尋ねた（図表20）。

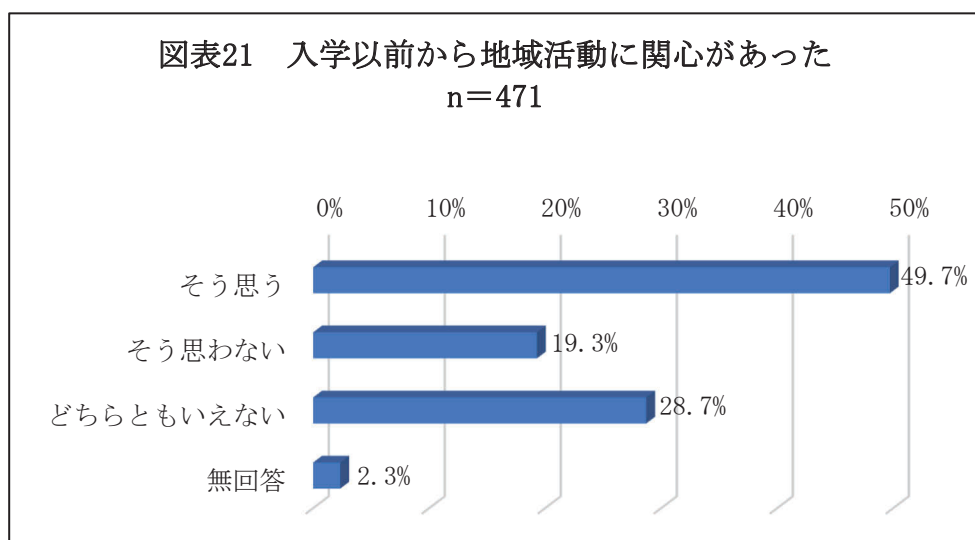
「そう思う」が42.9%、「そう思わない」が34.8%、「どちらともいえない」が19.7%となっている。



②入学以前から地域活動に関心があったかどうか

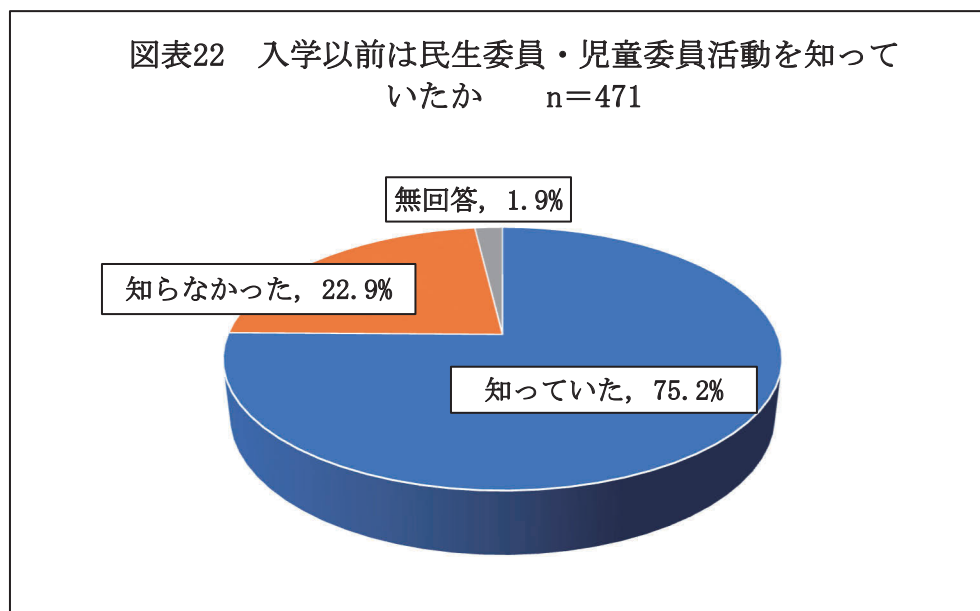
入学以前から地域活動に関心があったかどうかについては（図表21）、「そう思う」が49.7%となっている。他方、「そう思わない」が19.3%、「どちらともいえない」が28.7%であった。

入学以前から地域活動に関心があった人が全体のほぼ半数を占めており、地域活動への意識が高い人が多い。



③入学以前に民生委員・児童委員活動を知っていたかどうか

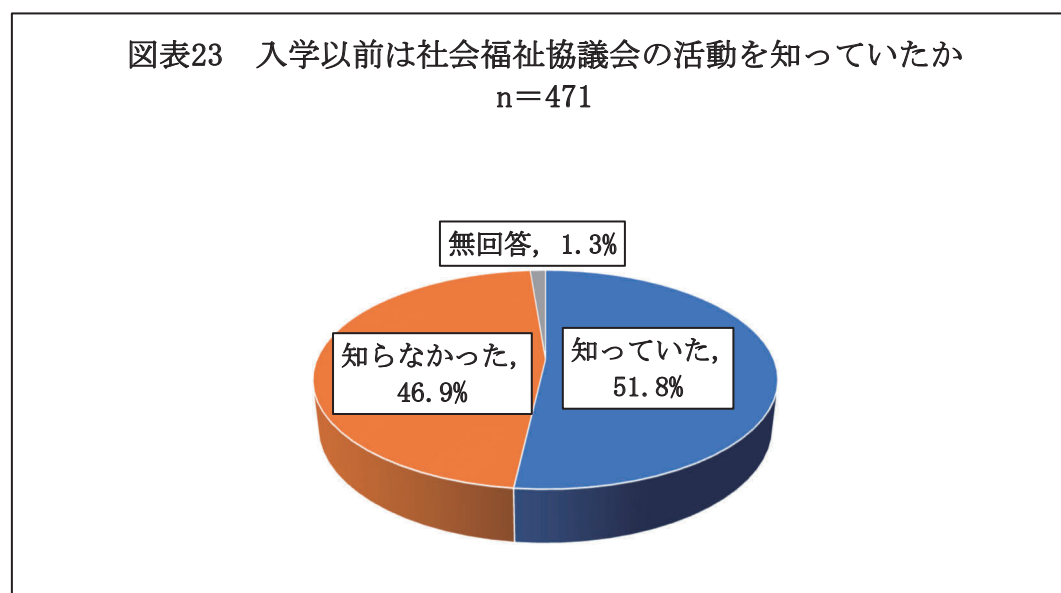
入学以前に民生委員・児童委員活動を知っていたかどうかについては（図表22）、「知っていた」が75.2%、「知らなかった」が22.9%であった。民生委員・児童委員活動を知っていた人が7割を超えている。



④入学以前は社会福祉協議会の活動を知っていたかどうか

入学以前に社会福祉協議会の活動を知っていたかどうかについては（図表23）、「知っていた」が51.8%、「知らなかった」が46.9%であった。

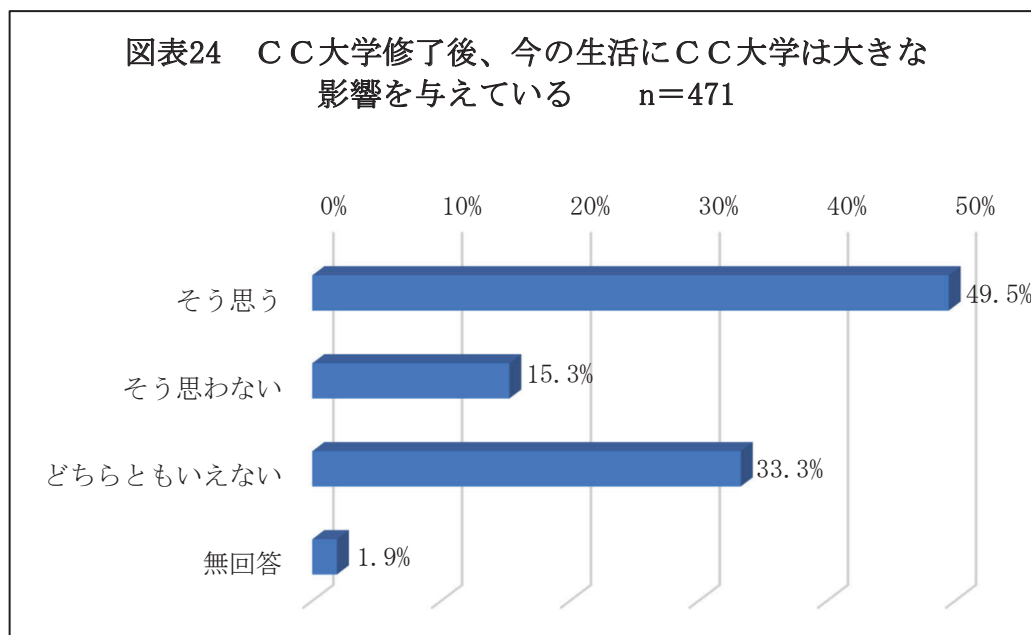
民生委員・児童委員活動よりは社会福祉協議会活動の認知度が低いですが、それでも5割を超えている。



⑤CC大学修了後、今の生活にCC大学は大きな影響を与えているかどうか

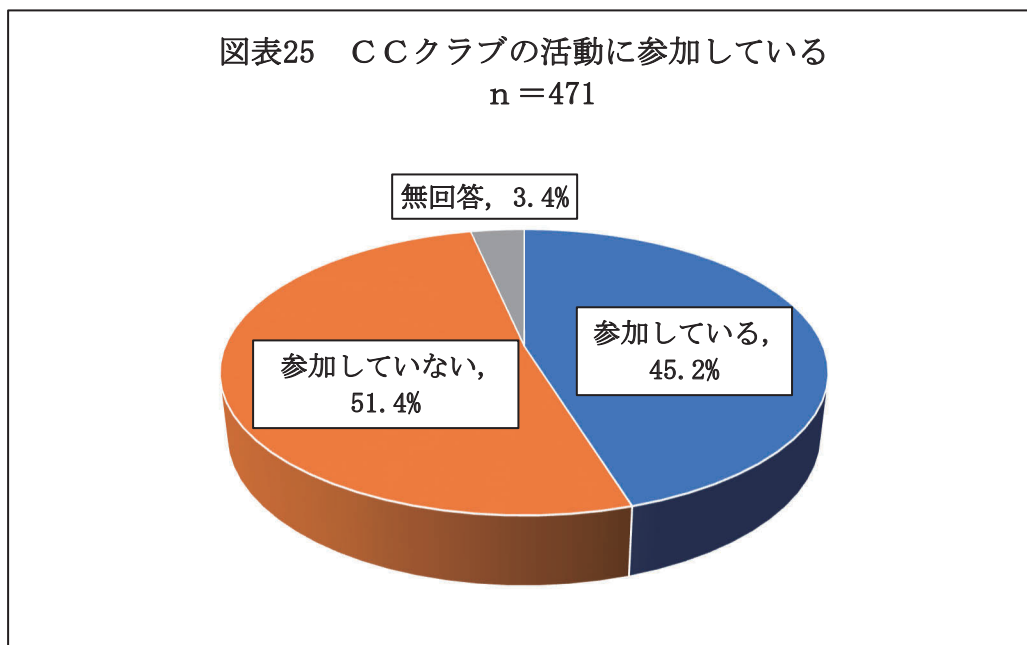
CC大学修了後、今の生活にCC大学は大きな影響を与えているかどうかについては(図表24)、「そう思う」が49.5%、「そう思わない」が15.3%となっている。

このように、CC大学で学んだことが、全体の約半数の人に大きな影響を与えている。



⑥CCクラブの活動に参加しているかどうか

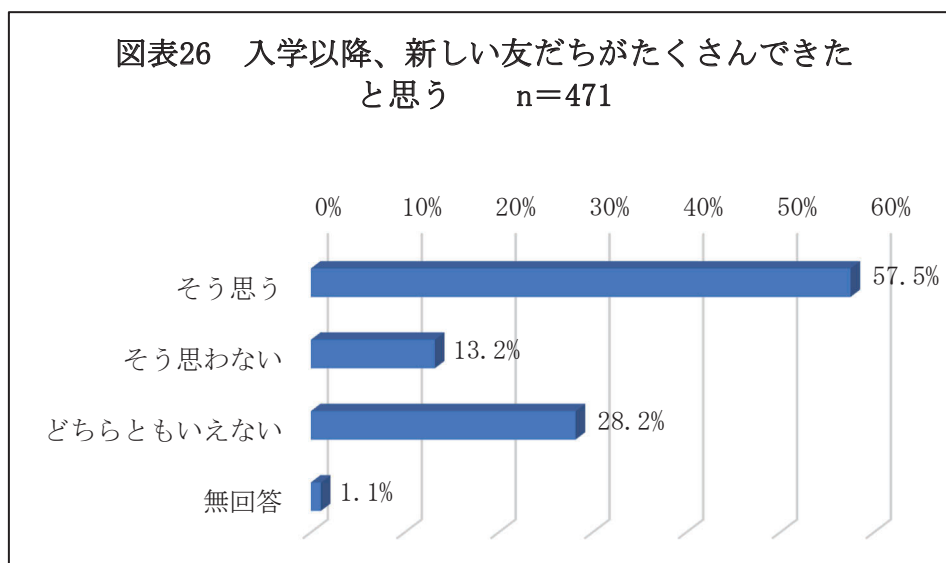
CCクラブの活動に参加しているかどうかについて(図表25)は、「参加している」が45.2%、「参加していない」が51.4%となっている。



⑦入学以降、新しい友だちがたくさんできたかどうか

CC大学入学以降、新しい友だちがたくさんできたと思うかどうかについては(図表26)、「そう思う」が57.5%、「そう思わない」が13.2%であった。

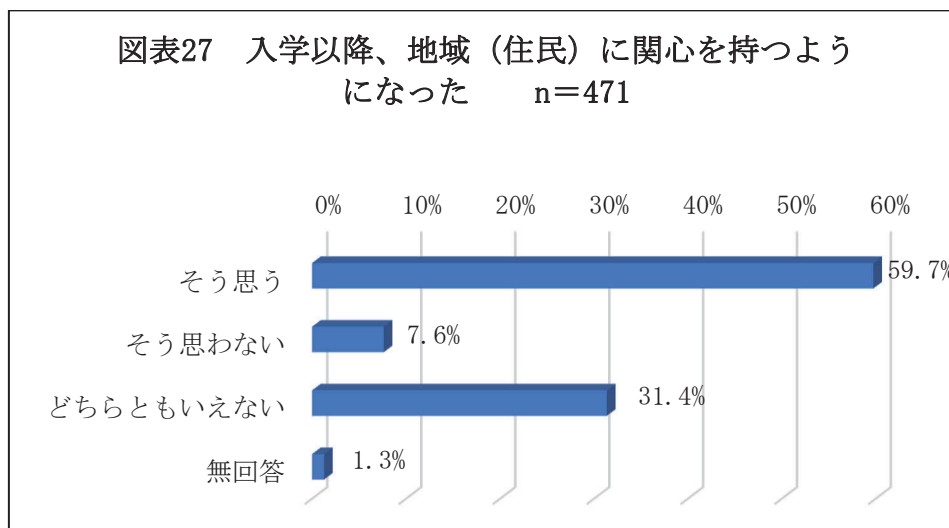
全体の半数以上の人々が「そう思う」と回答しており、CC大学が、これまでのネットワークとは異なる新しい人間関係の形成に大きな役割を果たしている。とくに、コロナ禍の3年間(2020年～2022年)は、人との繋がり希薄化が社会的な問題となった。そのような中、CC大学への入学は、個々の人間関係の形成および地域での繋がり形成において重要な機会となった。



⑧入学以降、地域(住民)に関心を持つようになったかどうか

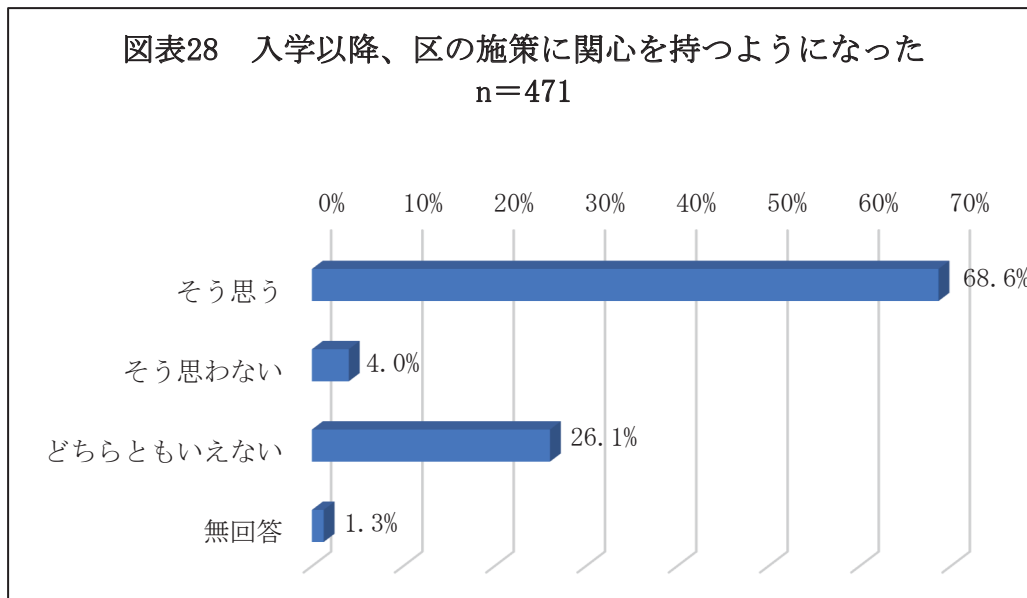
CC大学入学以降、地域や地域住民に関心を持つようになったかどうかについては(図表27)、「そう思う」が59.7%、「そう思わない」が7.6%であった。

全体の約6割の人が、以前より地域や地域住民に関心を持つようになっている。



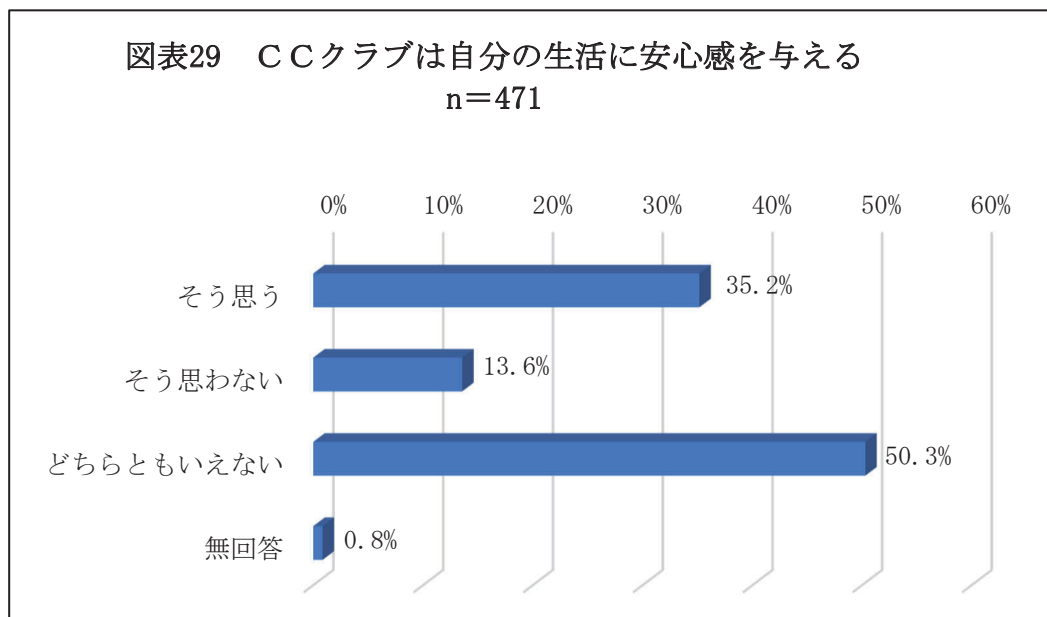
⑨入学以降、区の施策に関心を持つようになったか

CC大学入学以降、(港) 区の施策に関心を持つようになったかどうかについては(図表28)、「そう思う」が68.6%、「そう思わない」が4.0%であった。全体の約7割の人が、以前より港区の施策に関心を持つようになっている。



⑩CCクラブは自分の生活に安心感を与えるかどうか

CC大学入学以前と以後の意識についての設問の最後は、CCクラブの存在が自分にとってどのような意識的位置を与えているかを尋ねた。図表29のとおり、「自分の生活に安心感を与えるかどうか」については、「そう思う」が35.2%、「そう思わない」が13.6%となっている。



(11) 地域活動、社会福祉活動について

ここでは、CCクラブ会員が、どのような地域活動、社会福祉活動をしているかを見てみる。以下、活動の有無、活動していない場合の理由、活動の拠点、活動内容などについて尋ねたものである。

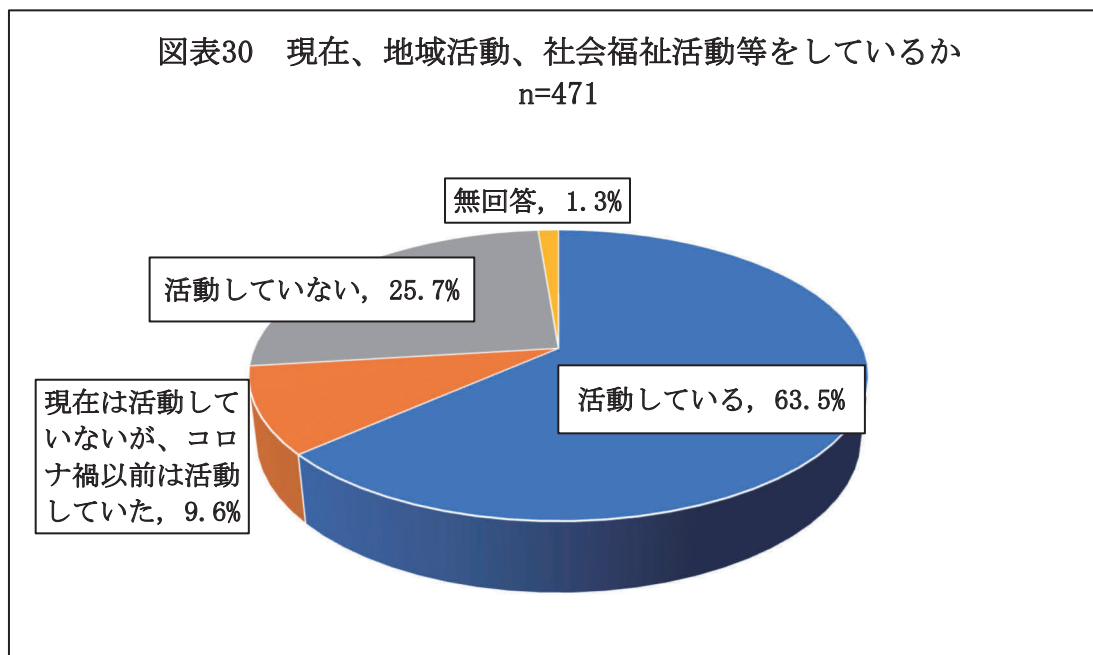
① 地域活動、社会福祉活動を現在しているかどうか

地域活動、社会福祉活動を現在しているかどうかについては（図表 30）、「活動している」が 63.5%、「現在は活動していないが、コロナ禍前は活動していた」が 9.6%、「活動していない」が 25.7%となっている。現在は活動していないが、コロナ禍前は活動していた人も入れるとほぼ全体の 7 割の人が活動に意欲を持っている。

新型コロナの感染拡大は、地域活動に大きな制約をもたらした。当初は、地域活動だけでなく対面の会議も制限されCCクラブにも大きな影響を与えた。

しかしCCクラブは役員を中心に、リモートでの通信手法をいち早く学び、その技術を習得して会員に広めた。それにより、以前に活動していたがコロナ禍で活動を控えていた人ともつながりを維持することができた。実際に、最近の傾向として、地域活動、CCクラブの諸活動に復帰している会員が多くなってきている。

この現状を踏まえれば、コロナ禍でも地域活動、社会福祉活動を継続してきた会員、活動を再開した会員、そして再開したいと考えている会員が 7 割強（73.1%）いると言える。



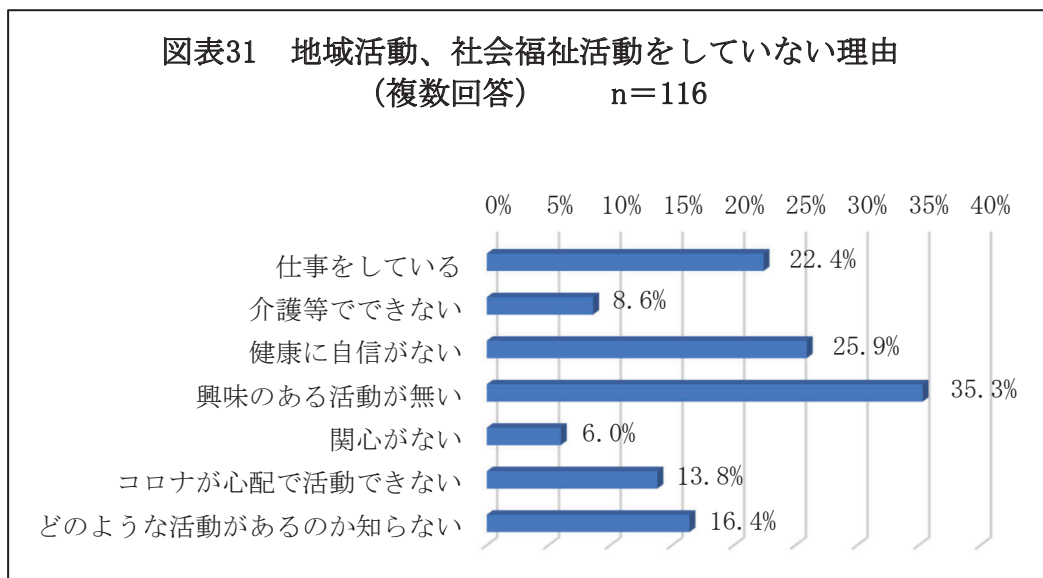
② 地域活動、社会福祉活動をしない理由

他方、地域活動、社会福祉活動をしていない 116 人に、その理由を尋ねた（図表 31、複数回答）。

最も多いものは、「興味のある活動がない」で 35.3%、次いで「健康に自信がない」

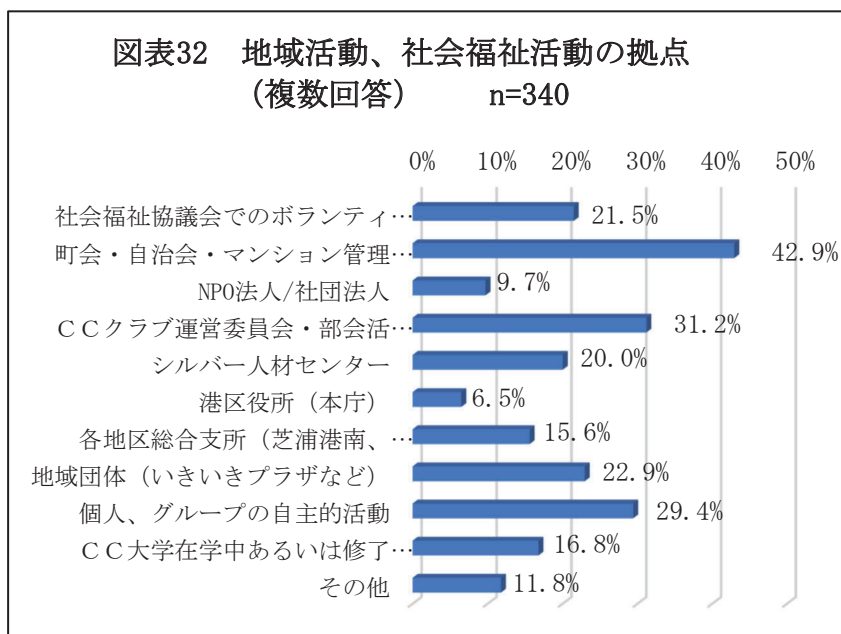
が25.9%、「仕事をしている」が22.4%、「どのような活動があるのか知らない」が16.4%であった。また、「コロナが心配で活動できない」と答えた人が13.8%いた。

「興味のある活動が無い」と「どのような活動があるのか知らない」を合わせた5割強の人については、活動内容や働きかけの工夫によっては、活動への参加に転じる可能性がある。



③ 現在の地域活動・社会福祉活動の拠点

図表 32 は、現在あるいは過去 2～3 年も含めた地域活動、社会福祉活動の拠点について答えてもらったものである（複数回答）。

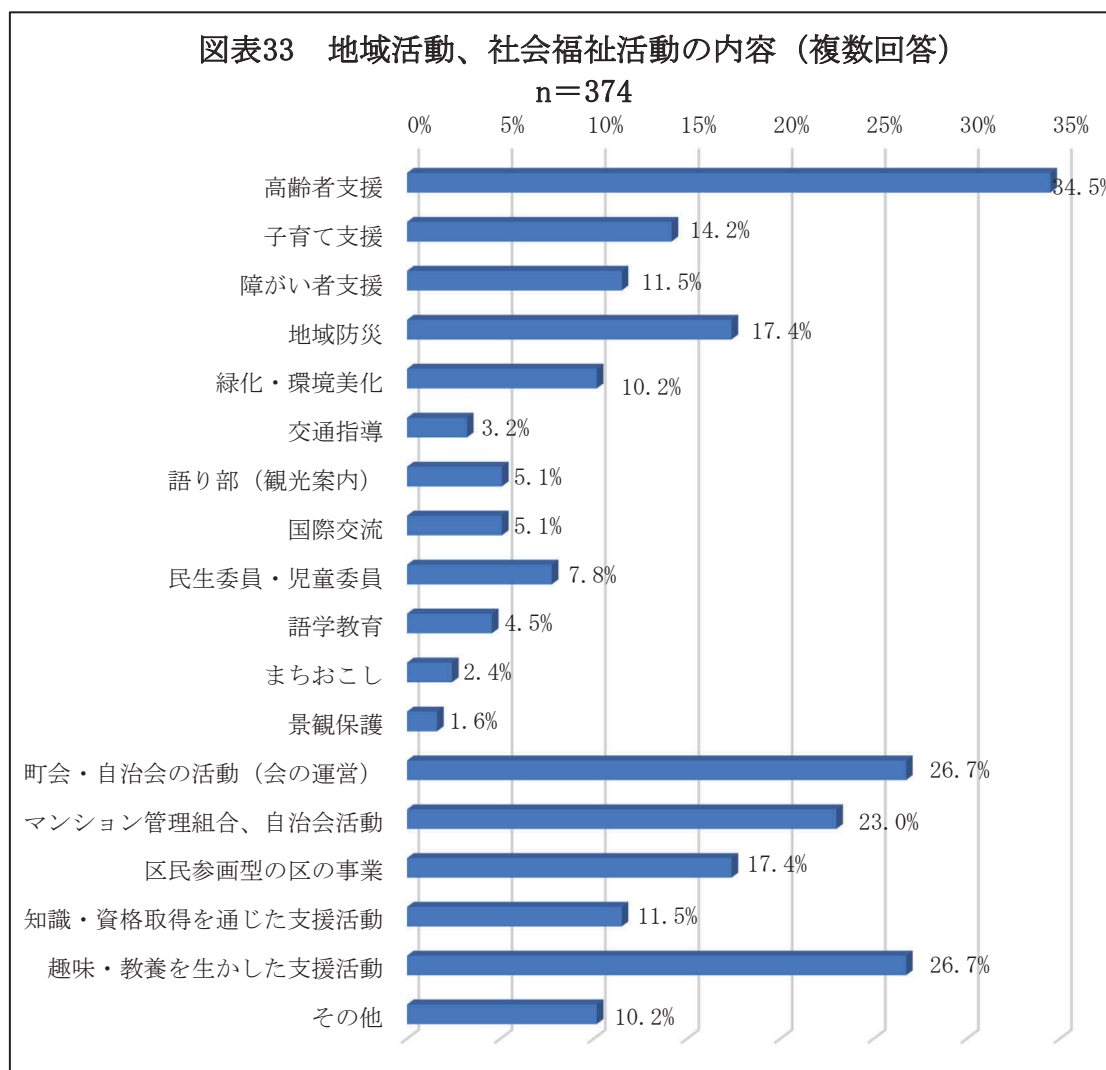


活動拠点として最も高い割合のものは、「町会・自治会・マンション管理組合・老人クラブ等」で 42.9%、次いで「CCクラブ運営委員会・部会活動、地域CCクラブ活動」が 31.2%、「個人、グループの自主的活動」が 29.4%、となっている。「地域団体（いきいきプラザなど）は 22.9%、「社会福祉協議会でのボランティア活動」が 21.5%、「シルバー人材センター」が 20.0%であった。

このように、CCクラブ会員は、多様な拠点で活動を展開している。

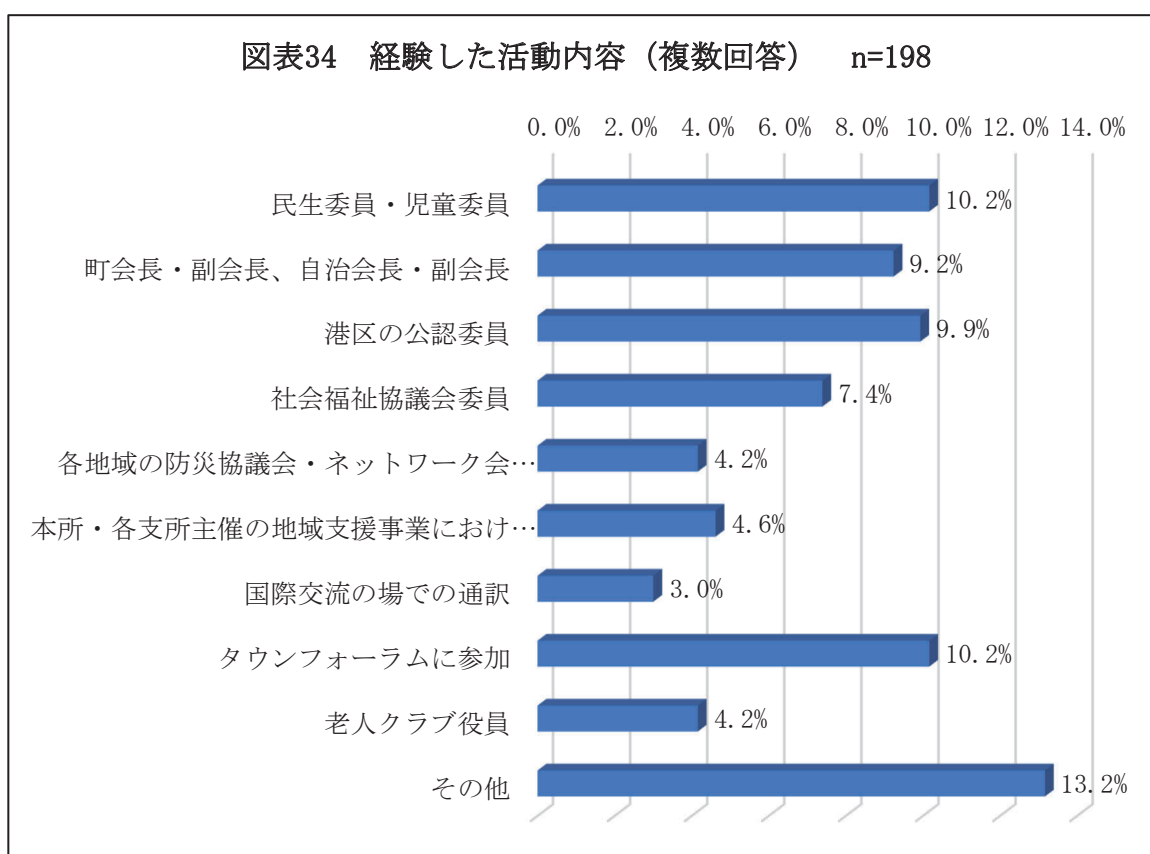
④ 地域活動・社会福祉活動の内容

図表 33 は地域活動・社会福祉活動の内容を見たものである（複数回答）。最も割合が高いものは、「高齢者支援」で 34.5%となっている。次いで、「町会・自治会の活動（会の運営）」と「趣味・教養を生かした支援活動」がともに 26.7%、「マンション管理組合、自治会活動」が 23.0%、「地域防災」と「区民参加型の区の事業」がともに 17.4%、「子育て支援」が 14.2%、「障がい者支援」と「知識・資格取得を通じた支援活動」がともに 11.5%、「緑化・環境美化」が 10.2%となっている。



⑤ これまで経験した活動内容

図表 34 は、CCクラブ会員が、これまで経験した活動内容である（複数回答）。最も割合が高いものが「民生委員・児童委員」と「タウンフォーラムに参加」がともに 10.2%であった。次いで、「港区の公認委員」が 9.9%、「町会長・副会長、自治会長・副会長」が 9.2%、「社会福祉協議会委員」が 7.4%、「本所・各支所主催の地域支援事業における委員会・協議会の会長・副会長・座長」が 4.6%、「各地域の防災協議会・ネットワーク会長・副会長」と「老人クラブ役員」がともに 4.2%となっている。「その他」が 13.2%と多いのは、CCクラブ会員が、ここにあげた活動内容以外の多様な活動に参加していることを示している。



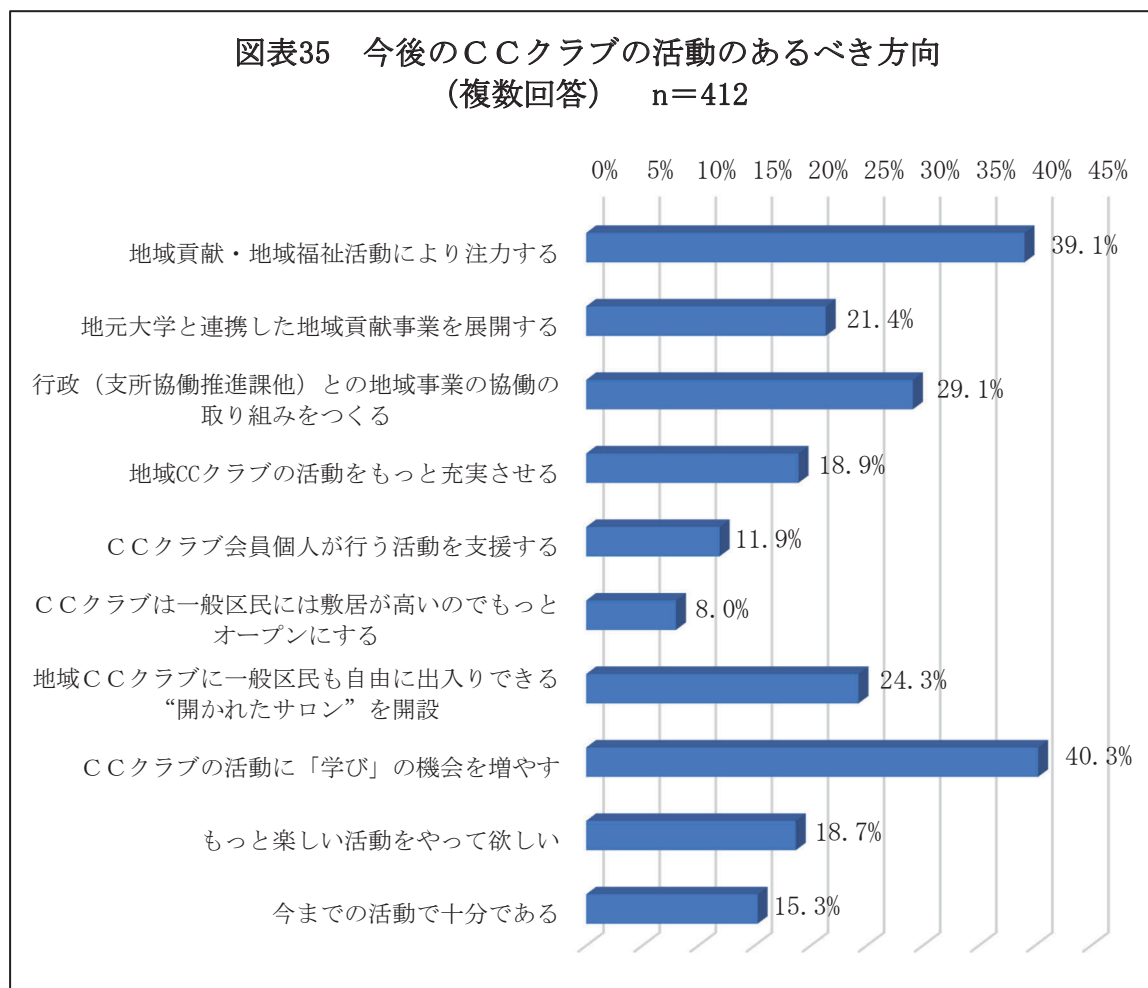
(12) CCクラブの今後の活動について

① 今後のCCクラブの活動のあるべき方向

図表 35 は、今後のCCクラブの活動のあるべき方向について尋ねた結果である（複数回答）。最も割合が高いものは、「CCクラブの活動に『学び』の機会を増やす」で 40.3%、次いで、「地域貢献・地域福祉活動により注力する」が 39.1%、「行政（支所協働推進課他）との地域事業の協働の取り組みをつくる」が 29.1%、「地域CCクラブに一般区民も自由に入出りできる『開かれたサロン』を開設」が 24.3%、「地元大学と連携した地域貢献事業を展開する」が 21.4%となっている。

その他として、「地域CCクラブの活動をもっと充実させる」が 18.9%、「もっと楽しい

活動をやって欲しい」が18.7%、「今までの活動で十分である」が15.3%、「CCクラブ会員個人が行う活動を支援する」が11.9%、「CCクラブは一般区民には敷居が高いのもっとオープンにする」が8.0%となっている。



② 携帯電話などのモバイル環境について

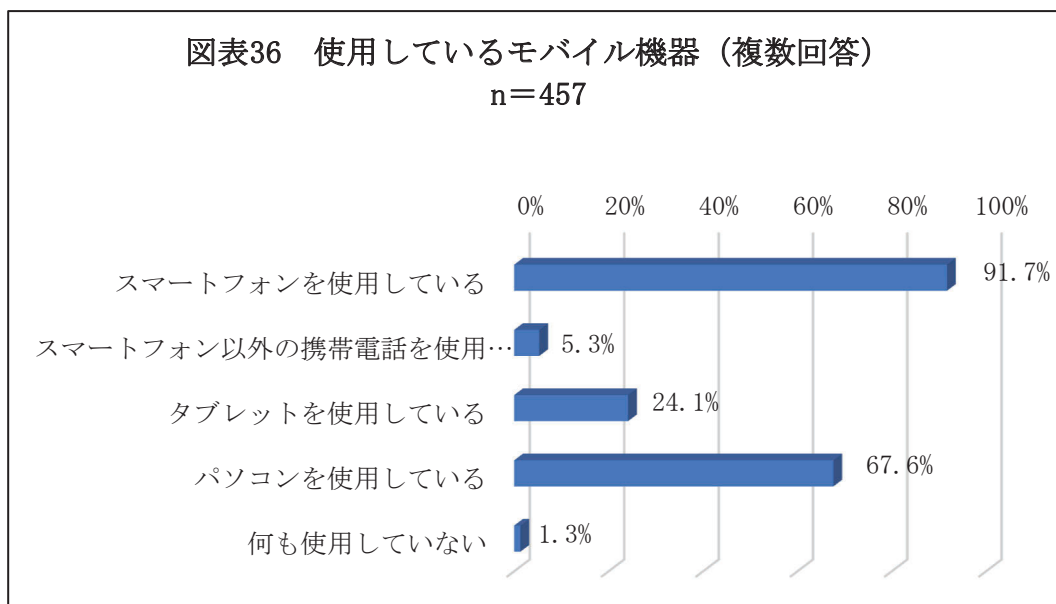
CCクラブは、月1回、運営委員会を開催して全体活動を進めてきている。会の運営や会員同士の情報交換の媒体として、モバイル環境の整備やSNS等の利用は有効であろうと考える。これらを踏まえCCクラブ会員のモバイル環境について尋ねた。

1) どのようなモバイル機器を使用しているか

図表36は、使用しているモバイル機器について尋ねた結果である（複数回答）。最も割合が高かったのは、「スマートフォンを使用している」が91.7%であった。次いで、「パソコンを使用している」が67.6%、「タブレットを使用している」24.1%、「スマートフォン以外の携帯電話を使用している」が5.3%、「何も使用していない」は1.3%となっている。

前回調査（2018年）で、スマートフォンを使用している人の割合は68.3%と7割弱

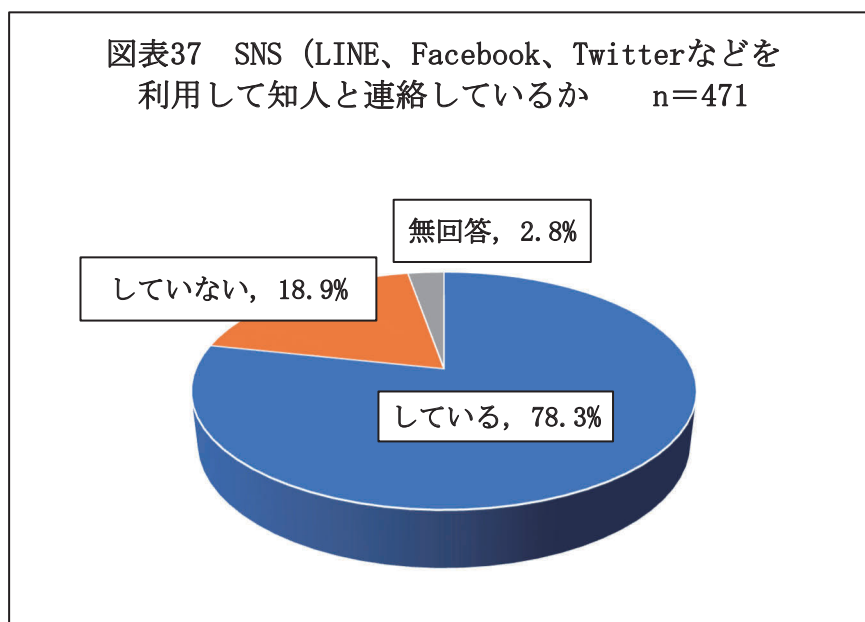
であったが、今回の調査では91.7%と全体の9割に増加している。多くの人がスマートフォンを使用している状況である。



2) SNS (LINE、Facebook、Twitter など) を利用して知人と連絡しているか

図表 37 は、SNS (LINE、Facebook、旧 Twitter など) を利用して知人と連絡しているかどうかを尋ねた結果である。「している」が78.3%。「していない」が18.9%であった。

前回調査 (2018 年) では、「している」と「していない」の割合はほぼ半々であったが、今回の調査では、「している」が全体の8割弱まで増加している。この結果は、スマートフォンを使用している人の増加を反映しているものと考えられる。

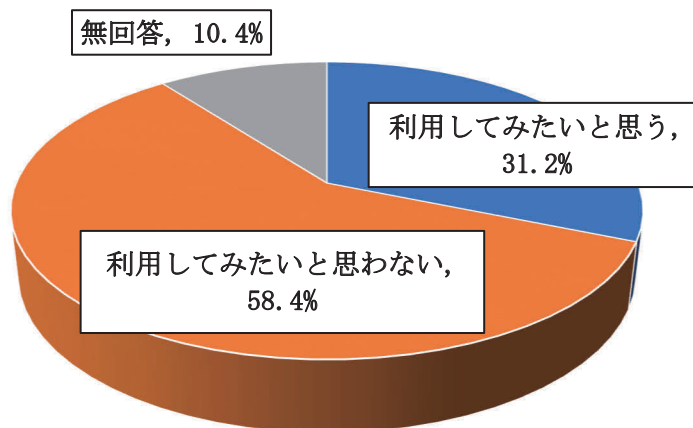


3) CCクラブのホームページを SNS で簡単に投稿できれば、連絡・コメント等で利用してみたいか

図表 38 は、CC クラブのホームページに SNS で簡単に投稿できれば、連絡・コメントなどグループ間で利用してみたいかどうかを尋ねた結果である。

「利用してみたいと思う」が 31.2%、「利用してみたいと思わない」が 58.4%であった。前の質問では、SNS を利用して知人と連絡をとっている人の割合が高かったが、CCクラブのホームページを活用した情報交換については、利用したいと考える人は全体の約 3 割にとどまった。

図表38 CCクラブのホームページをSNSで簡単に投稿できれば、自分も連絡やコメントなどグループ間で利用してみたいか n=471

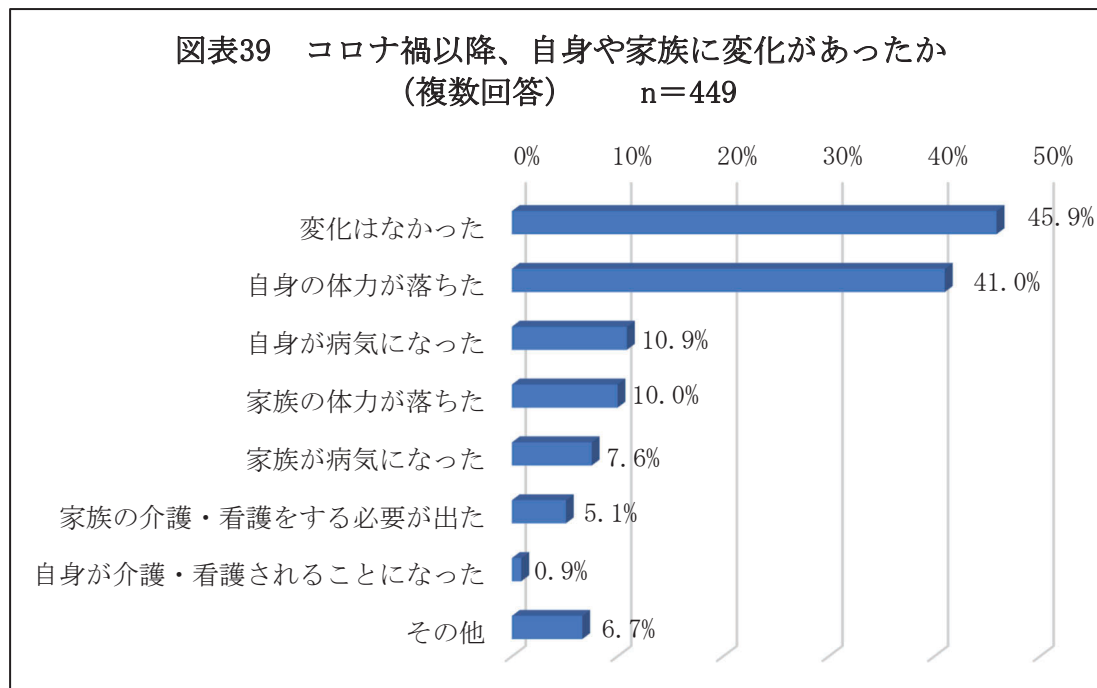


(13) コロナ禍以降の変化について

① コロナ禍以降、自身や家族に変化があったか

図表 39 は、コロナ禍以降、自身や家族に変化があったかどうかを尋ねた結果である（複数回答）。「変化はなかった」が 45.9%と最も割合が高かった。次いで、「自身の体力が落ちた」が 41.0%で、全体の約 4 割の人が体力の低下を感じている。その他、「自身が病気になった」が 10.9%、「家族の体力が落ちた」が 10.0%、「家族が病気になった」が 7.6%、「家族の介護・看護をする必要が出た」が 5.1%となっている。

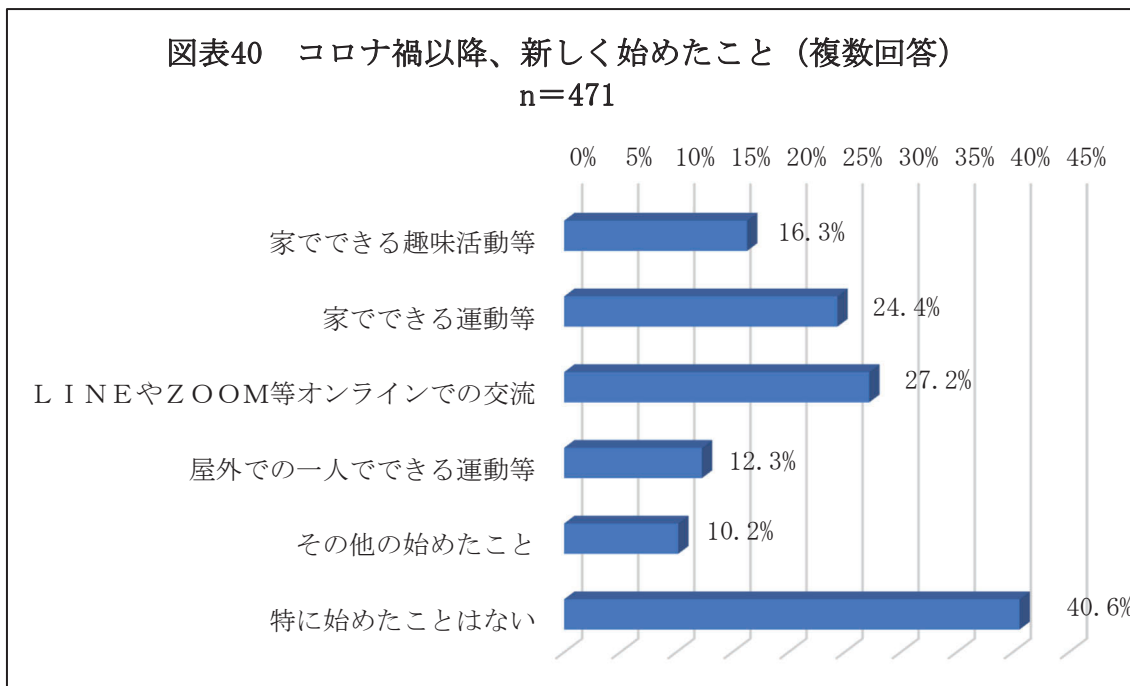
コロナ禍以降、自身や家族の病気、体力の低下などを合わせると 5 割以上の人に変化があった。しかし「変化はなかった」と答えた人が 5 割近くで最も多かった。



②コロナ禍になってから新しく始めたこと

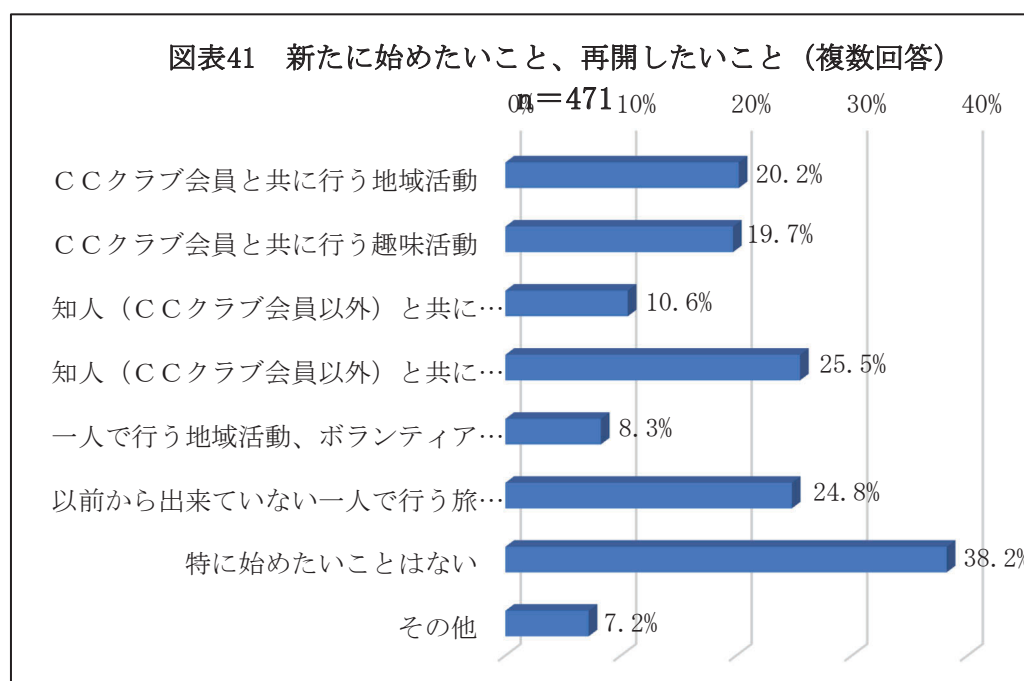
図表 40 は、コロナ禍になってから新しく始めたことについて尋ねた結果である（複数回答）。「特にはじめたことはない」が 40.6%で最も割合が高い。次いで、「LINE や ZOOM 等のオンラインでの交流」が 27.2%、「家でできる運動等」が 24.4%、「家でできる趣味活動等」が 16.3%、「屋外での一人でもできる運動等」が 12.3%、「その他始めたこと」が 10.2%となっている。

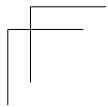
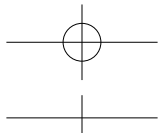
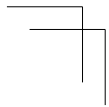
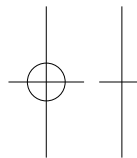
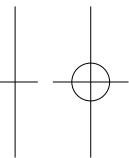
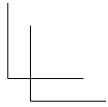
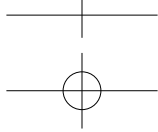
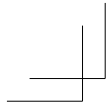
コロナ禍以降新しく始めたことは「特にない」と答えた人は 40.6%で最も高いが同様に「ある」と答えた人はその他にも含め 5つを合わせると 5割以上であった。



③ 今後、新たに始めたいこと、再開したいこと

図表 41 は、コロナの感染症分類が 2 類から 5 類になり、人々の行動制限が大幅に緩和されたなかで、新たに始めたいことまたは再開したいことについて尋ねた結果である（複数回答）。「特に始めたいことはない」が 38. 2%で最も割合が高かった。他方、「知人（CCクラブ会員以外）と共に行う趣味活動」が 25. 5%、「以前から出来ていない一人で行う旅行や趣味活動」が 24. 8%、「CCクラブ会員と共に行う地域活動」が 20. 2%、「CCクラブ会員と共に行う趣味活動」が 19. 7%など、それぞれが全体の 2 割強の回答が、今後、旅行や趣味活動、地域活動を始めたいと考えている。





3 調査の結果ークロス集計

ここでは、調査のクロス集計結果を概観する。クロス集計とは調査票の質問項目を2つ以上かけ合わせて集計することである。調査項目が限られていることから、男女別のクロス集計を中心にすることにしたい。

(1) 男女別年齢階層

まずは、男女別に「年齢階層」の構成割合を見てみよう（図表 42）。

男女ともに70歳代の人割合が約6割を占めている。70歳以上～75歳未満、75歳以上80歳未満の両階層において、男女の比率に大きな違いは見られない。

60歳代では男性より女性の割合の方がやや高く、80歳以上では女性より男性の割合の方がやや高くなっている。（このクロス表については、項目間の有意差はない。）

図表 42 男女別年齢階層

年齢階層	性別					
	男性		女性		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
60歳以上65歳未満	2	1.3%	9	3.3%	11	2.6%
65歳以上70歳未満	16	10.5%	40	14.9%	56	13.3%
70歳以上75歳未満	52	34.2%	93	34.6%	145	34.4%
75歳以上80歳未満	41	27.0%	72	26.8%	113	26.8%
80歳以上85歳未満	32	21.1%	44	16.4%	76	18.1%
85歳以上90歳未満	6	3.9%	10	3.7%	16	3.8%
90歳以上	3	2.0%	1	0.4%	4	1.0%
合計	152	100.0%	269	100.0%	421	100.0%

(2) CC大学「何期生」別「居住地区」

CC大学の「何期生か（2区分）」と、「居住地区」の関係を見ると（図表 43）、「1～12期生」では「高輪地区」の人の割合が42.1%で、他の地区の人に比べて圧倒的に多い傾向であった。しかし、「13～15期生」では、「高輪地区」の人の割合は35.3%とやや減少し、一方で「芝浦港南地区」の人の割合が27.6%と増加している。

図表 43 何期生か(2区分)別居住地区

居住地区	何期生か(2区分)					
	1~12期生		13~15期生		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
芝浦港南地区	57	16.1%	32	27.6%	89	18.9%
芝地区	56	15.8%	14	12.1%	70	14.9%
高輪地区	149	42.1%	41	35.3%	190	40.4%
麻布地区	41	11.6%	17	14.7%	58	12.3%
赤坂地区	38	10.7%	12	10.3%	50	10.6%
港区外	13	3.7%	0	0.0%	13	2.8%
合計	354	100.0%	116	100.0%	470	100.0%

※無回答は集計から除く。 χ^2 値=12.835 自由度=5 p=0.025* *p<0.05

(3) 男女別CC大学への入学動機

図表 44 は、「CC大学への入学動機」を男女別に見たものである。

男女ともに最も割合が高かったものは、「港区の広報誌で知り、CC大学の理念に共感したから」(男女合計 43.8%) で、次いで「自分の住んでいる地域の土地柄・風土・歴史に関心を持つようになったから」(男女合計 33.4%) となっており、男女の比率に大きな違いは見られない。

男女の違いが明らかなものに注目すると、男性では「家人の勧め」が女性より 11.6 ポイント多く、また「暇を持て余しているから」が女性より 6.6 ポイント多い。

一方、女性では「CC大学修了生に勧められた」が男性より 7.3 ポイント多く、また「明治学院大学の校風・講師陣の顔ぶれに惹かれて」が男性より 4.9 ポイント多く、「民生委員・児童委員として」が男性より 4.8 ポイント多くなっている。

図表 44 男女別CC大学への入学動機(複数回答)

CC大学への入学動機	性別					
	男性		女性		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
人生の転機にあたり多くの選択肢の中から選んだ	54	32.7%	82	27.4%	136	29.3%
CC大学修了生に勧められた	36	21.8%	87	29.1%	123	26.5%
家人の勧め	28	17.0%	16	5.4%	44	9.5%
知人・友人の勧め	20	12.1%	33	11.0%	53	11.4%
暇をもて余しているから	13	7.9%	4	1.3%	17	3.7%

すでに地域貢献に取り組んでおり、さらに深堀を目指した	32	19.4%	50	16.7%	82	17.7%
同じ志を持つ仲間を求めた	17	10.3%	37	12.4%	54	11.6%
自分の居場所を求めて	23	13.9%	30	10.0%	53	11.4%
港区の広報紙で知り、CC大学の理念に共感したから	71	43.0%	132	44.1%	203	43.8%
明治学院大学の校風・講師陣の顔ぶれに惹かれて	14	8.5%	40	13.4%	54	11.6%
自分の住んでいる地域の土地柄・風土・歴史に関心を持つようになったから	54	32.7%	101	33.8%	155	33.4%
民生委員・児童委員として	7	4.2%	27	9.0%	34	7.3%
その他	14	8.5%	22	7.4%	36	7.8%
合計	165	100.0%	299	100.0%	464	100.0%

※無回答は集計から除く。 χ^2 値=42.997 自由度=13 p=0.001* * p<0.05

(4) 男女別生活の困りごと

図表 45 によって「生活上の困りごと」を男女別に見てみよう。

男女とも最も多かったのは「健康・医療」で、次いで「大地震・火災時の対応の不安」である。「健康・医療」については、男性が 74.5%、女性が 56.8%と男性の割合が 17.7ポイント多くなっている。

その他、男女の違いが明らかなものに注目すると、男性では「収入・経済的課題」が女性に比べて割合が高く、一方、女性では「買い物環境」、「近所付き合いの煩わしさ」、「親族との関係」が男性に比べて割合が高い。この結果は日頃の性別による役割分業が反映していると考えられる。

図表 45 男女別生活上の困りごと（複数回答）

生活上の困りごと	性別					
	男性		女性		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
健康・医療	38	74.5%	54	56.8%	92	63.0%
収入・経済的課題	9	17.6%	9	9.5%	18	12.3%
福祉・介護	10	19.6%	20	21.1%	30	20.5%
買い物環境	4	7.8%	17	17.9%	21	14.4%
交通の利便性	3	5.9%	4	4.2%	7	4.8%

近所付き合いの煩わしさ	0	0.0%	4	4.2%	4	2.7%
地域の繋がりが希薄化	10	19.6%	18	18.9%	28	19.2%
親族との関係	3	5.9%	10	10.5%	13	8.9%
大地震・火災時の対応の不安	20	39.2%	42	44.2%	62	42.5%
コロナ禍による諸問題の不安	7	13.7%	14	14.7%	21	14.4%
その他の困りごと	5	9.8%	10	10.5%	15	10.3%
合計	51	100.0%	95	100.0%	146	100.0%

(5) 男女別地域活動・社会福祉活動の有無

次に、図表 47 は「地域活動・社会福祉活動の有無」を男女別に見たものである。現在及びコロナ禍以前ともに、活動の有無については男女の大きな違いは見られない。

図表 47 男女別地域活動・社会福祉活動の有無

地域活動・社会福祉活動の有無	性別					
	男性		女性		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
活動している	110	67.1%	186	63.1%	296	64.5%
現在は活動していないが、コロナ禍以前は活動していた	16	9.8%	27	9.2%	43	9.4%
活動していない	38	23.2%	82	27.8%	120	26.1%
合計	164	100.0%	295	100.0%	459	100.0%

(6) 年齢階層別地域活動・社会福祉活動の有無

「地域活動・社会福祉活動の有無」を「年齢階層別（10歳刻み）」に見てみよう（図表 48）。「活動している」は、60歳代が 79.4%で、70歳代、80歳代に比べて割合が高い。一方で、「現在は活動していないが、コロナ禍以前は活動していた」は、年齢階層が高くなるにつれて割合が高くなり、80歳代が 13.5%と最も高い。「活動している」と「現在は活動していないが、コロナ禍以前は活動していた」を合計すると、60歳代では 85.3%、70歳代では 71.4%、80歳代では 79.1%となっており、コロナ禍の影響がなければ 80歳代の人もおよそ 8割が活動していた可能性があり、60歳代よりは少ないもの

の年齢階層による差は大きくない。

図表 48 年齢階層（10歳刻み）別地域活動、社会福祉活動の有無

地域活動、社会福祉 活動の有無	年齢階層（10歳刻み）							
	60歳代		70歳代		80歳代以上		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
活動している	54	79.4%	157	61.6%	63	65.6%	274	65.4%
現在は活動していないが、 コロナ禍以前は活動していた	4	5.9%	25	9.8%	13	13.5%	42	10.0%
活動していない	10	14.7%	73	28.6%	20	20.8%	103	24.6%
合計	68	100.0%	255	100.0%	96	100.0%	419	100.0%

※無回答は集計から除く。χ²値=9.920 自由度=4 p=0.042* *p<0.05

（7）CC大学何期生か別地域活動・社会福祉活動の有無

さらに、「地域活動・社会福祉活動の有無」を、「何期生か（2区分）」で見てみる（図表 49）。明らかな違いが見られるのは「現在は活動していないが、コロナ禍以前は活動していた」という人の割合で、「1～12期生」は12.0%、「13～15期生」は2.6%となっている。「13～15期生」の入学年度は2021年度～2023年度で、コロナ禍～コロナ禍収束の時期である。「13～15期生」の2.6%という割合の低さは、時期的にコロナ禍の影響をほとんど受けていないことを示している。また、「13～15期生」ではコロナ禍以前（CC大学入学以前）から活動していた人そのものが少なかったと見ることができ、「1～12期生」の割合が12.0%であることは、CCクラブでの活動や交流が「地域活動・社会福祉活動」に繋がっているものと考えられる。

図表 49 何期生か（2区分）別地域活動・社会福祉活動の有無

地域活動・社会福祉 活動の有無	何期生か（2区分）					
	1～12期生		13～15期生		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
活動している	221	63.1%	78	67.8%	299	64.3%
現在は活動していないが、 コロナ禍以前は活動していた	42	12.0%	3	2.6%	45	9.7%
活動していない	87	24.9%	34	29.6%	121	26.0%
合計	350	100.0%	115	100.0%	465	100.0%

※無回答は集計から除く。χ²値=8.921 自由度=2 p=0.012* *p<0.05

(8) 男女別地域活動・社会福祉活動の内容

「地域活動・社会福祉活動の内容（複数回答）」を「男女別」に見てみる（図表 50）。男女の違いが明らかな活動内容に着目すると、男性では「マンション管理組合」、「自治会活動」、「地域防災」、「語り部」、「町会・自治会の活動（会の運営）」が女性に比べて割合が高い。女性では「高齢者支援」、「子育て支援」、「語学教育」、「趣味・教養を生かした支援活動」が男性よりも割合が高い。男女の活動内容の違いには、これまでの生活経験を生かした活動を選択していることがあらわれている。

図表 50 男女別地域活動・社会福祉活動の内容（複数回答）

地域活動・社会福祉活動の内容	性別					
	男性		女性		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
高齢者支援	35	26.1%	91	38.9%	126	34.2%
子育て支援	9	6.7%	42	17.9%	51	13.9%
障がい者支援	14	10.4%	28	12.0%	42	11.4%
地域防災	35	26.1%	29	12.4%	64	17.4%
緑化・環境美化	13	9.7%	25	10.7%	38	10.3%
交通指導	5	3.7%	7	3.0%	12	3.3%
語り部（観光案内）	13	9.7%	6	2.6%	19	5.2%
国際交流	6	4.5%	13	5.6%	19	5.2%
民生委員・児童委員	10	7.5%	19	8.1%	29	7.9%
語学教育	2	1.5%	15	6.4%	17	4.6%
まちおこし	2	1.5%	7	3.0%	9	2.4%
景観保護	3	2.2%	3	1.3%	6	1.6%
町会・自治会の活動（会の運営）	41	30.6%	58	24.8%	99	26.9%
マンション管理組合、自治会活動	43	32.1%	40	17.1%	83	22.6%
区民参画型の区の事業	23	17.2%	40	17.1%	63	17.1%
知識・資格取得を通じた支援活動	15	11.2%	27	11.5%	42	11.4%
趣味・教養を生かした支援活動	32	23.9%	66	28.2%	98	26.6%
その他	17	12.7%	20	8.5%	37	10.1%
合計	134	100.0%	234	100.0%	368	100.0%

※無回答は集計から除く。χ²値=56.736 自由度=18 p=0.001* *p<0.05

(9) 男女別地域活動・社会福祉活動の拠点

次に、「地域活動・社会福祉活動の拠点（複数回答）」を「男女別」に見てみる（図表 51）。性別による違いが大きいものに注目すると、男性では、「町会・自治会・マンション管理組合・老人クラブ等」、「CCクラブ運営委員会・部会活動、地域CCクラブ活動」、「各地区総合支所」が女性に比べて割合が高い。女性では、「個人、グループの自主的活動」、「地域団体（いきいきプラザなど）」、「社会福祉協議会でのボランティア活動」、「NPO 法人/社団法人」が男性に比べて割合が高い。これは、図表 50 の「地域活動・社会福祉活動の内容」の男女の違いを反映したものとなっている。

図表 51 男女別地域活動・社会福祉活動の拠点（複数回答）

地域活動・社会福祉活動の拠点	性別					
	男性		女性		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
社会福祉協議会でのボランティア活動	22	17.6%	49	23.2%	71	21.1%
町会・自治会・マンション管理組合・老人クラブ等	66	52.8%	78	37.0%	144	42.9%
NPO 法人/社団法人	7	5.6%	24	11.4%	31	9.2%
CCクラブ運営委員会・部会活動、地域CCクラブ活動	48	38.4%	57	27.0%	105	31.3%
シルバー人材センター	25	20.0%	42	19.9%	67	19.9%
港区役所（本庁）	8	6.4%	12	5.7%	20	6.0%
各地区総合支所（芝浦港南、芝、高輪、麻布、赤坂）	24	19.2%	28	13.3%	52	15.5%
地域団体（いきいきプラザなど）	23	18.4%	54	25.6%	77	22.9%
個人、グループの自主的活動	28	22.4%	72	34.1%	100	29.8%
CC大学在学中あるいは修了後、新たに立ち上げた個人、グループ活動	23	18.4%	33	15.6%	56	16.7%
その他	12	9.6%	28	13.3%	40	11.9%
合計	125	100.0%	211	100.0%	336	100.0%

※無回答は集計から除く。χ²値=28.466 自由度=11 p=0.003* *p<0.05

(10) 男女別経験した活動内容

これまで携わった「経験した活動内容（複数回答）」を「男女別」に見てみよう（図表 52）。多くの活動において、男性の方が女性よりも割合が多い。とくに「町会長・副会長、自治会長・副会長」、「港区の公認委員」、「各地域の防災協議会・ネットワーク会長・副会長」、「本所・各支所主催の地域支援事業における委員会・協議会の会長・副会

長・座長」といった活動では、男性の割合は女性の2倍以上である。他方、女性では「民生委員・児童委員」、「老人クラブ役員」を経験した割合が男性に比べて2倍程度多い。この結果から、男性は地域住民の代表として発言する機会の多い活動を担うことが多く、女性は高齢者や児童・家族との直接的なコミュニケーション力を必要とする活動や、関係機関と当事者の仲介役としての力を必要とする活動を担うことが多いことが示されている。

図表 52 男女別経験した活動（複数回答）

経験した活動内容	性別					
	男性		女性		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
民生委員・児童委員	11	14.7%	33	27.5%	44	22.6%
町会長・副会長、自治会長・副会長	24	32.0%	16	13.3%	40	20.5%
港区の公認委員	22	29.3%	19	15.8%	41	21.0%
社会福祉協議会委員	14	18.7%	16	13.3%	30	15.4%
各地域の防災協議会・ネットワーク会長・副会長	13	17.3%	5	4.2%	18	9.2%
本所・各支所主催の地域支援事業における委員会・協議会の会長・副会長・座長	11	14.7%	8	6.7%	19	9.7%
国際交流の場での通訳	6	8.0%	7	5.8%	13	6.7%
タウンフォーラムに参加	17	22.7%	26	21.7%	43	22.1%
老人クラブ役員	4	5.3%	14	11.7%	18	9.2%
その他	16	21.3%	41	34.2%	57	29.2%
合計	75	100.0%	120	100.0%	195	100.0%

※無回答は集計から除く。 χ^2 値=39.455 自由度=10 $p<0.001^*$ $^*p<0.05$

(11) 男女別新たに始めたいこと

次に、「新たに始めたいこと（複数回答）」についての回答を男女ごとに見てみよう（図表 54）。男性では「知人（CCクラブ会員以外）と共に行う地域活動」が17.0%で、女性の7.3%より割合が高い。一方、女性は「CCクラブ会員と共に行う地域活動」が22.7%で、男性の15.8%よりも割合が高い。その他の活動では大きな差が見られないが、「地域活動」についての思いについては、若干の男女の差があることがわかる。

図表 54 男女別新たに始めたいこと（複数回答）

新たに始めたいこと	性別					
	男性		女性		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
CCクラブ会員と共に行う地域活動	26	15.8%	68	22.7%	94	20.2%
CCクラブ会員と共に行う趣味活動	33	20.0%	59	19.7%	92	19.8%
知人（CCクラブ会員以外）と共に行う地域活動	28	17.0%	22	7.3%	50	10.8%
知人（CCクラブ会員以外）と共に行う趣味活動	41	24.8%	79	26.3%	120	25.8%
一人で行う地域活動、ボランティア活動	11	6.7%	28	9.3%	39	8.4%
以前から出来ていない一人で行う旅行や趣味活動	36	21.8%	80	26.7%	116	24.9%
特に始めたいことはない	69	41.8%	108	36.0%	177	38.1%
その他	11	6.7%	22	7.3%	33	7.1%
合計	165	100.0%	300	100.0%	465	100.0%

※無回答は集計から除く。 χ^2 値=17.503 自由度=8 p=0.025* *p<0.05

(12) 男女別CC大学入学以前と以後の意識

以下は、「CC大学入学以前と以後の意識」についての幾つかの項目を男女別に見たものである。以下の項目は、男女別で有意な差が見られるものを選んでいく。

①「入学以前は家事（仕事）中心だった」かどうかに関しては、「そう思う」と回答した人が男性 53.8%、女性 38.8%で、男性の割合が高くなっている（図表 55）。

図表 55 男女別「入学以前は家事（仕事）中心だった」か

入学以前は家事（仕事）中心 だったが	性別					
	男性		女性		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
そう思う	86	53.8%	114	38.8%	200	44.1%
そう思わない	46	28.8%	116	39.5%	162	35.7%
どちらともいえない	28	17.5%	64	21.8%	92	20.3%
合計	160	100.0%	294	100.0%	454	100.0%

※無回答は集計から除く。 χ^2 値=9.543 自由度=2 p=0.009* *p<0.05

②「入学以前から地域活動に関心があった」かどうかに関しては、「そう思う」と回答した人が男性 45.3%、女性 54.4%で、女性の割合が高くなっている（図表 56）。

図表 56 男女別「入学以前から地域活動に関心があった」か

入学以前から地域活動に関心があったか	性別					
	男性		女性		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
そう思う	72	45.3%	161	54.4%	233	51.2%
そう思わない	41	25.8%	48	16.2%	89	19.6%
どちらともいえない	46	28.9%	87	29.4%	133	29.2%
合計	159	100.0%	296	100.0%	455	100.0%

※無回答は集計から除く。 χ^2 値=6.527 自由度=2 p=0.038* *p<0.05

③「入学以前は民生委員・児童委員活動を知っていたか」に関しては、「知っていた」と回答した人が男性 67.5%、女性 81.1%で、女性の割合が高くなっている（図表 57）。

図表 57 男女別「入学以前は民生委員・児童委員活動を知っていたか」

入学以前は民生委員・児童委員活動を知っていたか	性別					
	男性		女性		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
知っていた	108	67.5%	240	81.1%	348	76.3%
知らなかった	52	32.5%	56	18.9%	108	23.7%
合計	160	100.0%	296	100.0%	456	100.0%

※無回答は集計から除く。 χ^2 値=10.598 自由度=1 p=0.001* *p<0.05

④「入学以前は社会福祉協議会の活動を知っていたか」に関しては、「知っていた」と回答した人が男性 42.2%、女性 58.7%で、女性の割合が高くなっている（図表 58）。

図表 58 男女別「入学以前は社会福祉協議会の活動を知っていたか」

入学以前は社会福祉協議会の活動を知っていたか	性別					
	男性		女性		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
知っていた	68	42.2%	175	58.7%	243	52.9%
知らなかった	93	57.8%	123	41.3%	216	47.1%
合計	161	100.0%	298	100.0%	459	100.0%

※無回答は集計から除く。 χ^2 値=11.407 自由度=1 p<0.001* *p<0.05

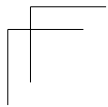
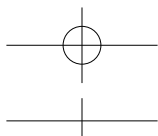
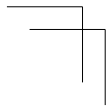
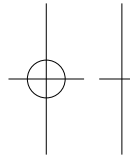
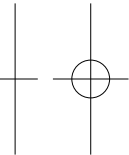
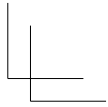
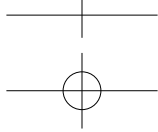
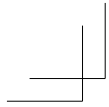
⑤「CCクラブの活動に参加している」かどうかに関しては、「参加している」と回答した人が男性 55.6%、女性 41.7%で、男性の割合が高くなっている（図表 59）。男性

は、「入学以前は家事（仕事）中心だった」人の割合が多い一方で、CC大学修了後にCCクラブの活動に参加する人の割合が女性よりも高いことが示されている。

図表 59 男女別「CCクラブの活動に参加している」か

CCクラブの活動に参加しているか	性別					
	男性		女性		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
参加している	89	55.6%	121	41.7%	210	46.7%
参加していない	71	44.4%	169	58.3%	240	53.3%
合計	160	100.0%	290	100.0%	450	100.0%

※無回答は集計から除く。 χ^2 値=8.005 自由度=1 p=0.005* *p<0.05



4 調査の結果 自由回答

(14)問 20「コロナ禍で出来なくなったこと、現在もできていないこと」自由回答

次に「コロナ禍で出来なかったこと、現在もできていないこと」について選択肢を選ぶ方法でなく自由に書いてもらうことにした。

I 自由回答の分類

自由記述の回答総数は183名であった。以下では、回答内容をもとに分類し、項目ごとのケース数を示し、さらに主な項目についての具体例を選択して記載する。

なお、以下の回答内容の項目ごとの合計数は、1つの回答には複数の意見が書かれているものがあり、それらを項目ごとに数えているので、回答者総数と回答総数とは一致しない。項目ごとの合計数は278ケースであった。

1. 家族や友人との会食と飲食ができなくなったこと (61 ケース)

- (1) 友人との会食ができなくなった 25 ケース
- (2) 友人との飲食ができなくなった 8 ケース
- (3) 家族、親族との会食ができなくなった 4 ケース
- (4) その他のケースや会食ができなくなった 23 ケース
- (5) その他のケースや飲食ができなくなった 1 ケース

2. 家族友人との会合や交流ができなくなったこと (61 ケース)

- (1) 友人との会合や交流ができなくなった 33 ケース
- (2) CCクラブ会員との会合や交流ができなくなった 7 ケース
- (3) 家族、親族との会合や交流ができなくなった 4 ケース
- (4) その他会合、交流ができなかった 17 ケース

3. 趣味のために外で出かけることができなくなったこと (57 ケース)

- (1) 歌を歌うこと、カラオケに行くこと、コーラスに行くことができなくなった
25 ケース
- (2) 美術館、映画館に行けなくなった 6 ケース
- (3) 運動に行く機会がなくなった 6 ケース
- (4) 趣味の講座、パソコン教室に行けなくなった 5 ケース
- (5) 料理教室に行けなくなった 4 ケース
- (6) その他の趣味ができなくなった 11 ケース

4. ボランティア活動に参加できなくなったこと (49 ケース)

- (1) 食事作りのボランティア活動ができなくなった 12 ケース
- (2) 地域活動ができなくなった 12 ケース
- (3) 歌のボランティアができなくなった 7 ケース
- (4) 介護施設に行けなくなった 7 ケース
- (5) サロン活動ができなくなった 6 ケース
- (6) 居場所作りのボランティアができなくなった 5 ケース

5. 海外旅行や国内旅行ができなくなったこと (19 ケース)

- (1) 海外旅行に行けなくなった 11 ケース
- (2) 国内旅行に行けなくなった 8 ケース

6. CCクラブの活動に参加できなくなったこと (14 ケース)

- (1) CCクラブの活動に参加できなくなった 14 ケース

7. 外出ができず、病院への面会や葬儀にいけなくなったこと (11 ケース)

- (1) 外出ができなくなった 6 ケース
- (2) 病院の面会ができなくなった 2 ケース
- (3) 葬儀に行けなくなった 2 ケース
- (4) 近隣の訪問ができなくなった 1 ケース

8. その他の意見 (6 ケース)

- (1) 仕事や海外出張ができなくなった 3 ケース
- (2) 健康に関することができなくなった 2 ケース
- (3) オンライン交流になってしまった 1 ケース

II 自由回答の具体例

複数の記載があるものは代表的な項目に入れた。

また、表現や文字の使い方は基本的に原文のままとした。

1. 家族や友人との会食と飲食ができなくなったこと

- (1) 友人との会食ができなくなった
 - ・70 歳代 女 特にないが、障害者親の会のクリスマス会、新年会など会食が企画しづらくなった。
 - ・60 歳代 女 友人などとの会食が出来なくなりました。激しい運動(例えばジャス・エアロビクス)が出来なくなり、今も、開始出来てない。
 - ・70 歳代 女 複数で集まる友人との会食が減った。スポーツジムでの運動をやめた。
 - ・70 歳代 男 ランチに行く事が少なくなった。会食は2ヵ月に1回。旅行に行けなくなった。必要ない限り、人との出会いはなくなった。
- (2) 友人との飲食ができなくなった
 - ・70 歳代 男 会食を月1度CCメンバーで行っていましたが、出来なくなりました。
 - ・70 歳代 男 古くからの友人との会食(飲み会等)。
 - ・70 歳代 男 職場での定期的な会食が無くなった(コミュニケーションの場が無くなる)。OBも含めた情報交換もあり残念でならない。
- (3) 家族、親族との会食ができなくなった
 - ・70 歳代 男 (現在はできている) コロナ禍で、親族とテーブルを囲んでの食事会
 - ・80 歳代 女 親戚や友人との会食等含め交流が激減した。
 - ・70 歳代 女 友人との会話、会食。家族との会食(子や孫との会食激減)。ボランティア。
- (4) その他のケースや会食ができなくなった

- ・80歳代 男 食に関することが一番の多かった様で未だに元に戻っていない。今までの様に外で、みんなで飲み、歌うことが出来なかったことかな…。

(5) その他のケースや飲食ができなくなった

- ・60歳代 男 飲食を伴う会合

2. 家族友人との会合や交流ができなくなったこと

(1) 友人との会合や交流ができなくなった

- ・80歳代 女 友人と会えず対面での会話が出来なかった事は精神的につらく、淋しい日々でした。歌を歌う時はまだマスク着用ですので不自由です。
- ・70歳代 女 以前活発に行っていたグループ活動への参加やSNSへの投稿が億劫になり、家に居る事が多くなった。
- ・70歳代 男 会議にしても対面でないと熱が伝わらない。これからも対面会議を重視したい。
- ・70歳代 女 一番辛く心を痛めたのは、子供の頃からお世話になった方々へいろいろな機会を作って顔を出していた事が出来なくなった時、ストレスになり、精神的に不安定になっている自分を感じました。
- ・80歳代 男 交流が出来なかった。対人関係は交流から生まれると思う。

(2) CCクラブ会員との会合や交流ができなくなった

- ・70歳代 女 CC終了直前にコロナ禍となり、会員とのつながりが途切れたままになっている。LINEを立ち上げたが続かず残念に思っています。
- ・70歳代 女 コロナ禍でグループ活動（会食、歌、スポーツ）を中止していたが、そのうち未だ再開に至っていないものや実質的に解散状態となったものが半分程度はある。
- ・70歳代 女 コロナ禍と自身の老化が重なり外出不可や困難な体調になり、CC仲間と会えなくなった事がありました。唯、Lineを使い心の交流はできていました。現在はグループサロン活動を再開、杖を頼りに参加しています。

(3) 家族、親族との会合や交流ができなくなった。

- ・60歳代 女 コロナ禍で、子供や孫との交流が減り、旅行や実家への移動も制限を受けた。趣味の活動も、出来なくなり、意欲も失しなわれつつある。ボランティア等ふやしたかったが、受入体制にも未だ制限がある。
- ・70歳代 女 姉妹との行き来ができない。

(4) その他会合、交流ができなかった

- ・80歳代 男 人との交流が激減→社会の在り方が大きく変容。一方で、自分の高齢化が進み、生活の維持ができなくなった。
- ・80歳代 女 シルバー（港区シルバー人材センター）の会合事業に係わっていましたがコロナにて中止となりました。その後会合や料理に関する件は中止が続いております。会食を利用していた方にはどの様になさっているか心配しております。
- ・70歳代 女 外に出なくなったことで、情報が届かず、まわりで何か楽しいことをやってもわからず、家の中に居ることが多くなった。

3. 趣味のために外で出かけることができなくなったこと

- (1) 歌を歌うこと、カラオケに行くこと、コーラスに行くことができなくなった
- ・70 歳代 女 合唱サークルが中止になり、再開したが、意欲が失せて参加していない。
 - ・60 歳代 女 歌を歌う事がなくなりました。歌わなかった期間が長すぎて歌いたいという意欲がなくなってしまいました。
- (2) 美術館、映画館に行けなくなった
- ・80 歳代 女 病人がでてしまい、美術館等行く機会がへってしまった事。
 - ・70 歳代 女 美術館などに行くことが減った。感染対策が不十分と感ずるため。子ども食堂での食事の提供が未だにできていない。
- (3) 運動に行く機会がなくなった
- ・60 歳代 女 コロナ以前はスポーツセンターを個人でプール利用（週一回程度）していましたが、休館終っても何となく行かなくなり、今でも、気分的に動けない。
- (4) 趣味の講座、パソコン教室に行けなくなった
- ・80 歳代 男 1. パソコン教室→オンライン（ZOOM）で活動。2. 参加するグループが減った→オンライン（ZOOM）で活動。3. カラオケ等が減った。→オンライン（ZOOM）で活動。4. 現在は復活しはじめている。5. オンライン（ZOOM等）は残ると思う。
- (5) 料理教室に行けなくなった
- ・80 歳代 女 ①料理教室を開いてほしい②歌の場所をもっと多くして欲しい（ボケ防止に良い）。
 - ・70 歳代 男 男の料理教室が全滅し楽しみが無くなった。
- (6) その他の趣味ができなくなった
- ・80 歳代 女 読書が好きで、図書館通いが日常でしたが、家人が「誰もが手にする図書館の本は危険」と言い、図書館への出入りを禁止されました。現在もです。図書館には、借りた本を消毒する箱もあり、私は借りてきた本はすぐ自分でカバーをかけるなど注意して菌を持ち込まないように注意してきましたが、未だ許可されていません。あと少し、もう少しの時間で「コロナ終結」の報道がされる事を待ち望んでいます。これを読まれてお笑いかもしれませんが、老人になるって今迄、気付かなかった、つまらない、許しがたい「クセ」等を発見してうろたえます。家庭円満の為に、大好きな活字を読む生活は、新聞、パソコンの青空文庫、娘がリックサックで持ち込む彼女の家の本で楽しんでいます。家人が「買えばいい！」と言いますが、近頃の本の値の高さに、今度はケチな私が抵抗しています。
 - ・70 歳代 女 ダンスのレッスン。コロナの影響でレッスンが中止になり、その後若い方達は再開したが、私はコロナと体力が落ちたのでまだ再開していない。
 - ・70 歳代 男 いきいきプラザで開催している事業の中に興味があるものがありますが、参加する契機、勇気が足りません。今年こそはと考えております。

- ・60歳代 男 コロナになり習い事を止めたり、ズームになったりしました。ズームになったものはリアルになりコロナ禍前に戻りつつありますが、止めてしまったものは再開していません。

4. ボランティア活動に参加できなくなったこと

(1) 食事作りのボランティア活動ができなくなった

- ・70歳代 女 会食や食事作りなどの活動。歌を歌うなどの活動。
- ・80歳代 女 食事作りなどの活動・いきいきプラザと協賛の活動（茶会）。
- ・70歳代 男 地域での会食サービス活動。特別養護老人ホームへの訪問。

(2) 地域活動ができなくなった

- ・60歳代 男 近隣、地域住民を中心に毎年実施していた「おまつり」イベント。
- ・80歳代 男 老人が買物に行く手伝い。
- ・70歳代 女 港区内複数社にて訪問介護員として勤務しており、有償ですが、地域の高齢者、障害者の支援をしています。コロナ禍で増々人手不足の業界となっており、CC終了後かえって仕事が増えており、CCクラブの活動には参加できない状況です。移動中にCCの同期の方とバツタリお会いする事があり、時間があれば立話等しています。
- ・60歳代 女 民生児童委員として訪問活動が出来なくなり、現在活動が始める事が出来る様になりましたが、この3年の交流が出来ないのでフレイル状態が進んでいる方が多いと感じました。外出する事の大切さを感じます。すべての生活にコロナ禍の影響が出ていると思います。（自分自身もです。）気力にも大きく影響があったと思っています。
- ・60歳代 女 ハンドマッサージボランティアが、出来なくなった。現在もできていない。ボランティア仲間との交流は、続いているので、再開できたら嬉しい。

(3) 歌のボランティアができなくなった

- ・80歳代 男 会食の回数が減った高齢者施設での歌のボランティア。
- ・80歳代 女 各場所へ訪問しコーラスを皆様といっしょに歌う事。月に2ヶ所位行っていました。・1人暮らしの方々に傾聴ボランティアを計画しましたがコロナの流行で今は中止の感じです。

(4) 介護施設に行けなくなった

- ・80歳代 男 認知症の方のケアができなくなった。（マスクを強要できないなどによる）会食、歌を歌うなどの制限があり集まることも難しくなった。
- ・70歳代 女 施設を訪問しての歌のボランティア・読み聞かせ・街歩きなどが出来なくなりました。
- ・60歳代 女 病院のボランティア。

(5) サロン活動ができなくなった

- ・70歳代 女 コロナ禍と前後して地元のサロンを市街地開発の為、終了せざるをえず、納会しました。世話人として参加していたので、サロンにいらしていた高齢な方の身心に対して気がかりの方が何人かいらっしゃいます。電話やLINEを時々し

ていますが、身近な場所での居場所は大切です。それについて現在考えております。

- ・70歳代 女 サロン活動が一時的に閉鎖されたりはしたが、その時は数軒ずつ各お家を訪ねて近況を伺う様にしていた。

(6) 居場所作りのボランティアができなくなった

- ・70歳代 女 サロン活動などの居場所活動・会食や食事作りなどの活動・歌を歌うなどの活動←上記の様な活動が制約された3年間、友人達との会食、おしゃべりが出来ず電話で長話も遠慮して辛い年月を送りましたが、過ぎてみれば遠慮することが習慣になってしまい、友人を誘うことに勇気が必要になりました。行動を起す事が面倒になる老人病(?)がまん延しないことを願い徐々に元の様な交流を望んでいます。

5. 海外旅行や国内旅行ができなくなったこと

(1) 海外旅行に行けなくなった

- ・60歳代 女 海外旅行をしたい!という気持ちがなくなった。そのかわりに、今まで興味のなかった国内で行きたい所がたくさん見つかり、年に必ず1回は、ゆっくり計画をたてて行くようになりました。

(2) 国内旅行に行けなくなった

- ・70歳代 女 自由な時間を持てるようになったが、体力の減退、体質の変化により、以前より楽しみにしていた日本各地への小旅行などが遠くなってしまった。

6. CCクラブの活動に参加できなくなったこと

(1) CCクラブの活動に参加できなくなったこと

- ・70歳代 女 グループでの活動がコロナになってから出来なくなって、それぞれの近況が現在分からない。

7. 外出ができず、病院への面会や葬儀にいけなくなったこと

(1) 外出ができなくなった

- ・70歳代 女 多人数が集まるイベント等には、出かけることにためらいます。

(2) 病院の面会ができなくなった

- ・70歳代 女 病院への面会(入院中の友人に会えなくなった事)孫の運動会、入学式などの出席。
- ・70歳代 女 ほぼ元に戻り現在もできていないことはないが、コロナ禍では友人の見舞・面会・葬儀にも行けずに悔いが残った。

(3) 葬儀に行けなくなった

- ・70歳代 男 年齢とともに、親戚・知人の中での葬式が増えて来たが、コロナ禍によりすべて家族で取り行なわれ、参列が出来なかった事で、故人との最後の別れが出来なかったことのさみしさ又、親戚・知人との交流も叶わなかったことが残念。

(4) 近隣の訪問ができなくなった

- ・90歳代 男 □才になったので自分の毎日の生活を自分で自活出来るだけで精一杯です。

8. その他の意見

(1) 仕事や海外出張ができなくなった

- ・70歳代 男 旅行などの外出。会社時代の友達との交流。CC大学同期との交流が制限されコミュニケーションが不足していた。
- (2) 健康にすることができなくなった
 - ・60歳代 女 コロナ以前はスポーツセンターで個人でプール利用（週一回程度）していましたが、休館終っても何となく行かなくなり、今でも、気分的に動けない。
- (3) オンライン交流になってしまった
 - ・70歳代 男 活動は元に戻った。オンラインを多く使うようになった。

Ⅲ 自由回答からいえること

1. 家族や友人との会食と飲食ができなくなったこと

- ・家族との会食・飲食よりも友人との会食・飲食が出来なかった人の方が多い。
- ・会食、飲食と同様に他の行動ができなくなったという記述が目立つ。
- ・家族・親族との会食・飲食が出来なくなったケースが少ないのは、日常の生活を共にしているケースが多く敢えて表現する必要がなく、潜在的にもっと多いとも感じる。

2. 家族友人との会合や交流ができなくなったこと

- ・地域の内外を問わず、具体的な記述が多くみられる。
- ・友人との対面交流ができなくなったが、別の交流手段を得た会員もいる。
- ・友人との交流に比べ家族親族との交流ができなくなったことへの意見は少ないが、交流が途絶えたことによる、情報の遮断や、疎外感等内容は切実さを感じる。
- ・CCクラブ会員との交流ができなくなったことも生活に大きな影響があったことを感じる。

3. 趣味のために外で出かけることができなくなったこと

- ・歌に関連する記述は多く、コーラスグループ、カラオケ等があり、日常生活のなかで歌を歌うことの大切さを感じる。
- ・美術館、映画館に行けなくなった等外出の機会が減ったことも心身ともに及ぼす大きな影響があった。
- ・運動に出かける機会がなくなり、その他の行動も含めた制約が、体力や気力の衰えをもたらし現在の生活にも影響がでていることが危惧される。
- ・身近にあったいきいきプラザの講習や料理教室が休止となった。その後復活したものはあるが復活していないものもあり、このような地域の居場所を求めていることを感じる。
- ・その他の項目に入れたが、図書館通いを止めたこと、自分が行っていた習い事教室を止めた記述もある。コロナ禍という未知のものに対する家族間での認識の相違があり、本人の意思に反しての行動制限を余儀なくされた。

4. ボランティア活動に参加できなくなったこと

- ・食事作り、地域活動、歌のボランティア、介護施設、サロン活動等のボランティア活動の中断は会員本人の気持ちはもとより、受け手側の現況を心配する声が多くあった。
- ・ここでも歌に関する記述があり、個人の活動の項目と合わせると、歌に関する活動が

停止されたことは大きな影響があったと感じる。

- ・一時的にできなくなったボランティアを再開する記述もあり、熱心さや使命感も感じる。

5. 海外旅行や国内旅行ができなくなったこと

- ・旅行に関する事として項目を設けたが、ここでの記述内容には趣味での活動が多く記されている。

6. CCクラブの活動に参加できなくなったこと

- ・CCクラブとしての活動として分類したが、CCクラブ友人やグループでの活動を含めると多くの会員の活動が相当数制限されたと感じる。

7. 外出ができず、病院への面会や葬儀にいけなくなったこと

- ・外出ができない、病院の面会に行けない、葬儀に行けないと具体的に書いた人は少ないが、潜在的には多いと感じる。人生の節目に友人知人との別れや見舞いに行けないことに大きな悔いを感じている。
- ・記述には切実さを感じ、また、近隣への行動も制約された記述もある。

8. その他の意見

- ・現在も仕事をしている会員もおり、仕事の一部を中止や制限されるなど、その影響もあった。また、記述は少ないが健康に関する関心も多いと感じる。

(15)行政、社会福祉協議会、港区の関連団体、CCクラブなどに関する自由回答

調査票の最後に、行政、社会福祉協議会、港区の関連団体、CCクラブなどに対する意見や要望を自由に記入してもらう欄を設けた。自由記述の回答総数は135ケースであった。

I 自由回答の分類

回答内容をもとに分類し、項目ごとのケース数を示し、さらに主な項目についての具体例を選択して記載する。

なお、以下の回答内容の項目ごとの合計数は、1つの回答には複数の意見が書かれているものがあり、それらを項目ごとに数えているので、回答総数とは一致しない。

1. CCクラブに関すること (100 ケース)

- ①活動内容について 25 ケース
- ②CCクラブへの感謝 17 ケース
- ③活動への意欲について 13 ケース
- ④組織運営（担い手、体制、予算など）について 12 ケース
- ⑤行政や関係機関との連携について 8 ケース
- ⑥会員間の連絡・交流について 8 ケース
- ⑦活動参加者を増やすことについて 4 ケース
- ⑧CCクラブ活動のあり方について 4 ケース
- ⑨CCクラブのPR、認知について 4 ケース
- ⑩高齢化による活動への影響について 3 ケース
- ⑪活動を求めてほしくない 2 ケース

2. CC大学に関すること (11 ケース)

- ①講義内容、開講方法について 5 ケース
- ②CC大学への感謝 4 ケース
- ③さらなる学びの機会について 2 ケース

3. 港区、行政サービスに関すること (16 ケース)

- ①連携・協働について 7 ケース
- ②港区職員の業務について 3 ケース
- ③CCクラブ活動への支援（資金面を含む）について 3 ケース
- ④行政への感謝 2 ケース
- ⑤公助の充実 1 ケース

4. 社会福祉協議会、福祉サービス、地域活動などに関すること (20 ケース)

- ①地域活動について 9 ケース
- ②福祉サービスについて 6 ケース
- ③社会福祉協議会への感謝 3 ケース
- ④ボランティア活動への資金援助について 2 ケース

5. 高齢期の暮らしと（体力、健康、介護等の影響） (17 ケース)

- ①体力・健康上の問題 8 ケース

②高齢期の暮らしと思い 7 ケース

③家族介護 2 ケース

6. コロナ禍の影響に関すること (3 ケース)

7. その他 (11 ケース)

II 自由回答の具体例

1. CCクラブに関すること

①活動内容について

- ・80 歳代 女 13 期生は合宿が無かったので実現して頂けたら幸いです。
- ・70 歳代 男 CCクラブを持続可能な組織にするためには活動のスリム化を考
える必要があると思います。
- ・70 歳代 男 CCクラブ (CC大学を卒業した人々) が、単なる茶飲み話の会に終
始している。これでは老人クラブである。もっと地域に出て、障害者への支援 (ボラ
ンティア) など積極的にやるべきである。何の為にCC大学で学んだのか! 月に1回
ほど集まって世間話をする会に出ても意味はない。私は①港区社会福祉協議会ヒュー
マンプラザの障害者支援 (月2回ほど) のボランティアをしたり、②観光ガイドを実
施している。社会に役立っている自覚を持ってこそ、CCクラブ (CC大学卒業生)
と言えるのではないか。そのような働きを事務局はすべきである。現在はしてい
ない!!
私は、①ヒューマンプラザでの障害者支援のボランティア、②観光ガイドの他、③地
域の小学校での児童見守り活動、④聴覚障害者向けの手話の学習、などを続けている。
- ・80 歳代 男 現在、町会の役員が超高齢化で、会長は90歳近い。行事等の役員
の成り手なし。私は78歳で、地域、町会の行事、チャレンジコミュニティ・クラブの
活動、また私の地域の12世帯の世話人等のお手伝いをしている。現在でも2社の会社
顧問、OB会の役員幹事をしており多忙なのでお断りしていましたが、懇願され、条
件付でお引受しました。チャレンジコミュニティ大学終了後は、多くの修了生が地域
活動、町会、自治会の役員等々に推選される機会がもっと多くあると良いと思いま
す。
- ・60 歳代 男 港区の行政が地域貢献活動に熱心な事もあり、時としてCCクラブの
活動自体が行政、協議会、関連団体と重複してしまうケースが見受けられると思う。
CCクラブの独自性、存在意義も含めて認知度を高める活動をして頂きたいと思いま
す。
- ・70 歳代 女 CCクラブの年齢層が高いのは、年齢が限定されているので致し方な
いと思うが、ボランティア活動には若い人の参加があると良いと思う。同世代のみの
交流は、同じ価値感があって分かりあえることが多い反面、斬新なアイデアや新時
代の変化や現役世代の意見などを聞くことができないために、アドバンテージの可能
性が制限されている気がします。
- ・60 歳代 女 CCクラブの皆様の活躍は、折にふれて感じております。知識や経
験を活かしての活動に、港区ならではの質の高さと多様性があります。今後も、この

エネルギーを継続してください。

②CCクラブへの感謝

- ・70歳代 男 CCクラブでメンバーのお世話をいただいている役員各位に敬意と感謝を申し上げます。お手伝いをしなければと思いつつ仕事を含めて他の活動との兼合いがあり、できておりません。ただ、CCクラブの理念に沿って、いきいきプラザを使用してのボランティア活動を月1回（6年程継続）実施をしておりますので、可能な限り続けたいと思っております。
- ・70歳代 女 CCの同期・卒業生・地域の方々9名と大正琴で皆様が楽しく歌って頂けるように伴奏したり、演奏するグループを2017年に立ち上げ、いきいきセンターで月2回講師に来て頂き練習をしております。依頼があれば町会・区民センターなどで、活動しております。今年の4月より、港区老連の大正琴部として活動する事になりました。昨日も大樹会の総会で演奏・伴奏して参りました。皆様の喜びが私達の喜びになっております。CCで学び人間関係が出来た事のおかげと感謝しております。
- ・70歳代 女 C・Cクラブで各々の役割を担っている人たちに、感謝しております。
- ・60歳代 男 CCクラブでの体験はたいへん有意義なものでした。現在特に活動していないことは、とても心苦しく思っています。CCクラブの委員の方々の活動には、感謝しております。ありがとうございました。
- ・80歳代 女 明学の法学部の授業に出席し成年後見制度等を学びました。自分の母校より学べるが多かったです。同期会は楽しい思い出いっぱいです。感謝の気持です。個人的には交流もありますが年齢的に退会したいです。介護保険も使わずありがたいことです。どうぞこの高齢化社会で生涯学習楽しんで学んでいただきますように…

③活動への意欲について

- ・70歳代 女 微力ですが、活動内容をよく理解し社会貢献ができるようにしていきたいと思えます。
- ・60歳代 女 3Aクラブに入会しましたので、先輩の皆様との交流や活動を楽しみにしています。
- ・60歳代 女 CCクラブの活動を通して、色々な方とお会いする機会も増え、毎日の生活が充実しています。
- ・60歳代 女 65歳になって、現在勤務している福祉団体を退職したら、CCクラブでがんばろうと思っております！！
- ・80歳代 男 区の活動については以前から感心しているが、関連団体、CCクラブの活動については余り関心がない。

④組織運営（担い手、体制、予算など）について

- ・年齢・性別無回答 今回の役員が10期生が半数だが、その理由を知りたかった。反対ではなく、賛同するが、理由を知りたい。組織が出来ているとか、人材が特に揃って

いるとか…。

- ・70 歳代 男 地域CCクラブの運営を担う新しい人が現れないという継承の課題がある。地域CCクラブに予算がなく、地域活動を広げるには限界がある。
- ・年齢無回答 男 CCクラブの助成金等の使用実績のチェック強化。会計監査を厳密に行う必要がある。
- ・80 歳代 女 CCクラブが仲良しクラブになっている。前は、もっと自由な雰囲気、楽しかった。老兵は去るのみである。(リストラにあつたみたい)。定年になり、上記から脱皮と夢をもって入ったものの、元の木阿弥である。リーダー格が、一人牛耳って、狭苦しい。イノベーションをした方が良い。老人クラブでも、商店街でかたまっていると前からの柵(しがらみ)があるとかの傾向がある。会員の気持を無視した、地域の絆などありえない。バールにつつまれた運営である。ひきこもり、孤独等をなくすCCであってほしい。平等、公平、民主主義が大切。よろしく、お願い致します。
- ・80 歳代 女 新しい課題が持ち上がると、運営委員の皆様が真剣に取り組んで下さるので引き続きよろしくお願いいたします。
- ・60 歳代 男 (CCクラブについて) 多岐に亘る精力的なご活動に敬意を表しますが、一方で活動報告や議事録の膨大さに気後れを感じます。組織が巨大化、肥大化(今後ほぼ自動的にCC大学の卒業生を毎年、受け入れ?)していく一方になるのではないのでしょうか。簡素化や大きな枠組みでの分轄・再構築(会員交流主体、自己啓発支援主体、地域活動主体、ボランティア主体、寄付事業主体等…)についても検討しては如何でしょうか。
- ・80 歳代 男 ①CCクラブの法人化。②行政のCCクラブへの積極的支援。高輪支所、各支所協働推進課以外の窓口のほとんどがCCクラブについての理解がない(知らないようです)。③行政、社会福祉協議会等からの交流資金供与。
- ・年齢無回答 女 地域CCクラブの活動をもっと活発に推進すべきと思う。700名を超える会員を抱えたCCクラブ本部の役割はそれなりに変わってきていると思うので、これからは各地域CC毎の活動に注力し、行政などとの調整役に廻り、各地域CCクラブ(4地域)の活動を盛り上げていってほしい。

⑤行政や関係機関との連携について

- ・70 歳代 女 CCクラブ会員側だけでなく、行政にとっての、CC大学やCCクラブの存在はどのようなものなのだろうか。16年という長い年月の中で、変化や得るものはあったのだろうか。こちらの方から行政にアンケートをとってみたい。
- ・80 歳代 男 20年前に比べると、格段に、行政の在り方も、住民の活動も、地域活動が活性化している。更に、行政や各種団体に住民(CCクラブ会員)が参画し、活動の効率を高めることを期待したい。
- ・70 歳代 女 行政、社協、自治会、CCクラブの地域活動が各々、様々に展開されていて、類似の活動も多いと感じる。しかし、それぞれの活動の連携や情報共有が成されていないように感じる。また、その活動参加をしようと思った時、どこに所属し

て参加できるのか解かりにくく、参加しづらい。

- ・60歳代 女 C Cクラブの活動は、地元に基づいたサロンの開催や趣味に関する活動などが中心で、それも大切だと思うが、もっと、大学や自治体（区）と連携した活動が展開できるようになればと思う。港区をさらに住みやすく、住民どうしの交流もある街にするには、そういった街や区ぐるみの活動（予算も必要）の展開が必要だと思う。たとえば、白金どんぐり公園での朝のラジオ体操には、50歳以上の人々が集まるが、そのネットワークを生かした活動（緑の利用など）などもできるのではないかと思う。

⑥会員間の連絡・交流について

- ・60歳代 女 ①C C大学を卒業すると自動的にC Cクラブに所属し、メールアドレスもC C大学に出したアドレスが引きつがれると皆が思っていました。一斉メールアドレスや、地域コミュニティの参加の意志をC C大学の「まとめの会」あたりで集計（情報収集）しておけば4月以降にリーダーがあわててグループに連絡する必要もなくなります。②今後はSNSに慣れた人がC Cクラブに入会してきます（想像）。LINEでのC Cクラブからの情報発信が出来ればより早くメンバーもアクションに移せるかと思えます。
- ・60歳代 男 近所にC C大学の卒業生が居るようであるが、どなたなのかほとんど知らない。どうしたらよいでしょうか？
- ・60歳代 女 各地区のC Cクラブ活動について、「知らない」と言う会員の方が多数存在している実情を知りました。各クラブに参加希望を出しても、自分からアクセス出来ていないのが問題のようです。又、毎月の議事録も見ていただけてない様子。何か改善策が必要と思えます。
- ・70歳代 女 仕事を持っているため、平日の日中の集まりには出席できないので残念です。またLineをしていないため、同期からの情報が全くないため、活動実態が分かりません。
- ・80歳代 女 所属する地域内外の情報が少ないと感じます。一斉メールを依頼してないからでしょうか。やはり全体の情報が必要でしたね。
- ・70歳代 女 C Cクラブホームページの閲覧や投稿を、同期の人に勧めているが、それらをしている度は少ない。LINE公式アカウント、FB、Twitterを取り入れた方がメンバー同志の反応が増加すると思う。

⑦活動参加者を増やすことについて

- ・70歳代 女 2007年にC C大学が始まって16年、これまでに約850名の卒業生をだした。現在活動している人の実態調査を行い、新たなデータが得られると思うが、活動している人よりも活動していない人の理由等を把握する事で、課題や対策も考えられると思う。
- ・70歳代 男 C Cクラブ会員は750名に達しているのに、その中で地域活動や福祉活動に関わっている人は多くないと思う。今回の調査でも人数は把握できるはずだが、不参加の大きな原因は、敷居が高い、何から参加したら良いか判らない等がある。

解決には、「手を差しのべる」「声をかける」等、小まめな努力が必要。CC大学費用は一人に対し多額がかかっているはずで、これを港区が負担しているのだから恩返しの意味でも充実を望みたい。ちなみに、他大学では殆んど受益者負担であった。

- ・70歳代 男 今後、例えば他のCCクラブの人々がどのような活動をしているかを、確認する場（テーマを設定し）を設け、話し合い、そうした中で地域活性化への輪が広がって行くと思う。〇〇地域若しくは、〇期〇Gの集りに出て、交流の場に出て、“単に交流＝世間ばなしをするだけ”では何か何処か違うと思う。（CCクラブの）さまざまな人々が今、どのような社会貢献活動をしているのかを確認し合っこそ、前向きに成れると思う。事務局側として、CC大学で学んだ事を無駄にしない為（相当投資したと思う、その見返り（卒業生が港区地域の活性化にもっと働くこと）を真摯に追求し）に、より具体的な方策を講じて行くべきだと思う。
- ・70歳代 女 CC大学は、地域のボランティアグループリーダーの養成が目的の一つになっていたと思います。しかし数年たつと私達のグループの方々には集りにも無関心の方が多く、毎回メールを出しても無反応の方が多くいます。そこで、これからのCC大学に期待する事は2つあります。①インターン制の充実、もう既に行なわれていますが、在学中にCCのボランティアグループに3ヶ所以上参加し、修了後の感覚のイメージを持たせる。②リーダー養成となっている事に違和感を持つ人をすくい上げる。皆が皆リーダー体質ではないので、下支えできる人も貴重、その意味でも①の体験は大事。

⑧CCクラブ活動のあり方について

- ・70歳代 女 CCクラブに疑問？CCクラブ入学時にすでに年齢的には若くない！年々、高齢になり、以前より精神的にも身体的にも衰えるのがあたり前である。無理に活動しなくてもCC大学で学んだことを実践（個人個人で）すれば良いと思う。とくに活動が見つからなくても良いのでは？
- ・70歳代 女 CCは、上段に構え過ぎているのでは…と思うことがある。多様な意見・目的はあって当然だが、根本が共有されてはいないと思う。
- ・70歳代 男 行政における「CCクラブ」の位置づけが未だによくわからない。CC大学自体が「地域で活動するリーダーを養成する」ことを目的としている以上、修了後が重要だと思うのだが、それを行政がサポートする姿勢が全く感じられない。言ってみれば、「自主的」という名の放置プレイになっている。その結果、閉ざされた組織になって、地域とのつながりよりも会員同志の交流が主になる。物心両面での交流活動が必要なのに、予算すらなく、活動は自らの持ち出しとなる。社会活動を求めるなら、チャリティーとボランティアの線引きをしっかりとつける必要があると思う。

⑨CCクラブのPR、認知について

- ・70歳代 女 CCクラブの存在自体を、区の公報をメインにもっとPRし、認知度を高めてはいかがですか。
- ・70歳代 女 CCクラブで学んだことを地域…特に町会での集まりなどで話す機会がない（個人的な学習の場くらいに思っている）。

- ・70歳代 男 CCクラブは、今や大きな組織・団体であるが、地域社会との連係や、協働活動は必ずしも充分とは言えないと感じている。活動している人は、間違いなく存在しているが、その数は少なく限られた人のみが活動しているのではないかと考えている。また地域住民にもっと認知されるような組織となるべく、活動を活発にし、PRしてもよいと考える。

⑩高齢化による活動への影響について

- ・70歳代 女 CC大学に入学した時は、62歳で若い方だった。経年で、年上の方は、更に高齢化し、同期のクラブ集会はあるが、超高齢者ばかりで、新しい行動がむずかしい。故に、同期CCクラブ会員とは疎遠になっている。趣味のサークルで若い人と交流したほうが、学びが多い。
- ・70歳代 男 CC大学入学生の年代が我々の時（約10年前）より高齢になり、地域のリーダー養成とうたっているが実情は難しいのではないかと！年令で70歳をこえると新規の地域活動をリーダーとして開始する気力や体力面で困難と思う。私が学んでいたCC大学の学生は平均で60歳代台だったと思います。

⑪活動を求めてほしくない

- ・80歳代 女 私の加入しているCCクラブの組織は、暇な方（特に男性）方は四季折々の「楽しみ」を楽しみにしている方が多い様です。私は、CCクラブの内容を良く把握せず入学してしまい（先生方、学習の内容はとても良かった。）、終了してからの交流等の誘いが、とてもわずらわしく思っている。なかなか、お誘いに入る時間も、気持も持てないでいる。いろいろと一生懸命活動して下さっている方々には大変、申し訳ございません。お世話様です。ありがとうございます。
- ・70歳代 女 私自身、チャレンジコミュニティ大学に1年間通ったことは、とても良い経験でした。その後、CCクラブに貢献できていませんが、それでも、個人的には、地域活動を続けております。あまり修了後の活動を求めないでほしい。

2. CC大学に関すること

①講義内容、開講方法について

- ・60歳代 女 CC大学で学んだ1年間はとても貴重なものでした。他の区に住む友人に話を聞いても、CC大学のように1年にわたってカリキュラムが組まれているような学びの場はないようです。折角の学びの機会をもっと区民に知らせる努力が必要だと思います。16期生が49名というのはとてももったいない事です。CCのカリキュラムの一部分を広く区民に公開してはいかがかと思います。例えば法律一暮らしに役立つ民法、遺言について、CCで学んで初めて知った事が沢山ありました。また福祉—社会養護・里親養育について、多くの区民が知る事によって、里親希望等あるのではと思います。
- ・70歳代 男 CC大学の研修メニューや仕組みがマンネリ化している。他の区などの成功事例を参考に見直してはどうでしょうか。今後も継続の必要は大いにありますが、時代や環境変化に伴って“変化”することを強く望みます。

- ・年齢無回答 男 活動をやるには、高齢者を多く取りすぎ、老人会になってしまう。

②CC大学への感謝

- ・80歳代 女 CCクラブに入学卒業して、現在は元気にシルバーセンター所属で働いています。色々な知識を教えていただいた事は本当に良かったと思っています。卒業生の方とふれあい卓球で楽しんでいます。日本赤十字看護大学敷地内にて野菜をつくっていたので自宅でも菜園をつくって楽しんでいます。CC大学で学んだ事は良き勉強、良き友人、良き思い出になりとても感謝致しております。有難とう御座居ました。
- ・70歳代 女 コロナ禍で見学等中止になる授業もありましたが、一年間CCに入学して学べた事は大変有意義な事でした。事務局の皆様、先生には感謝しております。歳に関係なくチャレンジする事は楽しいと実感しました。

③さらなる学びの機会について

- ・70歳代 女 近所にもCC卒業生は多いと思うが、一堂に会する機会がなく、誰が卒業生かわからない。全員集まることはむずかしいので、年に1～2回の明学食堂での懇親会や年に4回くらいの勉強会で多くの人と知り合いたい。何が共通項かといえば「1年間学ぶ」だったと思うので、プラチナカレッジのような企画をシリーズではなく、単発で企画してもらおうと参加しやすい。昼、夜、いろいろあると、夜は苦手という人にもよいし、昼は仕事という人も参加しやすい。また、CCの大学院的な学びの機会がほしい。分野は何ともいえないが、個人的には美術やキリスト教関係を望んでいます。
- ・60歳代 女 今期のCC大学には定員に満たなかったようだと言われ近所の方からお聞きしました。一年間、明治学院に通わせて頂き、多くの方（同じ港区内）とお知り合いになり年令も関係なくお話し出来た事は、私にはかなり影響をあたえたような気がします。今は、同じクラスの方達とのラインのやりとりのみになってしまいましたが、又、学ぶ機会が与えてもらえるのでしたら、是非もう一度参加したいと思いました。同期の中でもなかなかお話しする機会がなかったので、よろしく願い致します。

3. 港区行政サービスに関すること

①連携・協働について

- ・80歳代 女 地域貢献の願望はありますが、個人（民間）のみでも行政のみでも偏りがあるように感じるので、両方の連携が必要と考えます。今までの経験から行政の側は、最後は民間に丸投げの傾向が多かったように思いますので、行政側は是非最後まで共に活動をして頂きたいと願っています。
- ・70歳代 男 行政における「CCクラブ」の位置づけが未だによくわからない。CC大学自体が「地域で活動するリーダーを養成する」ことを目的としている以上、修了後が重要だと思うのだが、それを行政がサポートする姿勢が全く感じられない。言ってみれば、「自主的」という名の放置プレイになっている。その結果、閉ざされた組織になって、地域とのつながりよりも会員同志の交流が主になる。物心両面での交流活動が必要なのに、予算すらなく、活動は自らの持ち出しとなる。社会活動を求め

るなら、チャリティーとボランティアの線引きをしっかりとつける必要があると思う。

- ・70歳代 女 行政、社協、自治会、CCクラブの地域活動が各々、様々に展開されていて、類似の活動も多いと感じる。しかし、それぞれの活動の連携や情報共有が成されていないように感じる。また、その活動参加をしようと思った時、どこに帰属して参加できるのか解かりにくく、参加しづらい。

②港区職員の業務について

- ・70歳代 男 港区は仕事を業者に委託しないで職員で業務をしてほしい。そうすることが区民の声を聞くことになり区民ファーストの政策ができる。
- ・70歳代 女 港区の施設に配布されている印刷物は不要な物が多く、ペーパーレスの時流に逆行していると思うことがしばしばあります。その分、こども食堂などの予算を増やしては？と思っています。
- ・60歳代 女 マンション内老人会（区老連所属）を運営しています。サロン会を毎月第1土曜日の午前中にやっていますが、行政や社会福祉協議会、港区の関連団体に講演等を依頼しても“土曜日はむずかしい”と断られる事が多いです。ぜひ、やって頂ける様をお願いします。

③CCクラブ活動への支援（資金面を含む）について

- ・60歳代 女 何かを企画した時お金がかかる場合もあるので、CCクラブにも港区より予算がとれたらいいのではないかと時々思う場面があります。
- ・80歳代 男 行政のCCクラブへの積極的支援。行政、社会福祉協議会等からの交流資金供与。

④行政への感謝

- ・70歳代 女 有り難い事に、行政、社協さん助けていただく事が多いので感謝しています。
- ・80歳代 女 港区は他の区と比較して、福祉等は手厚く高齢者にとり、ありがたいと感謝しています。

⑤公助の充実

- ・70歳代 女 高齢者は集団自殺しろとまで言われる世の中、生産性がないと弱い立場の者を邪魔者扱いする風潮が強まる中、全ての人の人権が守られるよう活動を続けていかなければと痛感しています。自助の前に公助を充実させたいです。

4. 社協、福祉サービス、地域活動などに関すること

①地域活動について

- ・70歳代 女 地域活動において孫もボランティアに参加できる（港区以外在住）と良いなと考えます。春休み、冬・夏休みに高齢者と一緒に、安心できる地域でのボランティア参加が実現できたら嬉しいです。（在住、在学の子供がボランティア参加資格条件となっている。祖父・祖母が港区在住ならよし、としてほしい）
- ・年齢無回答 女 子供の居場所を多く作って欲しい。食堂だけでなく、おやつを食べながら、いろいろな世代の人とおしゃべりできるようなものを。個人的には英語塾に行けない子供達に英語で遊べるような場所を作りたい。

- ・70歳代 女 時代の流れで仕方ない事ですが、親の代から70年以上親しんだ居住地で、廻りがマンションに建て替り、知り合いも減って“隣は何をする人ぞ”があたり前に！！若い時から地域に参加したいと思わせる“何か”を、活動を通して探したいと思います。
- ・70歳代 女 国際交流、港区内で暮らす外国人、留学生などの日々の生活を支援する活動、大学も協力できるのでは。社会福祉はこれら少数の人たちにも及んでほしいと思っています。

②福祉サービスについて

- ・70歳代 女 夫を亡くし、これからの老後で、自分の健康に不安となった時、このような時には、こんな支援があります。例えば、寝た切り状態・半身不随になった時、酸素ボンベを引きずって生活をしなくてはならない時、どのような支援があるのか？具体的に教えて欲しいです。
- ・60歳代 女 コロナ禍の中、大学も港区も力合わせ、CC大学を開いてくれたおかげで少しずつボランティア等もコンスタントに行なわれる事を嬉しく思います。いろいろな所に目をくぼるのが、家族介護等でむずかしいので、簡単に相談や聞くことの出来る窓口が1つあれば嬉しいです。
- ・80歳代 男 近頃いきいきプラザなどのコーナーでスマホの取扱いについて相談コーナーがある。大変良い企画で利用出来ればよいと思っている。ドコモなどの現状は予約制であり、翌日以降になるので調整しづらい。

③社会福祉協議会への感謝

- ・80歳代 女 社協には日頃からお世話になっております。町会としてこれからも御相談する機会も増えると思います。職員の皆さまの一人ひとりが聞く耳を持っている、傾聴、受容力の深さがあります。素人を相手にケースバイケース、心が痛みます。各々の立場でいい方向づけが出来ることを願います。
- ・70歳代 女 社協、高齢者相談センター、らくっちゃ、いきいきプラザの方々には、いつも協力していただき感謝しています。行政では皆さんの活動をどの様に把握され理解されているのか、各地区の理解などが同じなのか、機会があれば知りたいと思います。

④ボランティア活動への資金援助について

- ・70歳代 女 地域でしているボランティアに対して、社協から補助金をもっと出してほしい。補助金がでて、寄付金を〇〇円以上おさめる事と、決められるので、非常に苦しい。会計監査をしっかりともらい、不正がないようにすればいいのではないか。

5. 高齢期の暮らしと問い（体力、健康、介護等の影響）

①体力・健康上の問題

- ・80歳代 女 私は、昔から人の集いは、学びも、労働も、趣味も大好きでした。が、CC大学を卒業の頃から聴力が劣えはじめ、両耳の補聴器を着けても、二人以上の集りの会話はさっぱり理解出来ない状態になりました。定期的に医院にも通い補聴

器屋さんにもお世話になっていますが、「話していることが解らない」辛さ、悲しさ、悔しさは未だに慣れません。そんな訳で、全ての集まりから遠ざかって、活動というものから身を引きました。でもまだ私でも出来ること、「家事」をして家族を支えること。「老々介護」ですが…。笑顔で、それなりの元気を保って、感謝して暮らしていけたら、CC大学とCCクラブの卒業生として「かけがいのない、充分すぎる楽しい思い出」を頂きました「御礼」を申し上げたくて書きました。ありがとうございました。

- ・80歳代 女 身近で自分出来ることはさせていただいております。体力と相談しながら、グループ活動は体調不良の時、周りに迷惑をかけてしまうことが心苦しいため遠慮しています。
- ・80歳代 女 ボランティア活動を、もっと積極的に参加したいが、体力的に自信がなく大変残念に思っている。
- ・80歳代 男 自分の体力の問題が一番であり、今後地域活動もボランティアも小さなことのみのような気がします。たとえば行政とかかわりながら出来る様なことがあればと考えています。

②高齢期の暮らしと思い

- ・80歳代 女 私はチャレンジコミュニティ大学を修了して、もう15年も経っているとは？時として時代を感じることもありますが、港区に生活する者として新しい意見は取り入れて共に進んで行きたいと思えます。若い若いながらも、新しい光を見つめています。
- ・年齢無回答 女 10年夫の看護をしていました。これからは私自身がどうすれば、家族の負担を最少に出来るか考え中でおります。
- ・80歳代 女 どんどん年をとるので歩く速度や仕事もSlowになっていちばん最後になってしまい恥しいことですが、“あり”のように遅いあゆみですが死ぬまで元気に笑顔で感謝にあふれて毎日出来るだけのことは心をこめてひそやかにつつましく行動していきたいと願っています。本当にあの楽しい学びの日々を思い出しております。ありがとうございます。皆様の御健勝を心から祈りおります。
- ・80歳代 女 義務感で何かをやらねばでなくても、必要や、困った状況を見聞きした時、率先して、行動に移して行ける高齢者でいたいと思えます。クラブ経営関係の皆様には、いつも感謝しています。これからも、よろしくお願い致します。協力はさせていただきます。

③家族介護

- ・年齢無回答 女 親の介護により卒業後CCクラブへの参加が出来なくなり、そうなる今からの参加が難しくなりました。コロナによる外出を控えた事により対人にいささか用心する様になった事も一因と思っております。しばらく不参加でも、意を決して加わっていこうと思えます。メールでのお知らせ、郵便による伝達をいつもありがとうございます。

6. コロナ禍の影響に関すること

- ・70歳代 女 コロナ以降、人と会うこと、話すこと、すっかり無くなりました。

- ・80 歳代 性別無回答 コロナに時代が変り、私の体調も変化し、高齢でもあり、活動も難しくなりました。これから、若い方達の活躍を楽しみにしています。

7. その他

- ・70 歳代 女 私は2020年のコロナが始まると共に遠い地域に移住しました。コロナの最中でもあり、世界中が停止している中での、他地域への移住生活は地獄の様でありましたが、そんな中に於いてCCの仲間が誘ってくれた「カンガリ活動」への参加はとて嬉しく、誰かのために役に立てる事がこれ程までに自分を勇気づけるとは思いませんでした。

CC大学に通った事、仲間に出会えた事…に感謝します。東京に暮した事、港区に暮した事を生涯一番の誇りに思います。現在は移住先での地域活動を開始しました。高齢者の見守り活動などを勉強しております。

- ・70 歳代 女 今後少子高齢化に向って必要なのはハードとソフトであると思っている。それぞれの役割を新たに認識して、10年後を考え行動してゆくことが求められるでしょう。私は、人生の最後はソフトの部分が重要と考えられますので自分出来る範囲で学び、どこも共有して実行できるのか自分自身の最期に向ってソフトを学び続けたいと個人的には考えております。CCクラブの学びが基礎となっております。

III 自由回答からいえること

1. CCクラブに関すること

①活動内容について

- ・組織の基本的な在り方や現在の会員、もしくはCCクラブ組織全体の活動についての指摘がある。
- ・CCクラブの認知度を高める活動の要望や、多様な意見を聞けるように年齢層の若い人の参加も良いのではとの意見もある。

②CCクラブへの感謝

- ・CCクラブの運営に関わっている人への感謝の表現がある。
- ・自身の活動を紹介しつつCC大学で学んだことへの感謝の言葉がある。

③活動への意欲について

- ・今後の活動について社会貢献をしたい意欲がある人がいる一方、区の活動にあまり関心のない人もいる

④組織運営（担い手、体制、予算など）について

- ・地域CCクラブの運営を担う人が少ない現実とその原因について述べる意見がある。
- ・現在のCCクラブ運営部門の人員構成やあり方についての意見がある。
- ・CCクラブの在り方そのものについて具体的な意見がある。
- ・地域CCクラブの活動について活発な活動を期待する意見がある。

⑤行政や関係機関との連携について

- ・行政がCCクラブをどう見ているか知りたい、という意見がある。
- ・行政の在り方や期待の意見があり、連携に関しては疑問の意見もある。

- ・CCクラブと大学、行政が連携する活動に期待する意見がある。

⑥会員間の連絡・交流について

- ・CC大学在学中の個人情報修了後にも使わせて欲しいとの要望がある。
- ・CCクラブの情報伝達をHP以外にも展開する必要性の指摘がある。

⑦活動参加者を増やすことについて

- ・修了生が増加した現在、活動していない人についての指摘がある。
- ・CC大学に期待し、今後、より多くの人に関心を持てるような具体的な例をいくつか提案された人もいる。

⑧CCクラブ活動のあり方について

- ・CC大学の高齢化に対して、個人の活動実践だけで、他人への活動を求めないでほしいという意見がある。
- ・行政のCCクラブに対する位置づけについての意見がある。

⑨CCクラブのPR、認知について

- ・CCクラブが大きな組織になり地域社会との連携やPR活動が十分でない指摘がある。

⑩高齢化による活動への影響について

- ・CC大学入学以来、年数が経ち、超高齢者同士の活動が難しい、CC大学入学生が以前より高齢化し、「リーダー養成」は難しい、という指摘がある。

⑪活動を求めてほしくない

- ・CC大学の経験は良かったが、修了後の活動を求めないで欲しい、との要望もある。

2. CC大学に関すること

①講義内容、開講方法について

- ・CC大学のような学びの場は他区にはないので、カリキュラムの一部を区民に公開してはどうか、との意見の一方、カリキュラムのマンネリ化しているとの指摘がある。

②CC大学への感謝

感謝の言葉もある。

- ・CC大学中の学んだことが修了後の活動に生かしている。感謝している。
- ・コロナ禍中の入学で見学の中止等があったが、事務局や先生に感謝している。

③さらなる学びの機会について

- ・修了後に一堂に会する機会がなく修了後の学びの機会が欲しい、との意見がある。

3. 港区、行政サービスに関すること

①連携・協働について

- ・個人（民間）と行政の連携が必要、行政におけるCCクラブの位置づけが不明、との意見がある。
- ・区が社会活動を求めるのであればチャリティーとボランティアの線引きを明確にする必要性に関しての意見がある。

②港区職員の業務について

- ・港区は業務の在り方や印刷物は不要なものが多い、との意見がある。

③CCクラブ活動への支援（資金面を含む）について

- ・ CCクラブにも港区より予算がとれたら良いと思う、との意見がある。

④行政への感謝

- ・ 行政や社協に助けられていることが多く感謝している、指摘がある。(つながりがよくわかりません)

⑤公助の充実

- ・ 自助の前に公助を充実させたい、との意見がある。

4. 社会福祉協議会、福祉サービス、地域活動などに関すること

①地域活動について

- ・ 地域活動に孫と一緒にボランティア活動ができると良い、子供の居場所が多く欲しい、国際交流、外国人、留学生を支援する活動ができると良い、との意見がある。

②福祉サービスについて

- ・ 一人での老後生活への支援内容についてや、家族介護等で気軽に相談できる窓口についての要望がある。
- ・ いきいきプラザにあるスマホの相談場所が利用出来れば良いと思う、との意見がある。

③社会福祉協議会への感謝

- ・ 社協の職員が聞く耳を持っていること、社協、高齢者相談センター、ラクっちゃ、いきいきプラザの協力を感謝している声が寄せられている。

④ボランティア活動への資金援助について

- ・ 地域で活動しているボランティアに補助金が欲しい、との意見がある。

5. 高齢期の暮らしと意思（体力、健康、介護等の影響）

①体力・健康上の問題

- ・ 自身の体力の問題から活動できない、との声がある。現在は老々介護だが、CC大学、CCクラブ卒業生に「かけがいのない、充分すぎる楽しい思い出」をいただいた、との文章もある。

②高齢期の暮らしと意思

以下のような文章がある。

- ・ 老い老いながらも、新しい光を見つめています。
- ・ どうすれば家族の負担を最小にできるかを考えている。
- ・ 義務感で何かをやらねば、でなくとも、必要な時や、困った状況を見聞きした時、率先して、行動に移して行ける高齢者でいたいと思います。

③家族介護

- ・ 親の介護で CC 大学卒業後活動できなくなり、今からの参加は難しい、との意見がある。

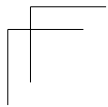
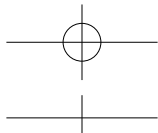
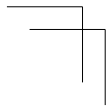
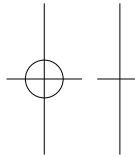
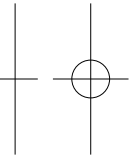
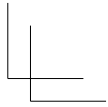
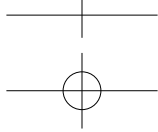
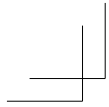
6. コロナ禍の影響に関すること

- ・ コロナの影響で体力が落ちて活動ができないという声がある。

7. その他

- ・ 遠い地域に移住したが、他地域でもできる「カンガリ活動」の参加はでき嬉しかったことや移住先で地域活動を始めたとの知らせもある。

- ・少子高齢化に向かって必要なのはハードとソフトである。10年後を考え行動することが必要です。CCクラブの学びが基礎となっています。このような意見もあった。



5 2023年活動実態調査から見えてきたこと ～2018年調査結果と比較して～

CC大学修了生が参加しているCCクラブは新型コロナウイルスの影響で一年間修了生を迎えられなかったが、2023年4月には新たに15期生が参加し、現在、約750名の会員がいる。

2023年6月に全会員を対象に「チャレンジコミュニティ・クラブの実態と活動に関する調査」を行った。総発送数は753通で、回収された総数は477通。そのうちの有効回答は63%の471ケースだった。

年齢について、回答者の平均年齢は75歳であったが、前回の72歳より3歳アップした。今回の調査では前回との比較のために同じ内容の質問項目を設けた。この章では前回調査と今回調査を比較して考察した。

(1) 回答のあった期別分類

前回の調査対象は1期から11期で、今回は1期から15期まで行った。回答の最も多かったのは15期で全体の10.4%で、ついで10期、11期がともに8.3%であった。最も少ない期は2期の4.0%で続いて1期の4.5%、3期の4.7%であった。なお、回答数では前回と比較すると2期は3人減少しているが、1期は同数の人から回答があり、3期は7人増加している。

(2) 性別と年齢について

性別は、前回は女性が58.7%で男性が38.9%だったが、今回は女性が63.7%で男性は35.0%。女性の比率が増加し、男性の比率がわずかに減少した。

年齢については最低年齢が60歳、最高年齢が92歳で平均年齢が75歳であった。前回は最低年齢55歳、最高年齢89歳、平均年齢は72歳であった。

各年代別と前回調査の結果は次の通りである。「70歳～74歳」が最も高く30.8%（前回32.0%）を占め、次いで「75歳～79歳」が24.2%（前回20.4%）であり、70歳代を合計すると55.0%（前回52.4%）で全体の5割を占めている。一方、「80歳～84歳」は16.1%（前回5.1%）となっている。80歳以上を合計すると20.5%と全体の約2割（前回6.3%）を占めている。

年齢的にはこの4年間でさらに高くなっているが、これはCCクラブが2008年に発足して15年を経ており、順次高齢化が進んでいることも考えられる。

(3) 居住地について

「高輪地区」が40.3%（前回45.8%）と最も割合が高い。次いで「芝浦港南地区」が18.9%（前回15.3%）、「芝地区」が14.9%（前回16.5%）、「麻布地区」が12.3%（前回11.1%）、「赤坂地区」が10.6%（前回9.6%）となっている。高輪地区と芝地区の比率が減少し、その他の地区が増加している。特に「芝浦港南地区」が前回に比べて3.6%も増加している。

高輪地区が最も高いのはCC大学が明治学院大学で行われ通学の利便性の高さもあると思われる。

(4) 健康状態について

「良い」と「まあ良い」の合計で64.3%、前回の67.3%に比べて微減である。一方「良くない」と「あまり良くない」の合計が8.7%で前回の10.5%よりも減少している。

コロナ禍を経験したにも拘わらず自身の健康状態について「良くない」「あまり良くない」と答えた人はわずか8.7%しかいない。

(5) CC大学入学動機について

最も割合が高いのは、「港区の広報紙で知り、CC大学の理念に共感したから」が43.6%（前回38.3%）、次いで、「自分の住んでいる地域の土地柄・風土・歴史に関心を持つようになったから」が33.6%（前回32.0%）、「人生の転機にあたり多くの選択肢の中から選んだ」が28.9%（前回22.8%）、「CC大学修了生に勧められた」が26.6%（前回31.4%）、そして、「すでに地域貢献に取り組んでおり、さらに深堀を目指した」が17.4%（22.8%）となっている。これ以外の動機は概ね10%前後の割合であった。

この項目については前回調査よりも動機に変化がみられる。

「港区の広報誌で知り、CC大学の理念に共感した」が前回は大きく上回っている。そのほかは概ね前回調査よりわずかに増えているが、「CC大学修了生に勧められた」と「すでに地域貢献に取り組んでおり、さらに深堀を目指した」の2つの動機がわずかに減っている。コロナの期間従来行われていたCCクラブ会員からの口コミでの周知が減少したことも要因と思われる。

(6) 最長職について

最も割合が高いものは、「勤労者（事務職）」で20.2%（前回21.6%）、次いで、「勤労者（営業・販売・サービス業・店員など）」が11.0%（前回11.1%）、「会社経営者・会社役員・団体役員」が10.4%（前回12.3%）、「自営業・家族従業員」が9.3%（前回8.1%）である。前回に比較しても大きな変化はない。ただし、専業主婦・専業主夫・無職は前回の13.8%から16.6%と増加した。

(7) CC大学修了後の交流について

1期～12期の会員と13～15期の会員に分けて質問をした。

① 交流の有無について

前回は交流しているが91.3%で、交流していないが8.7%だった。今回は1期～12期では「コロナ禍以前は交流していたがコロナ禍後に交流を止めた」が

11.8%。これはコロナの影響が考えられる。これに「交流している」の68.2%を合わせて80.0%である。

前は交流していると答えた人は91.3%で、今回の80%との差は11.3%でありこの差はコロナの影響もあるが、コロナ禍とは関係なく減少していることも考えられる。

また、13期～15期においては交流している人が75.0%であり、1期～12期の68.2%より高くコロナ禍であってもCCクラブ会員間の交流が多いと考えられる。

② 交流内容について

前回の1期～11期対象の調査では「CC大学時代のグループ活動への参加」で73.2%を占めている。次いで、「グループ活動とは別の個人的交流」が43.1%、「地域CCクラブでの交流」が43.5%、「運営委員会、部会に属したから」が19.1%となっている。

今回の1期～12期では「CC大学時代のグループ活動への参加」で62.4%を占めている。次いで、「グループ活動とは別の個人的交流」が49.5%、「地域CCクラブでの交流」が33.7%、「運営委員会、部会に属したから」が19.0%となっている。

13期～15期では「CC大学時代のグループ活動への参加」が38.4%で「グループ活動とは別の個人的交流」が65.1%、「地域CCクラブでの交流」が46.5%、「運営委員会、部会に属したから」が29.1%となっている。

1期～12期までと13期～15期までとは交流内容に占める割合に大きな相違がみられる。コロナ禍以前にすでにグループ活動を活発化していた前者と、コロナ禍でCC大学の生活やその後のCCクラブでの活動の制限を余儀なくされた後者では交流内容も影響を受けたと思われる。

③ 交流目的について

前は「楽しみの時間を増やしたい」が61.6%と最も割合が高く、次いで「地域活動のきっかけを作りたい」が49.0%となっている。「特に目的はない」が8.6%、「一人だけの不安感を減らしたい」が3.0%であった。

今回の1期～12期でも「楽しみの時間を増やしたい」が64.2%と最も割合が高く、次いで「地域活動のきっかけを作りたい」が42.9%となっている。「特に目的はない」が10.6%、「一人だけの不安感を減らしたい」が2.1%であった。

13期～15期では「楽しみの時間を増やしたい」と「地域活動のきっかけを作りたい」がともに62.8%となっており最も割合が高い。「特に目的はない」が10.5%、「一人だけの不安感を減らしたい」が4.7%であった。

13期～15期において、前回の調査や1期～12期との顕著な違いは「地域活動のきっかけを作りたい」が大きく増加していることである。コロナ禍で思うようにできなかった地域活動への意欲がうかがえる。

④ 交流の頻度について

CCクラブ会員との交流の頻度については、前回は「月1回程度」が39.0%、「月2回以上」が34.1%、「不定期」が21.6%、「隔月」が4.6%であった。

今回の1期～12期については、「不定期」が34.4%と最も割合が高く、次いで「月1回程度」が31.6%、「月2回以上」が25.6%、「隔月」が7.4%であった。

13期～15期については、「月2回以上」が35.6%と最も割合が高く、次いで「月1回程度」が32.2%、「不定期」が27.6%、「隔月」が3.4%であった。
各期によってわずかに頻度の差がみられる。

⑤ 交流がない理由について

前回は「忙しい」が34.5%、「今は出来ないが今後交流したい」が24.1%、「あまり必要ない」が17.2%、「必要ない」が6.9%、であった。

今回CCクラブ会員との交流がないと答えた1期～15期生ままでの99名にその理由を尋ねた。

1期～12期の71人では「あまり必要ない」が28.2%、「その他」が26.8%、「必要ない」と「今は出来ないが今後交流したい」がともに14.1%、「忙しい」が5.6%であった。「忙しい」が大きく減少し、「必要ない」が大きく増加した。

13期～15期28人では、「今は出来ないが今後交流したい」が50.5%で、「あまり必要ない」が21.4%、「必要ない」と「忙しい」「その他」が7.1%であった。

この項目の質問においても13期～15期の「今は出来ないが今後交流したい」の50.0%が1期～12期に比べて大きく増加している。

(8) 生活上の困りごとについて（ここからは1期～15期まで全部の期の回答である）

① 生活上の困りごとの有無について

「ない」が66.5%（前回76.9%）、「ある」が31.8%（前回20.1%）であった。

② 生活上の困りごとの内容については

最も割合が高いものは「健康・医療」で、63.3%（前回64.2%）を占めている。次いで「大地震・火災時の対応の不安」が42.0%（前回35.8%）、「福祉・介護」が21.3%（前回25.4%）、「地域の繋がりが希薄化」が18.7%（前回20.9%）、「買い物環境」が14.0%（前回9.0%）であった。また、「コロナ禍による諸問題の不安」が16.0%であった。前回、26.9%あった「収入・経済的課題」については12.7%と少なかった。

内容の上位は前回と変わらないが、コロナ禍による諸問題の不安が新たに増えた。

(9) CC大学入学以前と以降の意識について

① 入学前は仕事（家事）中心だったかどうか

「そう思う」が42.9%（前回39.8%）、「そう思わない」が34.8%（前回35.9%）、「どちらともいえない」が19.7%（前回18.0%）であった。

② 入学以前から地域活動に関心があったかどうか

入学以前から地域活動に関心があったかどうかについては、「そう思う」が49.7%（前回51.5%）となっている。他方、「そう思わない」が19.3%（16.5%）、「どちらともいえない」が28.7%（前回28.1%）で大きな変化はない。

③ 入学以前に民生委員・児童委員活動を知っていたかどうか

「知っていた」が75.2%（前回72.5%）、「知らなかった」が22.9%（前回23.4%）であった。民生委員・児童委員活動を知っていた人が前回も今回も7割を超えている。

④ 入学以前は社会福祉協議会の活動を知っていたかどうか

入学以前に社会福祉協議会の活動を知っていたかどうかについては、「知っていた」が51.8%（前回54.8%）、「知らなかった」が46.9%（前回41.6%）であった。

民生委員・児童委員活動よりも社会福祉協議会活動の認知度が低いですが、それでも5割を超えている。

⑤ CC大学修了後、今の生活にCC大学は大きな影響を与えているかどうか

「そう思う」が49.5%（前回57.5%）、「そう思わない」が15.3%（前回11.1%）となっている。

このように、CC大学で学んだことは今の生活に大きな影響を与えているが、比率は減少した。

⑥ CCクラブの活動に参加しているかどうか

「参加している」が45.2%（前回64.7%）、「参加していない」が51.4%（前回30.2%）となり、参加している人が大幅に減少した。

ここでもコロナが影響しているという一面も考えられるが、ほかの要因も加味して分析する必要があると思われる。

⑦ 入学以降、新しい友だちがたくさんできたかどうか

「そう思う」が57.5%（前回70.7%）、「そう思わない」が13.2%（6.3%）であった。

前回より「そう思う」の比率は大幅に減少したが、全体の半数以上の人「そう思う」と回答しており、CC大学が、これまでのネットワークとは異なる新しい人間関係の形成に大きな役割を果たしている。特に、コロナ禍の3年間（2020年～2022年）は、人との繋がり希薄化が社会的な問題となった。そのような中、CC大学への入学は、個々の人間関係の形成および地域での繋がり形成において重要な機会となった。

⑧ 入学以降地域（住民）に関心を持つようになったかどうか

「そう思う」が59.7%（前回65.3%）、「そう思わない」が7.6%（前回7.8%）であった。全体の6割の人が、入学前よりも地域や地域住民に関心を持つようになっている。

⑨ 入学以降、区の施策に関心を持つようになったか

「そう思う」が68.6%（前回65.6%）、「そう思わない」が4.0%（前回6.9%）であった。全体の7割の人が、以前よりも区の施策に関心を持つようになっている。

⑩ CCクラブは自分の生活に安心感を与えるかどうか

「そう思う」が35.2%（前回36.5%）、「そう思わない」が13.6%（前回13.8%）となっている。

(10) 地域活動、社会福祉活動について

① 地域活動、社会福祉活動を現在しているかどうか

「活動している」が63.5%（前回77.5%）、「現在は活動していないが、コロナ禍以前は活動していた」が9.6%、「活動していない」が25.7%（前回21.6%）となっている。

新型コロナの感染拡大は、地域活動に大きな制約をもたらした。当初は、地域活動だけでなく対面の会議も制限されCCクラブにも大きな影響を与えた。

しかしCCクラブは役員を中心に、リモートでの通信手法をいち早く学び、その技術を習得して会員に広めた。そのおかげで、以前に活動していたがコロナ禍で活動を控えていた人ともつながりを維持してることができた。実際に、最近の傾向として、地域活動、CCクラブの諸活動に復帰している会員が多くなってきている。

この現状を踏まえれば、コロナ禍でも実際に地域活動、社会福祉活動を継続している会員、現在、活動を再開した会員、そして再開したいと考えている会員が7割強（73.1%）いると思われる。

② 地域活動、社会福祉活動をしない理由

他方、地域活動、社会福祉活動をしていない116人（前回69人）の回答。

最も多いものは、「興味のある活動がない」で35.3%（前回31.9%）、次いで「健康に自信がない」が25.9%（前回20.3%）、「仕事をしている」が22.4%（前回36.2%）、「どのような活動があるのか知らない」が16.4%（前回11.6%）であった。また、「コロナが心配で活動できない」と答えた人が13.8%いた。

「興味のある活動が無い」と「どのような活動があるのか知らない」を合わせた5割の人については、活動内容や働きかけの工夫によっては、活動への参加に転じる可能性がある。

③ 現在の地域活動・社会福祉活動の拠点

「町会・自治会・マンション管理組合・老人クラブ等」が42.9%（前回45.6%）、ついで「CCクラブ運営委員会・部会活動、地域CCクラブ活動」が31.2%（前回34.0%）、「個人、グループの自主的活動」が29.4%（前回37.8%）、となっている。「地域団体（いきいきプラザなど）は22.9%（前回25.1%）、「社会福祉協議会でのボランティア活動」が21.5%（前回21.6%）、「シルバー人材センター」が20.0%（前回17.0%）であった。「個人、グループの自主的活動」は大幅に減少したがCCクラブ会員はこのように、多様な拠点で活動を展開している。

④ 地域活動・社会福祉活動の内容

最も割合が高いものは、「高齢者支援」で 34.5%（前回 44.9%）となっている。次いで、「町会・自治会の活動（会の運営）」「趣味・教養を生かした支援活動」がともに 26.7%（前回 26.2%）、「地域防災」と「区民参加型の区の事業」がともに 17.4%（前回 18.0%と 20.7%）、「子育て支援」が 14.2%（前回 16.4%）、「障害者支援」と「知識・資格取得を通じた支援活動」がともに 11.5%（前回 12.1%と 12.9%）、「緑化・環境美化」が 10.2%（前回 14.1%）となっている。

高齢者支援が比率で 10.4%減少しているが回答者の人数としては 115 人から 129 人と増加している。割合も最も高く、自身も高齢者でありながらボランティア活動を行っている。これには他者への支援であると同時に、自分の楽しみにも結びつくコースなどがある。

⑤ これまで経験した活動内容

最も割合が高いものが「民生委員・児童委員」と「タウンフォーラムに参加」がともに 10.2%（前回 21.0%と 26.6%）であった。次いで、「港区の公認委員」が 9.9%（前回 24.5%）、「町会長・副会長、自治会長・副会長」が 9.2%（前回 18.9%）、「社会福祉協議会委員」が 7.4%（前回 14.0%）、「本所・各支所主催の地域支援事業における委員会・協議会の会長・副会長・座長」が 4.6%、「各地域の防災協議会・ネットワーク会長・副会長」と「老人クラブ役員」がともに 4.2%（前回 7.7%と 9.1%）となっている。「その他」が 33.6%（前回 33.6%）と多いのは、CCクラブ会員が、ここにあげた活動内容以外の多様な活動に参加していることを示している。この項目の回答総数は前回が 143 ケースで今回は 198 ケースであった。前回の比率より大きく低くなった項目も人数から見ると多くの減少にはなっていない。

(11) クラブの今後の活動について（複数回答）

① 今後のCCクラブの活動のあるべき方向

最も割合が高いものは、「CCクラブの活動に『学び』の機会を増やす」で 40.3%（前回 40.1%）、次いで、「地域貢献・地域福祉活動により注力する」が 39.1%（前回 38.2%）、「行政（支所協働推進課他）との地域事業の協働の取り組みをつくる」が 29.1%（前回 34.9%）、「地域CCクラブに一般区民も自由に入力できる『開かれたサロン』を開設」が 24.3%（前回 23.0%）、「地元大学と連携した地域貢献事業を展開する」が 21.4%（前回 27.8%）となっている。

その他として、「地域CCクラブの活動をもっと充実させる」が 18.9%（前回 23.3%）、「もっと楽しい活動をやって欲しい」が 18.7%（前回 17.5%）、「今までの活動で十分である」が 15.3%（前回 9.4%）、「CCクラブ会員個人が行う活動を支援する」が 11.9%（前回 14.6%）、「CCクラブは一般区民には敷居が高いのもっとオープンにする」が 8.0%（前回 9.1%）となっている。

上位の傾向はあまり変化がない。前回から大きく増加したものは、「今までの活動で十分である」で現状に満足している人が増えたことである。

一方、減少したものは、「行政（支所協働推進課他）との地域事業の協働の取り組みをつくる」や「地元大学と連携した地域貢献事業を展開する」などであるが、いずれも依然として活動のあるべき方向の上位を占めている。積極的に学びの場や行政との協働活動を望んでいることがわかる。

②携帯電話などのモバイル環境について

1) どのようなモバイル機器を使用しているか

最も割合が高かったのは、「スマートフォンを使用している」が91.7%であった。次いで、「パソコンを使用している」が67.6%、「タブレットを使用している」24.1%、「スマートフォン以外の携帯電話を使用している」が5.3%、「何も使用していない」は1.3%となっている。

前回調査（2018年）で、スマートフォンを使用している人の割合は68.3%と7割弱であったが、今回の調査では全91.7%と全体の9割に増加している。多くの人がスマートフォンを使用している状況である。これもコロナ禍で対面での活動の制限により、モバイルデータ通信等による交流の必要性が高まったことも一つの誘因と考えられる

2) SNS（LINE、Facebook、Twitter など）を利用して知人と連絡しているか

「している」が78.3%。「していない」が18.9%であった。

前回調査（2018年）では、「している」と「していない」の割合はほぼ半々であったが、今回の調査では、「している」が全体の8割弱まで増加している。この結果は、スマートフォンを使用している人の増加を反映しているものと考えられる。

3) CCクラブのホームページをSNSで簡単に投稿できれば、連絡・コメント等で利用してみたいか

「利用してみたいと思う」が31.2%（前回29.9%）、「利用してみたいと思わない」が58.4%（64.4%）であった。「利用してみたいと思う」は前回調査よりは増加した。しかし、前の質問では、SNSを利用して知人と連絡をとっている人の割合が高かったが、CCクラブのホームページの活用した情報交換については、利用したいと考える人が全体の3割にとどまった。

(12) コロナ禍以降の変化について（複数回答）

① コロナ禍以降、自身や家族に変化があったか

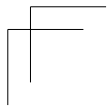
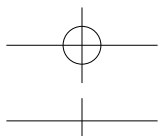
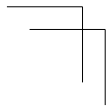
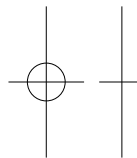
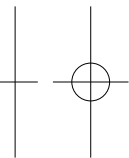
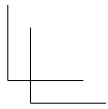
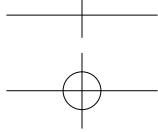
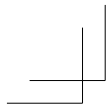
「変化はなかった」が45.9%と最も割合が高かった。次いで、「自身の体力が落ちた」が41.0%で、全体の4割の人が体力の低下を感じている。その他、「自身が病気になった」が10.9%、「家族の体力が落ちた」が10.0%、「家族が病気になった」が7.6%、「家族の介護・看護をする必要が出た」が5.1%となっている。コロナ禍以降は自身や家族に病気や体力の低下をもたらし、介護、看護等家族環境の変化もあった。しかし「変化はなかった」と答えた人も5割近くで最も多かった。

② コロナ禍になってから新しく始めたこと

「特にはじめたことはない」が40.6%で最も割合が高い。次いで、「LINE や ZOOM 等のオンラインでの交流」が27.2%、「家でできる運動等」が24.4%、「家でできる趣味活動等」が16.3%、「屋外での一人で行える運動等」が12.3%、「その他始めたこと」が10.2%となっている。コロナ禍以降新しく始めたことは「特にない」と答えた人は40.6%で最も高いが同様に「ある」と答えた人はその他にも含め5つを合わせると5割以上であった。

③ 今後、新たに始めたいこと、再開したいこと

「特に始めたいことはない」が38.2%で最も割合が高かった。他方、「知人（CCクラブ会員以外）と共に行う趣味活動」が25.5%、「以前から出来ていない一人で行う旅行や趣味活動」が24.8%、「CCクラブ会員と共に行う地域活動」が20.2%、「CCクラブ会員と共に行う趣味活動」が19.7%など、全体の2割の人が、今後、旅行や趣味活動、地域活動を始めたいと考えている。



おわりに一地域における学びと活動のあるべき方向性を求めて

本調査は、CCクラブの活動実態と課題を明らかにし、今後のCCクラブ活動の方向性を考える基礎資料を得る目的で実施された。加えて2020年初めからの新型コロナウイルスによるパンデミックの中でのCCクラブ会員の活動状況と変化を知ること、2008年に発足したCCクラブの会員の現状と課題などを知るためにおこなった。そのために前回の2018年度活動実態調査の結果と、コロナ禍前に在学していたCCクラブ生とコロナ禍に在学していたCCクラブ生との3つグループの比較も一部の項目において行った。

2023年現在でCCクラブ会員数は753名で、そのうち480名からアンケートの回答が寄せられ、これは全体の63.7%にのぼる。回答者の平均年齢は前回調査時の72歳から3歳上がり75歳であった。

コロナ禍を経た現在の活動状況を問う項目では、図表30にも見られるように、活動をしていると答えた人の割合がコロナ禍以前は活動している人も合わせると73.1%と実に7割強の人が地域活動、社会福祉活動を続けていた。コロナが心配で活動できないと答えた人も13.8%と一定数あるが地域活動、社会福祉活動をしていない理由の5番目にとどまっている。別の質問のコロナ禍以降の変化を尋ねた項目では自身や家族に変化がなかったと答えた人の割合が45.9%と最も高く、変化があった人は自身の体力の低下など健康面での変化を答えている。このような結果からみると、CC大学を修了後の年数の経過やコロナ禍も、CCクラブ会員の活動を制限する大きな要因とはなりえず、もともとCC大学に入学し、修了後もCCクラブ会員として地域活動や社会福祉活動を通じて地域に貢献したい意欲を持っている人が多いといえる。

しかしこのようなもともとの素地があるとはいえ、CC大学入学以前と以後の意識の変化を問う幾つかの項目についてはCC大学修了後、今の生活にCC大学は大きな影響を与えていると答えた人はほぼ半数の49.5%にのぼる。入学以降に新しい友人がたくさんできたと思う人も6割弱おり、これはコロナ禍での3年間が人間関係の希薄化を招き家族や友人とのつながりさえ制限される中、オンライン会議やモバイルツールなども使用した活動が個々の人間関係のつながりの維持する機会となったといえる。また、入学以降地域や地域住民に関心を持つようになった人も全体の約6割となり区の施策に関心を持つようになったという人も7割弱にのぼっている。

このようにCC大学入学以前にはなかった意識の変化が、現在の地域活動や社会福祉活動への新たな参加や継続の要因となっていると考えられる。前回調査時と同様に活動の拠点は「町会、自治会、マンション管理組合、老人クラブ等」が最も割合が高く、活動の内容に関しても町会、自治会の活動や会の運営、地域防災、区民参画型区の事業などがあるが高齢者支援が最も割合が高い。また、男女別のクロス集計図表50では男性の占める割

合が高いものは地域防災や町会、自治会の活動、マンション管理組合であり、他方、女性の比率が高いものは高齢者支援や、子育て支援となっている。活動の拠点で2番目に割合が高いものは「CCクラブ運営委員会・部会活動・地域CCクラブ活動」で、例えば高輪地区においては定期的なカフェ活動や学ぶ会を通じて地域住民の方々の参加も促し交流の場を広げている。地域団体（いきいきプラザ）などとの協働ではサロン活動での高齢者の居場所づくりや昔遊びなどを通して地域の児童や学校との交流も行っている。社会福祉協議会でのボランティア活動では様々な活動の一つ、バリアフリーマップ作成事業に協力しているCCクラブ会員もいる。長きにわたり継続しているこれらの地道な活動は個人にとどまることなく、今後はCC大学生や多くのCCクラブ会員、明治学院大学生にも呼び掛けて活動の輪を大きくしていくことが必要と思われる。

今回は、自由に回答してもらうように2つの自由回答欄を設けた。1つは「コロナ禍で出来なくなったこと、現在もできてないこと」でありコロナ禍がCCクラブ会員の生活や活動にどのような影響を及ぼしたかを調査するものである。

一番多かったものは家族や友人との会食や飲食、会合や対面での交流が出来なくなったことで身近な人々との交流が制限されたことがほぼ半数を占めていた。次に外で行う趣味活動やボランティア活動が出来なくなったことが挙げられた。これは日頃から活発に社会活動を行っている会員が多く、施設を訪問してのコーラスや食事作りや居場所づくりやサロン活動が出来なくなった等、高齢者支援が出来なくなったことにより今まで支援していた相手の方の現況の心配をする声も多くあった。自身の変化について体力や気力の衰えを挙げる人もいてコロナ禍が与えた影響や年齢、環境の変化も考えられる。

CC大学修了後のCCクラブ会員との交流の有無についてはコロナ禍以前の調査では91.3%とほぼ全員が交流しているが、コロナ禍を経た今回の調査でも交流している人の割合の減少は見られるものの75%と高い水準を保っている。これらの人はさらに日常がコロナ禍前に戻っていけば交流の機会も増えていくと考えられる。交流内容についても変化が見られた。前回調査では「CC大学時代のグループ活動への参加」が73.2%と一番割合が高いのに比べ、今回の調査では「グループ活動とは別の個人的交流」が65.1%と一番割合が高かった。コロナ禍における行動制限や年月の経過による高齢化はグループ活動や地域CCクラブでの交流から個人的交流へと緩やかに移行をもたらした。

自由回答の2つ目に「行政、社会福祉協議会、港区の関連団体、CCクラブなどについての意見や要望」を聞く項目を設けた。回答の中では、CCクラブに関することが最も多く、活動内容について、CCクラブへの感謝、活動への意欲についてなどが述べられているケースが多かった。具体例には積極的に多くのボランティア活動をしているという方はもっとCCクラブ会員が自覚をもって積極的に地域活動をするべきであるということをも

言われ、同様の意見もほかにみられた。また、CC大学で学び人間関係ができたおかげで演奏グループを立ちあげ地域でも披露しているという方やCCクラブでの有意義な体験への感謝もあった。

組織運営（担い手、体制、予算など）についても多くの意見が寄せられた。

地域CCクラブの担い手不足や予算がない中での地域活動の限界を述べる声や、年ごとに修了生を受け入れ肥大化するCCクラブの組織をどのように運営していくか、簡素化や大きな枠組みでの分轄・再構築等具体例を示した提案もあった。例えばCCクラブ全体の運営については役員会と運営委員会を中心に検討し、地域CCクラブについては各地域のCCクラブにおいて、それぞれの特色を生かした活動を展開していくことが必要と考えられる。

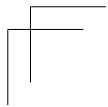
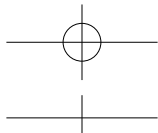
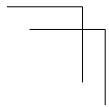
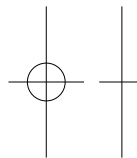
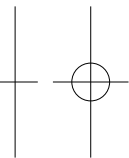
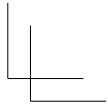
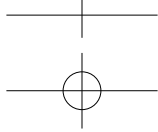
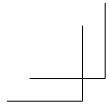
行政や関係機関との連携については、CCクラブの活動が行政にとってどのような位置づけとなっているのかを尋ねるものや、近年、住民の活動や地域活動が活性化している中で更なる行政や各種団体への住民（CCクラブ会員）の参画を促し、活動の効率を高めることを期待するという意見もあった。

高齢化の問題も考慮しなくてはならない課題である。80歳代会員の何人かからは聴力の衰えや体調不良や体力に自信がなくなりボランティア活動やCC活動に参加できなくなったという切実な声も聞かれた。自身の活動への意欲に拘わらず止めざるを得なくなった会員への新たなつながりの手段についても課題がある。同期のグループや地域CCクラブ、サロン活動への無理のない呼びかけや個人での交流もよいかもかもしれない。

今回は新型コロナウイルス禍を経験した中で行った調査の結果であり特殊な状況下での意識の変化を表していると思われる。1918年から翌年にかけてのスペイン風邪と呼ばれる新型インフルエンザの世界的な流行からほぼ100年が経っており、近年では誰も経験したことがないような状況下でもCCクラブの活動は続いていた。ロックダウンで人々の姿が町中から消えてしまったほんの短い間にも新たな通信手段を模索し獲得したLINEやZOOMなど用いてオンラインによる会議やグループ間の交流会等も行った。地域活動やボランティア活動に対する意欲と責任感は強く、今後は行政や関係団体との連携をさらに強め、情報を共有し課題への取組みにも協力をお願いしていきたいと考える。

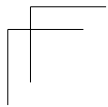
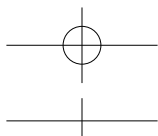
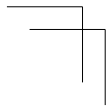
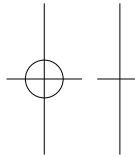
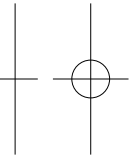
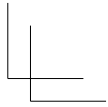
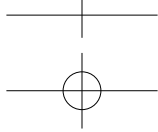
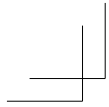
さて、この報告書を出すにあたりCCクラブ顧問・明治学院大学学長特別補佐河合克義名誉教授には調査準備から集計作業、分析そして報告書作成までご指導をいただきました。また、帝京平成大学健康医療スポーツ学部石川由美准教授には調査の集計・分析と共同の執筆をいただきました。そしてこの調査全般にわたり港区高輪地区総合支所様、明治学院大学様、港区社会福祉協議会様には多大なご支援とご協力をいただきました。心より厚くお礼申し上げます。

地域連携部会 金原智子



資料編

- ①CCクラブ 2023 年度活動実態調査票
- ②チャレンジコミュニティ大学とは
- ③チャレンジコミュニティ・クラブとは
- ④チャレンジコミュニティ・クラブと会員の活動



チャレンジコミュニティ・クラブ 2023年活動実態調査

ご協力のお願い

CCクラブは今年で約750名の会員数になりました。CC大学を修了された方は約850名ですが、いろいろな事情で退会された方がおり、現在の会員数になります。

2018年に会員の生活実態と活動内容の調査を行いました。それから5年が経過し、会員としてCC大学12期生から15期生を迎え、会員数は152名増加しました。

CC大学修了後に多くの会員の皆様が地域の中で多様な活動を展開されている実態があります。この3年間に新型コロナウイルス禍がありCCクラブ会員の生活と活動の変化が考えられます。

今回、港区からの提案もあり、CCクラブ会員の現在の状況を知ることと会員の活動が地域に浸透していく状況を多くの皆様に知っていただき、地域と一体となった地域貢献活動につなげていくために2018年度に続き、「2023年活動実態調査」を実施いたします。

調査の結果はCCクラブ「活動報告会」やホームページなど様々な方法で公表させていただきます。また、港区から発信される資料にも使用いたします。

このような趣旨をご理解いただき、多くの会員の方にご協力頂きますようよろしくお願い申し上げます。

※この調査は無記名です。お名前等個人情報が公表されることはありません。

2023年6月

調査主体：港区高輪地区総合支所
チャレンジコミュニティ・クラブ
(調査担当：地域連携部会)

この調査についてご不明な点がございましたら、下記までお問合せ願います。

【メールでのお問い合わせ】 副代表(地域連携部会) 太田則義 noriohta1214@gmail.com

【電話でのお問い合わせ】 副代表(地域連携部会) 太田則義 電話 090-2556-0222

【調査対象範囲】 CCクラブ1～15期生

ご回答にあたってのお願い

【調査用紙のご記入方法】

1. ご回答には、黒のボールペンか濃い鉛筆をお使いください。
2. ご回答は、選択肢からあてはまる項目を選び、番号に○印をつけてください。
3. 記述項目については簡潔に分かりやすく記入してください。

【調査用紙の返送方法】

1. 同封されています返信用封筒にてお送りください。
2. 問合せについて、メール、電話については上記問い合わせ先に、また、郵便での問い合わせ
FAXの問い合わせは下記にお願いいたします。

送付先 〒108-0071 東京都港区白金台1-2-37

株式会社 明治学院サービス FAX:03-5421-1556

回答期限：2023年6月26日(月)

チャレンジコミュニティ・クラブ 2023 年活動実態調査 調査票

調査主体：港区高輪地区総合支所
チャレンジコミュニティ・クラブ

1. 基本項目（2023年6月1日現在でお答え下さい）

■あなたご自身についておうかがいします。

問1. あなたは、CC大学の何期生ですか（○は1つ）

- | | | | | | |
|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 1. 1期生 | 2. 2期生 | 3. 3期生 | 4. 4期生 | 5. 5期生 | 6. 6期生 |
| 7. 7期生 | 8. 8期生 | 9. 9期生 | 10. 10期生 | 11. 11期生 | 12. 12期生 |
| 13. 13期生 | 14. 14期生 | 15. 15期生 | | | |

問2. 性別のあてはまる方に○をし、年齢をご記入下さい

1. 女性	2. 男性	3. 無回答	満 _____ 歳（2023年6月1日現在）
-------	-------	--------	------------------------

問3. あなたのお住まいはどの地域ですか（○は1つ）

- | | | | | | |
|-----------|--------|---------|---------|---------|--------|
| 1. 芝浦港南地区 | 2. 芝地区 | 3. 高輪地区 | 4. 麻布地区 | 5. 赤坂地区 | 6. 港区外 |
|-----------|--------|---------|---------|---------|--------|

問4. ご自身の健康状態についてどのようにお考えですか（○は1つ）

- | | | | | |
|-------|---------|-------|------------|---------|
| 1. 良い | 2. まあ良い | 3. 普通 | 4. あまり良くない | 5. 良くない |
|-------|---------|-------|------------|---------|

2. 入学時の状況

問5. あなたがCC大学に入学した動機は何ですか（○はいくつでも）

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 人生の転機にあたり多くの選択肢の中から選んだ 2. CC大学修了生に勧められた 3. 家人の勧め 4. 知人・友人の勧め 5. 暇をもて余しているから 6. すでに地域貢献に取り組んでおり、さらに深堀を目指した 7. 同じ志を持つ仲間を求めた 8. 自分の居場所を求めて 9. 港区の広報紙で知り、CC大学の理念に共感したから 10. 明治学院大学の校風・講師陣の顔ぶれに惹かれて 11. 自分の住んでいる地域の土地柄・風土・歴史に関心を持つようになったから 12. 民生委員・児童委員として 13. その他(具体的に) |
| (_____) |

問6. あなたが今までに一番長く従事されたお仕事は何ですか (○は1つ)

- | | |
|----------------------------|------------------|
| 1. 自営業・家族従業員 | 2. 公務員(教員含む) |
| 3. 会社経営者・会社役員・団体役員 | 4. 勤労者(事務職) |
| 5. 勤労者(生産現場・技術職・工員・運転手など) | |
| 6. 勤労者(営業・販売・サービス業・店員など) | |
| 7. 医療・福祉従事者(看護師、保育士、介護職など) | |
| 8. 専門的技術的職業(医師、弁護士、研究者など) | |
| 9. 臨時職・日雇い・パート・アルバイト・派遣職員 | 10. 農林漁業 |
| 11. 自由業(執筆業、芸術関係) | 12. 専業主婦・専業主夫・無職 |
| 13. その他 | |

()

3. CC大学修了後の状況

問7. CC大学修了後の交流についておうかがいします

1期～12期の方と13～15期の方に分けておうかがいします

1期～12期の方へお聞きします

(1) あなたは、CC大学修了後、CCクラブ会員の皆さんと交流していますか (○は1つ)

- | | |
|-----------------------------------|-----------------|
| 1. 交流している⇒(2)へ | 2. 交流していない⇒(3)へ |
| 3. コロナ禍前は交流していたがコロナ禍後に交流を止めた⇒(2)へ | |

(2) 上記(1)で「1. 交流している」「3. コロナ禍前は交流していたがコロナ禍後に交流を止めた」と答えた方におうかがいします

① どのような交流をしていますか、していましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. CC大学時代のグループ活動への参加 | 2. グループ活動とは別の個人的交流 |
| 3. 地域CCクラブでの交流 | 4. 運営委員会、部会に所属したから |

② 交流の目的は何ですか (○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 楽しみの時間を増やしたい | 2. 一人だけの不安感を減らしたい |
| 3. 地域活動のきっかけを作りたい | 4. 特に目的はない |
| 5. その他 | |

③ 交流の頻度は次のどれですか (○は1つ)

- | | | | |
|----------|----------|-------|--------|
| 1. 月2回以上 | 2. 月1回程度 | 3. 隔月 | 4. 不定期 |
|----------|----------|-------|--------|

(3) 上記(1)で「2. 交流していない」と答えた方におうかがいします (○は1つ)

- | | | | | |
|---------|------------|--------|-------------------|--------|
| 1. 必要ない | 2. あまり必要ない | 3. 忙しい | 4. 今は出来ないが今後交流したい | 5. その他 |
|---------|------------|--------|-------------------|--------|

13期～15期の方へお聞きします。

(1) あなたは、CC大学修了後、CCクラブ会員の皆さんと交流していますか(○は1つ)

1. 交流している ⇒ (2) へ 2. 交流していない ⇒ (3) へ

(2) 上記(1)で「1. 交流している」と答えた方におうかがいします

① どのような交流をしていますか。(○はいくつでも)

1. CC大学時代のグループ活動への参加 2. グループ活動とは別の個人的交流
3. 地域CCクラブでの交流 4. 運営委員会、部会に所属したから。

② 交流の目的は何ですか(○はいくつでも)

1. 楽しみの時間を増やしたい 2. 一人だけの不安感を減らしたい
3. 地域活動のきっかけを作りたい 4. 特に目的はない
5. その他

③ 交流の頻度は次のどれですか(○は1つ)

1. 月2回以上 2. 月1回程度 3. 隔月 4. 不定期

(3) 上記(1)で「2. 交流していない」と答えた方におうかがいします(○は1つ)

1. 必要ない 2. あまり必要ない 3. 忙しい 4. 今は出来ないが今後交流したい 5. その他

ここから最後の質問まで全員にお聞きします。

問8. 日常生活を送る上での困りごとはありますか(○は1つ)

1. ある ⇒ 問9. へ 2. ない ⇒ 問10. へ

問9. 問8で「1. ある」とお答えの方に困りごとの内容をおうかがいします(○はいくつでも)

1. 健康・医療 2. 収入・経済的課題
3. 福祉・介護 4. 買い物環境
5. 交通の利便性 6. 近所付き合いの煩わしさ
7. 地域の繋がりが希薄化 8. 親族との関係
9. 大地震・火災時の対応の不安 10. コロナ禍による諸問題の不安
11. その他お困りのことを簡単に記入して下さい。

()

問10. CC大学入学以前と以後の意識について全員におうかがいします

次の項目について、あなたの気持ちに近いものを○で囲んで下さい。(各項目 ○は一つ)

(1)入学以前は仕事(家事)中心だった

1. そう思う 2. そう思わない 3. どちらともいえない

(2)入学以前から地域活動に関心があった

1. そう思う 2. そう思わない 3. どちらともいえない

(3)入学以前は民生委員・児童委員活動を知っていましたか

1. 知っていた 2. 知らなかった

(4)入学以前は社会福祉協議会の活動を知っていましたか

1. 知っていた 2. 知らなかった

(5)CC大学修了後、今の生活にCC大学は大きな影響を与えている

1. そう思う 2. そう思わない 3. どちらともいえない

(6)CCクラブの活動に参加している

1. 参加している 2. 参加していない

(7)入学以降、新しい友だちがたくさんできたと思う

1. そう思う 2. そう思わない 3. どちらともいえない

(8)入学以降、地域(住民)に関心を持つようになった

1. そう思う 2. そう思わない 3. どちらともいえない

(9)入学以降、区の施策に関心を持つようになった

1. そう思う 2. そう思わない 3. どちらともいえない

(10)CCクラブは自分の生活に安心感を与える

1. そう思う 2. そう思わない 3. どちらともいえない

4. 地域活動、社会福祉活動等

問11. あなたは、現在、地域活動、社会福祉活動などをしてますか（○は1つ）

1. 活動している ⇒問13. へ
 2. 現在は活動していないがコロナ禍以前は活動していた⇒問13. へ
 3. 活動していない ⇒問12. へ

問12. 問11. で「3. 活動していない」と答えた方にその理由をおうかがいします
 （○はいくつでも）

1. 仕事をしている 2. 介護等でできない 3. 健康に自信がない 4. 興味のある活動が無い
 5. 関心がない 6. コロナが心配で活動できない 7. どのような活動があるのか知らない

問13. 問11. で「1. 活動している」「2. 現在は活動していないがコロナ禍以前は活動していた」と答えた方におうかがいします

コロナ禍以前の活動も含め地域活動、社会福祉活動の拠点はどこですか

（○はいくつでも）

1. 社会福祉協議会でのボランティア活動
 2. 町会・自治会・マンション管理組合・老人クラブ等
 3. NPO法人/社団法人
 4. CCクラブ運営委員会・部会活動、地域CCクラブ活動
 5. シルバー人材センター
 6. 港区役所（本庁）
 7. 各地区総合支所（芝浦港南、芝、高輪、麻布、赤坂）
 8. 地域団体（いきいきプラザなど）
 9. 個人、グループの自主的活動
 10. CC大学在学中あるいは修了後、新たに立ち上げた個人、グループ活動
 11. その他

（ ）

問14. あなたの地域活動、社会福祉活動の内容は下記のどれですか（○はいくつでも）

- | | | |
|---------------------|---------------------|--------------|
| 1. 高齢者支援 | 2. 子育て支援 | 3. 障がい者支援 |
| 4. 地域防災 | 5. 緑化・環境美化 | 6. 交通指導 |
| 7. 語り部（観光案内） | 8. 国際交流 | 9. 民生委員・児童委員 |
| 10. 語学教育 | 11. まちおこし | 12. 景観保護 |
| 13. 町会・自治会の活動（会の運営） | 14. マンション管理組合、自治会活動 | |
| 15. 区民参画型の区の事業 | 16. 知識・資格取得を通じた支援活動 | |
| 17. 趣味・教養を生かした支援活動 | 18. その他 | （ ） |

問15. あなたは、次のような活動に携わった経験はありますか（〇はいくつでも）

1. 民生委員・児童委員
2. 町会長・副会長、自治会長・副会長
3. 港区の公認委員
4. 社会福祉協議会委員
5. 各地域の防災協議会・ネットワーク会長・副会長
6. 本庁・各支所主催の地域支援事業における委員会・協議会の会長・副会長・座長
7. 国際交流の場での通訳
8. タウンフォーラムに参加
9. 老人クラブ役員
10. その他（具体的な活動をお書き下さい）
()
11. なし

5. CCクラブの今後の活動について

問16. 今後のCCクラブの活動のあるべき方向についておうかがいします（〇はいくつでも）

1. 地域貢献・地域福祉活動により注力する
2. 地元大学と連携した地域貢献事業を展開する
3. 行政(支所協働推進課他)との地域事業の協働の取り組みをつくる
4. 地域CCクラブの活動をもっと充実させる
5. CCクラブ会員個人が行う活動を支援する
6. CCクラブは一般区民には敷居が高いのもっとオープンにする
7. 地域CCクラブに一般区民も自由に出入りできる“開かれたサロン”を開設
8. CCクラブの活動に「学び」の機会を増やす
9. もっと楽しい活動をやって欲しい
10. 今までの活動で十分である

問17. モバイル環境（携帯電話、スマホ、タブレット）をはじめとして使用している機器などについておうかがいします。

(1) あなたはどのような機器を使用していますか（〇はいくつでも）

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| 1. スマートフォンを使用している | 2. スマートフォン以外の携帯電話を使用している |
| 3. タブレットを使用している | 4. パソコンを使用している |
| 5. 何も使用していない | |

(2) SNS(LINE、Facebook、Twitter など) を利用して知人と連絡していますか

- | | |
|---------|----------|
| 1. している | 2. していない |
|---------|----------|

(3) CCクラブのホームページをSNSで簡単に投稿できれば、自分も連絡やコメントなどグループ間で利用してみたいと思いますか

1. 利用してみたいと思う	2. 利用してみたいと思わない
---------------	-----------------

6. コロナ禍以降に関する質問です

問 18. コロナ禍になり、自身や家族（どなたでも）に変化がありましたか（〇はいくつでも）

1. 変化はなかった	2. 自身の体力が落ちた
3. 自身が病気になった	4. 家族の体力が落ちた
5. 家族が病気になった	6. 家族の介護・看護をする必要が出た
7. 自身が介護・看護されることになった	
8. その他（	）

問 19. コロナ禍になってから新しく始めたことは何ですか（〇はいくつでも）

1. 家でできる趣味活動等	2. 家でできる運動等
3. LINE や ZOOM 等オンラインでの交流	
4. 屋外での一人でできる運動等	5. その他の始めたこと（
6. 特に始めたことはない	）

問 20. コロナ禍で出来なくなったこと、現在もできていないことは何ですか（自由に書いてください）

例えば ・サロン活動などの居場所活動 ・会食や食事作りなどの活動 ・歌を歌うなどの活動 など

（自由に記載） _____

問 21. コロナの感染症分類が 2 類から 5 類になったことで、新たに始めたいことまたは再開したいことはありますか

(○はいくつでも)

1. CCクラブ会員と共に行う地域活動
2. CCクラブ会員と共に行う趣味活動
3. 知人（CCクラブ会員以外）と共に行う地域活動
4. 知人（CCクラブ会員以外）と共に行う趣味活動
5. 一人で行う地域活動、ボランティア活動
6. 以前から出来ていない一人で行う旅行や趣味活動
7. 特に始めたいことはない
8. その他 ()

問22 行政、社会福祉協議会、港区の関連団体)、CCクラブなどについて、ご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入下さい。

質問は以上です。

アンケート調査にご協力下さいまして、まことにありがとうございました。

資料②

チャレンジコミュニティ大学とは

1. チャレンジコミュニティ大学とは

(1) 基本情報

- 名称 : チャレンジコミュニティ大学 (略称 CC 大学)
 ※学校教育法に基づく学校ではありません
- 運営主体 : 東京都港区 (港区長=CC 大学学長)
- 運営委託先 : 明治学院大学
- 学習施設 : 東京都港区白金台 明治学院大学白金キャンパス
- 開設年 : 2007 年
- 申込資格 : 港区在住で、地域福祉の向上や地域社会の活動に関心があり、修了後、地域で積極的に活躍する意欲のある 60 歳以上の、もしくは民生委員・児童委員
- 募集人員 : 60 名 (申込書による選考)
- 受講期間 : 1 年間 (90 分授業×2 コマ×約 40 日間)

(2) 開設の経緯と趣旨

【経緯】

地域の課題として

港区は、都心 3 区のひとつとして「華やかな観光地・大企業本社等が多く、平均年収が高い＝税金が多い豊かな都市」というイメージがある一方、一人暮らし高齢者の孤立・貧困問題が深刻な地域でもあるという指摘 (河合克義 (2015) 『老人に冷たい国・日本』光文社新書。) もある。そこで自分の課題を発信したり、声を挙げられず苦しんでいる人々のために、区民が実態を知り、出来ることを考え、実践する姿勢を養う必要が求められた。

明治学院大学の社会的使命として

建学の精神「キリスト教による人格教育」のもと、創設者へボンが生涯貫いた精神 “Do for Others (他者への貢献)” を教育理念に掲げている。“Do for Others” の実現のために、各学部、教養教育センターで提供される正課カリキュラムに加え、国際交流、ボランティア、キャリア教育など、さまざまな取り組みにも力を入れている。明治学院大学には建学の精神と教育理念を大切にして社会に貢献していく使命があった。

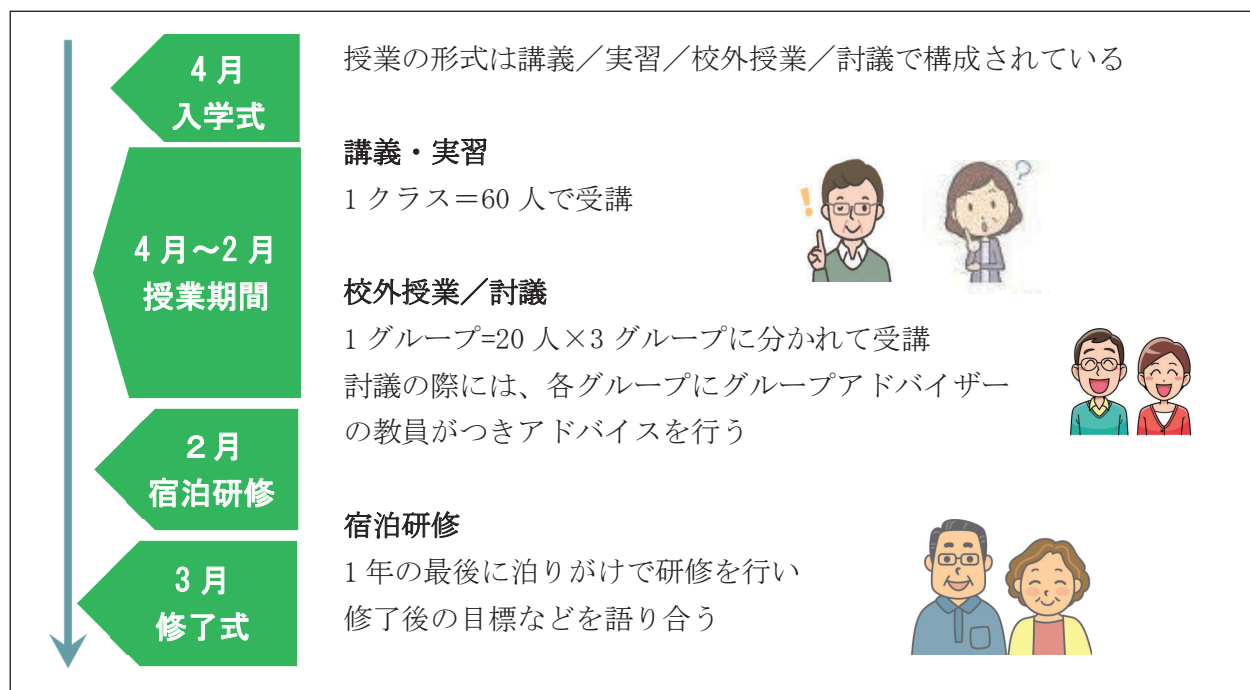
⇒港区が明治学院大学に業務委託し、チャレンジコミュニティ大学が発足した。

【趣旨】「チャレンジコミュニティ大学」の目指すもの

- ・高齢者や今後高齢期を迎える世代がいままで培ってきた知識・経験を地域に生かす
 - ・生きがいのある豊かな人生を創造する
 - ・学習を通じて、個々の能力を再開発することを目指す
 - ・高齢社会の充実のため、地域の活性化や地域コミュニティの育成の原動力として積極的に活躍していただく、地域活動のリーダーを養成する。
- ※就労者世代ではまだまだ地域生活は作りにくいこともあり、地域に根付く活動が可能な高齢者世代の力を借りることにした。CC 大学は高齢者の地域デビュー・地域との接点づくりの手助けをすることによって、地域の課題の解決を目指している。

2. チャレンジコミュニティ大学のカリキュラム

(1) チャレンジコミュニティ大学の1年間の流れ



(2) カリキュラム

①社会参加

福祉や行政関連など地域活動をするにあたっての基礎知識をテーマにした授業

講義：「地域福祉と住民参加」「社会福祉協議会とは」「高齢者福祉」「児童福祉」「精神障害と社会福祉」「ベーシックインカムと資産運用で貧困は予防できるのか」「社会保障の国際比較」「町内会・自治体と地域づくり」「地域課題発見方法、地域組織化と地域活動リーダーの役割」等

見学：母子生活支援施設・障害者生活支援施設・生活自立センター等

港区による授業：議会棟見学・区長・副区長・行政担当者による講義
社会福祉協議会・民生委員・児童委員による講義



②健康増進

生涯スポーツや校外授業など、健康の管理や増進をテーマにした授業

講義：「高齢者の健康と体力」「運動不足によるからだの変化と運動」「すべての人に健康と福祉を」「医療覚醒」等

実習：「運動処方入門」「有酸素運動入門」「元気で動ける身体をめざして」「心と身体のリフレッシュ」等

散策：横浜キャンパスに隣接する公園での自然探索



③一般教養

高齢者に身近な**法律、社会、経済、芸術**などの教養をテーマにした授業

講義：「日本の現代小説」「港区の風景と文化」「認知症の理解とその予防」「組織のリスクマネジメント」「暮らしと税金」「暮らしに役立つ民法」「地域における権利擁護と成年後見制度」「身近な消費者問題」等

鑑賞：美術館見学・音楽鑑賞



チャレンジコミュニティ・クラブとは

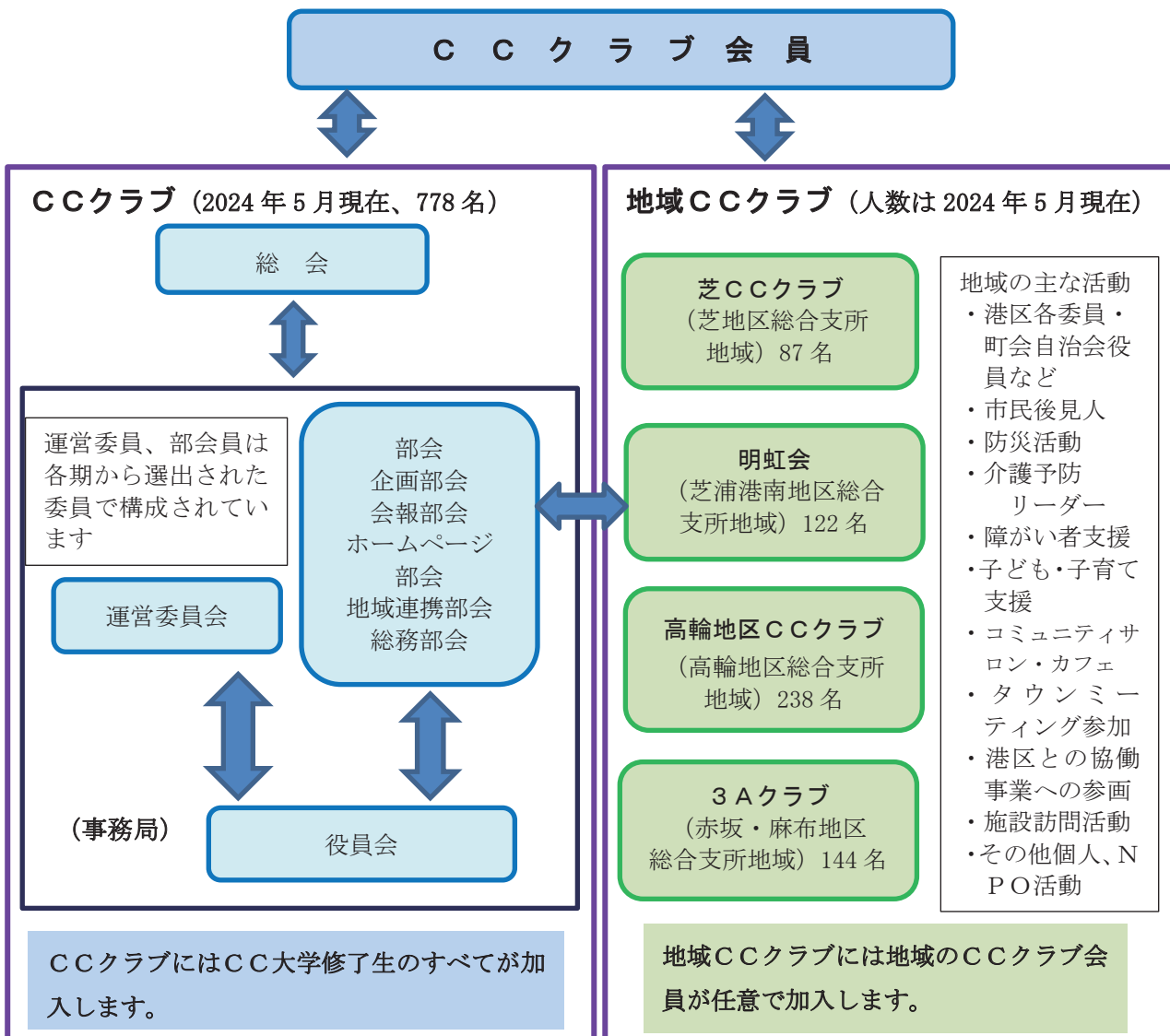


2008年3月、チャレンジコミュニティ大学第1期生の修了を機に自主的な運営組織として、チャレンジコミュニティ・クラブ（略称CCクラブ）が創設されました。

CCクラブは、会員相互の情報交換を図るとともに、CC大学で学んだこと及び各自の社会経験等を活用することにより、コミュニティの醸成、維持、発展に向けた地域活動を推進し、住みやすい地域の実現に寄与することを目的としています。また、港区の街づくりや地域ネットワークの構築を支援し、地域活動を通じてリーダーを育成し、そして、会員は充実した人生を送り、広く社会に貢献していきます。

CCクラブは、各個人、グループそして運営部門の活動として、港区、大学、NPOとの協働プロジェクトへの参画、社会福祉団体、町会・自治会等への参画を推進するとともに、地域活動に関するタイムリーな情報提供、そして社会への広報活動や会員相互の交流活動などを行っています。

地域CCクラブは各地域に関わる地域活動をCCクラブ会員に限定せず、地域住民の参加を積極的に推進する活動を行っています。



**資料④ チャレンジコミュニティ・クラブと会員の活動
(CC通信に掲載された17年間の活動)**

チャレンジコミュニティ大学第1期生修了後の2008年4月にCCクラブが発足し、CCクラブ会員個人、グループそしてクラブ全体の活動をCC通信で皆さまにお知らせしております。今回、活動実態調査報告書を刊行するにあたり、CC通信に掲載された過去17年間のCCクラブの主な活動と会員活動を紹介します。2019年に発行された報告書に2023年までの記事を追記しました。誌面の都合で項目のみの紹介となりますので、詳細内容をご覧になりたい方はバックナンバーでご確認ください。バックナンバーは、創刊号から最新号までをCCクラブホームページ会員サイトに、26号(2014年10月発行分)以降は一般サイトにも掲載しております。

2008.4～2009.3(創刊号～4号)

○映画上映会「いのちの作法―沢内『生命行政』を継ぐ者たち」研修旅行のプレ講座(2号)

2008年8月2日(土) 明治学院大学
河合克義チャレンジコミュニティ大学総括
コーディネーターの解説
岩手県旧沢内村の紹介と老人医療制度の歴史の解説

○岩手県旧沢内村ツアー報告(2号)

2008年9月17日(水)～18日(木)
岩手県旧沢内村(現和賀郡西和賀町)



旧沢内村研修会の参加者

○CCクラブ会員の活動報告(2号)

- ・私のボランティア活動 1期 塩見幸子
- ・サイエンスカフェイン高輪の活動について 1期 岩村道子
- ・第3グループの活動報告 1期 古橋義弘

○港区社会福祉協議会訪問記(3号)

1期 吉田秀博

○CCクラブ会員の活動報告(3号)

- ・私のボランティアとの関わり 1期 原澤芳子

・科学マジッククラブの活動紹介

1期 小林政雄

○CCクラブ講習会報告(3・4号)

第1回「高齢者サービスについて―在宅支援を中心に」、
「これからの高齢者地域福祉」

2008年10月29日(水) 15:00～17:00

明治学院大学

講師 港区保健福祉支援部高齢者支援課

在宅支援係 長瀬伸一主任 海津美江主任

高輪地区総合支所くらし応援課

西津雅子課長

第2回 「ボランティア活動の実践～あなたにとってボランティアは何色～」

2008年12月8日(月)

講師 明治学院大学 社会学部附属研究所

ソーシャルワーカー 平野幸子氏

第3回「ともに生きる地域社会を築いていくために～障害のある人の地域生活を理解する～」

2009年1月21日(水) 15:00～17:00

明治学院大学

講師 愛知淑徳大学医療福祉学部

谷口明広教授

○シンポジウム「コミュニティづくりとチャレンジコミュニティ・クラブ」と交流会報告

・シンポジウム

2009年3月5日(水) 15:00～17:00

明治学院大学

「コミュニティづくりとCCクラブ」

CCクラブ一年間の活動報告、各グループの報告そして2期生も含んだ会場からの質問と地域連携推進室をはじめとした関係者からの回答

- CCクラブ会員の活動報告 (4号)
 - ・私がこの1年間に取り組んできた事の報告
1期 明石美穂子
 - ・私の地域コミュニティ活動報告
1期 江原一弥

2009. 4～2010. 3 (5号～8号)

- 岩手県旧沢内村研修報告 (6号)
 - 2009年9月3日(木)～4日(金)
 - 岩手県旧沢内村(現和賀郡西和賀町)
 - 1日目
深澤晟雄資料館見学、太田祖電(元村長)氏講演、高橋典成(NPO法人輝け「いのち」ネットワーク代表)氏講演
 - 2日目
光寿苑見学、光寿苑 太田宣承副園長講演、長瀬野新集落見学、長瀬野の方と昼食、懇談

- 第2期生 活動報告 (6号)
 - ・第1グループ(CC21) 2期 西野文子
 - ・第2グループ(「みなトーク」会)
2期 樋口賢一
 - ・第3グループ(Club 3MC) 2期 川野和彦

○OKAMOTO「サロン」News からー1期生2グループ機関誌ー (7号)

- CCクラブ会員の活動報告 (7号)
 - ・男の料理教室 1期 雨宮範夫
 - ・初心者のための「パソコンたまり場」
1期 五十嵐武
 - ・私の子育て支援活動 1期 井林靖雄
 - ・緑のカーテン・サポーター
1期 飯塚洗子、1期 坂下妥子
 - ・生け花とお茶とマナー 1期 福島君子
 - ・私の高齢者支援活動 2期 青木みよ
 - ・青少年対策三田地区委員会の一員として
2期 上野良子
 - ・福祉施設でコンサート 2期 仲島泰子

- ・「ボランティア」のこと 2期 佐藤恵子
- ・コミュニティサロンのサポーター
CCクラブ参加者12名 1期 飯塚洗子
- CCクラブ主催講演会報告 (7号)
 1. 「都市高齢者の孤独問題と社会的ネットワーク日中比較」
2009年10月21日(水)
講師 山東工商学院社会学科研究所
林明鮮教授
 2. 「隣人としてできることから」～DV被害者支援に関わって～
2009年11月11日(水)
講師 NPO法人男女平等参画推進みなと(GEM) 船尾豊子事務局長

- CCクラブ主催講演会報告 (8号)
 - 「みんなで支えあう福祉のまちづくりを目指して」
2010年1月27日(水)
講師 NPO法人「ぐるーぷ藤」
鷺尾公子理事長

- 2009年度「CCクラブ活動報告会とシンポジウム」と交流会の報告 (8号)
 - 2010年2月27日(土) 明治学院大学
 - ・活動報告 2009年度CCクラブ活動総括
1期 米永栄一郎

- ・シンポジウム 2009年度の「活動状況と今後」
明治学院大学 河合克義教授、
1期 小林政雄 2期 安藤洋一 2期 青木稔
- 修了後2年の“いま”ー1期生各グループよりー (8号)
 - ・笑顔に逢いたくて 1期生第1グループ
 - ・OKAMOTO「サロン」NEWS からー会員の近況などー
1期生第2グループ、岡本多喜子先生



報告会会場と報告者

- ・「シルバーライフ曼荼羅」よりく他人事ではなく、自分事として参加する
1期生第3グループ（トリプルC）
- ・フロアとのディスカッション

2010.4～2011.3（9号～12号）

○第3回岩手県旧沢内村研修会報告（10号）

2010年9月12日（日）～13日（月）
岩手県旧沢内村（現和賀郡西和賀町）

1日目

深澤晟雄資料館見学、増田進（元沢内病院長）氏講演、高橋和子（NPO法人輝け「いのち」ネットワーク代表）氏講演

2日目

ワークステーション湯田・沢内（障害者支援施設）見学、照井洸（西和賀町森林組合長）氏講演、高橋典成（施設長）氏講演、

○CCクラブ会員の活動報告（10号）

- ・忙中歓あり 1期 篠崎つたえ
- ・2年目を迎えたみなトーク会 2期 安藤洋一
- ・「キワニス・ドール」をご存知ですか？ 3期 山根幸子
- ・声に出して本を読むことで、つながりたい・・・朗読ボランティアを目指して活動しています。 2期 久津弘子

○CCクラブ会員の活動報告（11号）

- ・「北川清一先生のお話を聞く会」を開催して 2期 細井典子
- ・OKAMOTO「サロン」勉強会 テーマ「妻を介護する夫たち」 1期 吉田秀博
- ・旧沢内村「ふるさと交流会」に参加して 1期 飯塚洸子
- ・講演会 高齢社会の課題「老人介護の現状、問題点、今後望まれる認知症対策」を聞いて 1期 坂下妥子

○2010年度CCクラブ「活動報告とシンポジウム」～コミュニティへの挑戦と創造～（12号）

- 2011年2月26日（土） 明治学院大学
- ・活動報告 2010年度CCクラブ活動報告 3期 清水英武
 - ・シンポジウム

「若い世代にとっての家族と地域社会」
シンポジウム参加者

東日本国際大学福祉環境学部

- 菅野道生准教授、 1期 井林靖雄
- 2期 吉田由紀子、 3期 坂上宗男



活動報告会とシンポジウム会場

○CCクラブ会員の活動報告

～民生・児童委員特集～（12号）

- ・民生・児童委員の“しごと” 1期 桑原水枝
- ・民生・児童委員になって 1期 吉山昌志
- ・6年間の民生委員活動をふりかえって 3期 坂上宗男
- ・高齢者を大事にする地域社会づくりを！ 2期 野口美津子

○第2回CCクラブ主催講習会（12号）

2011年1月26日（水） 明治学院大学

『60歳からの楽々サバイバル』～災害時に空白の3日間を生き延びる～に参加して

4期 徳竹道子

2011.4～2012.3（13号～16号）

○CCクラブカミングディ（同窓会）報告（14号）

2011年7月15日（金） 明治学院大学

講師 NHKラジオ 村上信夫氏

○CCクラブ会員の活動報告（14号）

- ・芝CCクラブ活動報告 3期 新井隆治
- ・芝浦港南台場エリアCCクラブ『明虹会』報告 4期 伊藤文子
- ・第4期生「チャレコミ4」活動報告
世話人石井、伊藤、島崎、村松、村井、平岩
- ・「みなトーク」会の3年目の活動～さらに深く、大きく、広がる輪～ 2期 久津弘子

・[地域のつながり創り活動]

3期 荒澤経子

・パーキンソン病の知識を得る会

2期 田口博子

〇CCクラブ主催 「講演とパネルディスカッション」～成年後見制度とは何？ その上手な利用とは 私たちにできることは～ (15号)

2011年10月19日(水)

明治学院大学

基調講演

明治学院大学法学部 黒田美亜紀准教授

品川成年後見センター 齋藤修一所長

パネルディスカッション

講演者2名、社会福祉士 築田晴氏、

明治学院大学法学部 今尾真教授

〇佐久総合病院研修旅行報告(15号)

2011年11月13日(日)～14日(月)

長野県佐久市佐久総合病院



佐久総合病院と研修旅行参加者

1日目

講演会 佐久総合病院のこれまでの歩みと

現状 元小諸厚生病院事務局次長

依田発夫氏

懇親会 依田先生を交えての懇親会

2日目

講演会 「佐久総合病院における地域ケア活動の実践」

佐久総合病院

夏川周介統括院長

見学会

〇CCクラブ会員の活動報告(15号)

・文部科学省主査「全国生涯学習ネットワークフォーラム2011」に参加して

1期 米永栄一郎

・文部科学省主催の講演生涯学習制度の強化充実にチャレンジしよう！！

2期 野口美津子

・コミュニティ・サロンのサポート

4期 鈴木豊子

・「手話を学び始めて」

3期 角南澄子

〇CCクラブ2011年度「活動報告とシンポジウム」(16号)

2012年2月25日(土) 明治学院大学

・特別講演 被災地の復興と地域コミュニティの再生～3.11の津波は私たちに何をもたらしたのか～

講師 岩手看護短期大学

鈴木るり子教授

鈴木るり子教授

・活動報告とシンポジウム・交流会

・CCクラブ活動報告 3期 坂上宗男

・シンポジウム

高輪いきいきプラザ幼児英語教育<英語でしゃべっちゃオ>

2期 田部揆一郎

港区パーキンソン病友の会の新設と歩み

3期 小原進

港区にノルディックウォーキングを！

4期 藤原苺子

〇町会・自治会の役員として(16号)

・生き返った植木鉢 1期 古橋義弘

・高輪地区の町会活動に従事して

2期 安藤洋一

・高輪共和会について

3期 片桐義雄

・地域の住民になるということ

4期 野上一治

〇CCクラブ会員の活動報告(16号)

・被災地「気仙沼」を訪問して

4期 畔柳和子

・アートサポーターとしてのお手伝い

4期 小川町子

2012. 4～2013. 3 (17号～20号)

○夏の集い “What a Wonderful 2nd life !”

(18号) 2012年7月14日(土)

- ・当世・港区銭湯事情—高齢者のお風呂
1期 塩見幸子
- ・～自助・共助をめざして～「みなトーク」会の活動
2期 久津弘子
- ・高齢者チームのチャレンジ ヨットで横浜から沖縄へ
3期 片桐義雄
- ・ご近所の方々と会話をしていますか?
4期 平岩力
- ・夏の交流会報告
5期 伊藤昌一
- ・会報部会より、参加者の感想から
5期 大竹裕

○あなたの地区の“ふれあい相談員”をご存じですか? (18号)

○私達の活動が内閣府から「エイジレス・ライフ社会活動実践団体」に選定されました! (19号)

2012年9月24日(月) 港区役所



港区役所での表彰と表彰状

○「安全で安心できる暮らしのための防災教室」(19号)

2012年11月7日(水)

- ・企画部会より
5期 伊藤昌一
- ・講座を振り返って
5期 小野田マサ子

○活動報告 (19号)

- ・OKAMOTO「サロン」活動について
1期 吉田秀博
- ・「エンゼルの会」ご報告
3期 山根幸子
- ・介護予防とは
3期 入江紀子
- ・ノルディックウォーキングを通しての社会貢献
4期 藤原まき子

・大使館と史跡めぐりの活動状況

5期 増田由明

○地域連携部会だより (19号)

活動状況報告の概要 2期 吉田由紀子

○活動報告会とシンポジウム～広がる高齢者支援の輪～ (20号)

2013年2月23日(土) 明治学院大学

- ・活動報告 2012年度CCクラブ活動報告
4期 伊藤文子
- ・シンポジウム
ふれあい相談を通じた高齢者の実態
芝地区ふれあい相談員 近藤朋美氏
活動状況調査の結果から見えるもの
2期 吉田由紀子
- とらべり会の活動
3期 池谷敏雄
- 赤坂青山地区高齢者「ふれあいサロン」
1期 桑原水枝

○地域貢献活動報告 (20号)

- ・「港区まち創り研究会」の活動報告
2期 安藤洋一
- ・動き出した3年目を迎える「芝CCクラブ」
2期 細井典子

○高齢者福祉活動報告(20号)

- ・生涯教育で大切な事“希望、探究心”
4期 出島彰
- ・私の好きな歌を歌い続け、4年目
2期 仲島泰子
- ・「人生100年」に向けて!
3期 田中眞弓
- ・「楽体(らくだ)クラブ」が目指すもの
5期 佐藤洋

・高齢者施設ボランティア“買い物代行サービス”
5期 大竹裕

○CCクラブ主催講演会「海外に学ぶアクティブシニアライフスタイル」(20号)

2012年12月12日(水) 明治学院大学

講師 三菱総合研究所 松田智生氏

- ・講演会に参加して
3期 池谷敏雄
- ・リタイアメント・コミュニティ
4期 奥田博章
- ・講演「アクティブシニア」を聴いて感じたこと
6期 篠原咲子

2013. 4～2014. 3 (21号～24号)

○2013年第1回講演会 (22号)

2013年7月20日(土) 明治学院大学
講師 明治学院大学 井上孝代名誉教授
テーマ 「60歳からのルネサンス～エイジングの心理学～」

○セタシンポジウム報告 (22号)

—港区高齢者2人世帯の生活実態調査報告—
2013年7月7日に開催された河合教授主幹の
シンポジウムの報告
“おふたりさまでも、安心できない”

6期 川上利春

○アンケート中間報告 (22号)

○CCクラブ第2回講演会 (23号)

“協働とは？”～日頃の気楽な“いとなみ”にあ
る～

2013年11月6日(水)

港区立白金台いきいきプラザ B2ホール
講師 安藤雄太(東京ボランティア・市民活
動センターアドバイザー)氏
港区産業・地域振興課 遠井基樹課長
事例発表

・ベイヤッププロジェクト

2期 道佛仁子

・協働・芝CCクラブ会員の活動

3期 新井隆治

・第6回健康長寿 in みなと 6期 遠山哲

・NPO法人あざ六プラスの紹介

一般参加 高柳由紀子氏

○【明治学院創立150周年記念 EXP02013】

白熱討論会について (23号)

2013年12月14日(土) 明治学院大学
大学生とCCクラブ会員が「社会貢献」をキー
ワードにした討論会
討論参加者

1期 吉田、2期 田部・馬場、3期 梅宮・
坂上、5期 呉、6期 宇賀神・篠原・
尾藤・忍足

・あれ？討論って・・・楽しい!!

6期 尾藤幸彦

・「世代間交流」という新しいコミュニティ
～若者とプラチナ世代が激論バトル!!～

実行委員長 明治学院大学 社会福祉学科

4年 荻野真奈美



白熱討論会会場

○「活動状況報告書」のまとめ (23号)

地域連携部会 2期 吉田由紀子

○“全地区にCCクラブ誕生” (23号)

・高輪地区CCクラブ 1期 米永栄一郎
・3Aクラブ(赤坂・青山・麻布地区)

6期 篠原咲子

○CCクラブ2013年度活動報告会とシンポジウ ム&交流会」～広げよう地域の輪・ひとの輪～ (24号)

2014年3月1日(土) 明治学院大学

・地域CCクラブ「現状と今後の取り組み」

基調講演 明治学院大学 河合克義教授

報告 明虹会「芝浦・港南・台場地区」

芝CCクラブ「芝地区」

高輪地区CCクラブ

3Aクラブ「赤坂・青山・麻布地区」

2013年度CCクラブ活動報告

・シンポジウム

○CCクラブメンバーによる地域活動の紹介

(24号)

・地域連携部会

2期 吉田由紀子

2014. 4～2015. 3 (25号～28号)

○平成26年度CCクラブ・ホームカミングデー ～特別講演と地域活動の紹介～ (26号)

2014年7月26日(土) 明治学院大学

・特別講演

テーマ ドイツをめぐる雑感

講師 明治学院大学 鶴殿博喜学長

・地域活動の紹介

- 芝の語り部 5期 増田由明
- 「みなと第九を歌う会」2期 田部揆一郎
- 「ブルモン料理研究会」6期 斎藤正精
- 「Kiss ポート・エンジェルス・ハーモニー」5期 暮地友子

○パリ研修旅行速報 (26号)

- パリの青空のもとで 2期 吉田由紀子

○地域活動紹介 (26号)

- 白金台いきいきプラザ 麻雀ボランティア 6期 白井レツイ

○フランス研修旅行報告～フランスの法律と福祉を学ぶ～ (27号)

- ・フランス研修旅行の意義 河合克義教授
- ・日仏の成年後見制度について 今尾真教授
- ・フランスの民間団体の活動 河合克義教授
- ・フランス研修旅行に参加しての雑感 1期 飯塚洗子



パリ第2大学パンテオン校舎

○平成 26 年度秋のイベント～新東京丸に乗って東京湾の役割を学ぼう～ (27号)

- 第1部 海上からの施設見学
- 第2部 第2部東京みなと館・浜離宮散策

○2014 年度シンポジウム・活動報告会～地域でやっていること・やりたいこと～ (28号)

- 港区との共同開催
- 2015年2月28日(土) 明治学院大学
- 第1部シンポジウムと活動報告会

- ・シンポジウム
- コーディネーター
- 明治学院大学 河合克義教授
- ・基調報告「その一歩、人がつながる楽しいまちづくり」

港区協働推進委員会 安藤雄太委員長

・パネルディスカッション

会社の活動紹介
太陽生命保険株式会社 秋山清茂氏

団体の活動紹介

ジービーパートナーズ 上野佳代子氏
大橋力氏

高輪一丁目町会松が丘部会活動

高輪地区CCクラブ 2期 安藤洋一
7年目の「みなトーク」会活動

高輪地区CCクラブ 2期 久津弘子
ペーパークラフト講座活動

芝CCクラブ 5期 佐々木博子
介護相談活動

明虹会 6期 石高則子

子ども会や東麻布街づくり活動

3Aクラブ 7期 宮崎貴美子

・全体講評 安藤雄太委員長 河合克義教授

・活動報告

2014 年度CCクラブの1年を振り返る

クラブ活動報告

会報部会 5期 大竹裕

クローズアップCCについて

地域連携部会 6期 川上利春

・港区のお知らせ

高輪地区総合支所協働推進課

野澤靖弘課長

・閉会あいさつ

港区地域振興課 遠井基樹課長



シンポジウム会場

○地域CC年間活動報告 (28号)

芝CCクラブ、明虹会、高輪地区CCクラブ、
3Aクラブ

2015. 4～2016. 3 (29号～32号)

○平成27年度CCクラブ・ホームカミングデイ～邦楽演奏と地域活動の紹介 (30号)

2015年7月22日(土)

明治学院大学白金校舎アートホール

・第1部 三味線演奏：あなたの知らない邦楽ワンダーランド

演奏者 中島久子(5期)を始め中島勝祐
記念会の皆さん

・第2部 ご一緒しませんか？私たちの地域活動 初心者大歓迎

介護予防リーダーの活動これから

6期 小倉徳子

NPO法人プラチナ美容塾 美容ボランティア活動紹介&美容ボランティアへのお誘い

4期 伊藤文子

白金台いきいきプラザの麻雀

5期 大竹裕

○2015年度夏・秋のイベント特集 (31号)

・宮古島・CCクラブ研修旅行

訪問記 宮古島市役所、福祉部福祉調整課
宮古島市社会福祉協議会、
特別養護老人ホーム松風園



宮古島 特別養護老人ホーム松風園と研修参加者

・～今年もまた新東京丸に乗って東京湾を見学しよう～

・NHK歌謡コンサート

○活動報告～町会活動特集～ (31号)

・三田一丁目町会 5期 伊藤昌一(芝)

・芝浦三・四丁目町会 2期 青木稔(明虹会)

・高輪一丁目・松ヶ丘会 2期 安藤洋一(高輪)

・赤坂八丁目町会 3期 西勇治(3A)

○CCクラブ 2015年度活動報告会～めげないシ

ニアの作り方～ (32号)

2016年2月27日(土) 明治学院大学

活動報告会

- ・CCクラブ活動報告 2015年度CCクラブ
活動報告 副代表 7期 丸山保夫
地域活動の状況 地域連携部会
8期 野村知義

・事例報告

豊岡いきいきプラザでのシニア英会話教室講師

港区豊岡いきいきプラザ 今中亜希子氏

2期 田部揆一郎 5期 小野田マサ子

「ラクっちゃ」における介護予防リーダーの活動

港区介護予防総合センター 佐藤むつみ氏

3期 新井隆治

港区芝浦港南総合支所との協働事業

港区芝浦港南地区総合支所

羽田悠一郎氏、2期 青木稔

活動の現状と今後の活動

チャレンジコミュニティ・クラブの意義と
今後の活動への期待

明治学院大学河合克義教授

CCクラブの今後の課題

CCクラブ 斎藤正精世話人代表

○2015年度地域CC年間活動報告 (32号)

芝CCクラブ、明虹会、

高輪地区CCクラブ、3Aクラブ

2016. 4～2017. 3 (33～34号)

○第1回チャレンジコミュニティ・クラブ定期総会 (HP版、特別号)

7月16日(土)

明治学院大学白金校舎

○平成28年度CCクラブ・ホームカミングデイ 特別講演会 (HP版、特別号)

「ぼくのライフワークはアホウドリの再生」

東京都民文化栄誉賞受賞者・東邦大学

長谷川博名誉教授

○港区政70周年記念事業 (34号)

チャレンジコミュニティ大学10周年記念シン

ポジウム

コミュニティを切り拓く～港区における地域・人づくりの挑戦～ (34号)

2016年12月10日(土) 明治学院大学

- ・記念講演
共同体的人間関係の再生
東京大学 神野直彦名誉教授
- ・基調講演
生涯学習と地域づくりの方向性について
文部科学省生涯学習政策局参事官
小谷和浩氏
- ・特別報告
アクティブシニアが導く～人生二期作・二毛作～
三菱総合研究所主席研究員 松田智生氏
- ・シンポジウム
～港区における地域・人づくりの挑戦～
コーディネーター
明治学院大学 河合克義教授
- ・NPOによる広域エリアの地域活動
NPO法人 プラチナ美容塾
4期 伊藤文子
- ・区と協働で進める地域活動
コミュニティ・カフェ高輪
高輪地区CCクラブ 1期 飯塚洗子
- ・町会活動や多世代間交流などの地域活動
飯倉三・四町会 6期 野村知義



CC大学10周年記念シンポジウム会場

○2016年度CCクラブ年間活動報告 (34号)

- ・2016年度CCクラブ活動
第1回チャレンジコミュニティ・クラブ
定期総会
平成28年度CCクラブ・ホームカミングデー

特別講演会と交流会

みなと区民まつりへの出展参加

第1回港区地域福祉フォーラムに運営協力

・企画部会、地域連携部会、ホームページ部会、
会報部会、総務部会の報告

○2016年度地域CC年間活動報告 (34号)

○活動報告～民生委員・児童委員活動報告～
(34号)

港区民生委員・児童委員協議会前会長

1期	古橋義弘
芝地区	5期 野瀬かほる
高輪地区	3期 梅澤和子
麻布地区	7期 山口明子
芝浦・港南地区	9期 堀野美千子

2017.4～2018.3 (35～37号)

○2017年度CCクラブ第2回総会・ホームカミングデー・交流会 (36号)

・CCクラブ第2回定期総会

・2017年度ホームカミングデー

「2015年度ノーベル生理学・医学賞受賞者大村智先生の人となり」と微生物の魅力に魅せられて」

講演者 高橋洋子北里大学名誉教授

○2017年度CCクラブ国内研修旅行 (36号)

「佐久総合病院の歩みと地域づくりの方法を学ぶ研修旅行」(36号)

○2017年度・秋のイベント特集 (36号)

- ・みなと区民まつり
- ・第2回港区地域福祉フォーラム
- ・みなと子ども読書まつり
- サイエンスワークショップ



地域福祉フォーラム/高輪地区CCクラブカフェと芝CCクラブ折り紙活動

○2017年度CCクラブ活動報告会・河合克義教授
特別講座・交流会（37号）

・活動報告会

地域CCクラブ活動報告

- 芝CCクラブ 3期 新井隆治
- 明虹会 10期 岡部正実
- 高輪地区CCクラブ 2期 吉田由紀子
- 3Aクラブ 9期 川村潔

・河合克義教授特別講座

私の研究の基礎視角とボランティア・アクション・チャレンジコミュニティ・クラブの活動に期待するものー

明治学院大学教授 河合克義氏
(チャレンジコミュニティ大学総括
コーディネーター)

○2017年度部会活動報告（37号）

○2017年度地域CC年間活動報告（37号）

○活動報告～介護予防活動特集～（37号）

・介護予防総合センターの取り組み

港区立介護予防総合センター ラクっちゃ
コミュニティーワーカー 武藤京介氏

- ・待たなしの介護準備へ 7期 牧野匡道
- ・教わる側から介護予防リーダー活動へ
7期 管美知子
- ・介護予防リーダーになって得たもの
8期 水野禮子

○表彰案内（37号）

港区社会福祉協議会「地域福祉功労章」
かんがり宛名活動に対して 3MCグループ
港区景観表彰景観街づくり賞特別賞
アドプト活動に対して 芝CCクラブ

2018.4～2019.3（38～40号）

○2018年度CCクラブ第3回定期総会・ホームカ
ミングデイ・交流会（39号）

2018年6月16日（土） 明治学院大学

- ・CCクラブ第3回定期総会
- ・2018年度ホームカミングデイ
やっと見つけた！手ごたえのある生き方
～ボランティアとフィランソロピー～
講師 日本フィランソロピー研究所
渡邊一雄所長

○2018年度CCクラブ活動（39号）

- ・明治学院高等学校家庭科授業参加
- ・夏の子ども会・サイエンス講座

・みなと区民まつり

・第3回港区地域福祉フォーラム



みなと区民まつりと夏
の子ども会・サイエンス
講座



○2018年度CCクラブ活動（40号）

・チャレンジコミュニティ・クラブ
2020応援フォーラム

講演会『視覚障害者の学びと夢』

講師：長野県松本盲学校校長 矢野口 仁

・2018年度バス研修旅行

足利市「こころみ学園」、ココ・ファーム・
ワイナリー、栗田美術館

・MINATOシティハーフマラソン
2018 ボランティア体験記



研修旅行「こころみ学園」

○社会福祉協議会社会福祉功労賞の紹介（40号）

- ・地域福祉貢献賞 SoLiの会
- ・地域福祉功労賞

石綿修一（5期・介護相談員）

加藤彌生（6期）

川上利春（6期）

小林和子（8期）

古川久江（8期）

○2018年度部会活動報告（40号）

○2018年度地域CC年間活動報告（40号）

○活動報告～サロン活動特集～（40号）

・みんなでつながるサロン活動

港区社会福祉協議会 地域福祉係

- ・「サロンはなみずき」活動 8期 小林和子
- ・「サロン茜」活動 8期 古川久江
- ・「なぎさサロン」活動 12期 平田渥美
- ・SoLiの会 6期 香西慧

2019. 4～2020. 3 (41～43号)

○2018年度活動報告会 (41号)

2019年3月16日午後1時より

明治学院大学

第1部

・2018年度活動報告 斎藤正精代表

・2018年度活動実態調査報告と事例報告

2018年度活動実態調査報告

河合克義明治学院大学名誉教授

吉田由紀子地域連携部会長

事例報告

3Aクラブの活動報告～地域への支援、
地域からの支援～

川村潔 3Aクラブ副代表

港区プレーパーク支援活動

10期2グループ 曾木紀代子

11期2グループ 鈴木興雄

第2部

港区「東京2020応援プログラム」推進助
成対象事業、チャレンジコミュニティ・ク
ラブ2020応援フォーラム「伝統文化に
ふれてみよう！ 三味線・日本舞踊」

一般社団法人中島勝祐記念会の中島久子
さん他



会場を魅了した邦楽演奏

交流会

明治学院大学パレットゾーンに約100名が
参加した。

○明治学院高等学校家庭科授業 ゲストスピー カー (41号)

5月13、14、16日の3日間で延べ21人の会
員が高校3年生の授業に参加した。。

○2019年度CCクラブ第4回定期総会・ホーム カミングデイ・交流会 (42号)

2019年6月22日(土) 明治学院大学

・CCクラブ第4回定期総会

・2019年度ホームカミングデイ

「ポジティブエイジングの心理学」～これか
らのライフストーリーを考えてみよう！～

講演者明治学院大学井上孝代名誉教授

○2019年度福井研修旅行 (42号)

・9月27日(金)～28日(土) 1泊2日

- ・研修先 9/27(金) 福井県社会福祉協議会
9/18(土) 越前市コワーキング「LAMP」
11名参加



越前市コワーキング「LAMP」にて

○夏の子ども会サイエンス講座 (42号)

8月18日(日) 港区役所9階研修室

○芝浦ケーブルサロン (12期平田渥美さん代表)

内閣府「社会参加章」受賞紹介 (42号)

○第4回港区地域福祉フォーラム開催

10月26日(土)・27日(日)

高輪区民センターにて、主催港区社会福祉協
議会、運営協力CCクラブ

○昔遊び交流会 (43号)

1月28日(火) 赤羽小学校授業協力

CCクラブ会員と地域の方16名が参加

○ボーリング大会 (43号)

1月28日(火) 第1回新春ボーリング大会14
名参加

○バリアフリー調査紹介 (43号)

○特集 防災活動中のCCクラブ会員

報告者 五木田京子(11期)、榊原益躬(12期)、
川村潔(9期)、石賀幹春(9期)

○講演会「想いをつなぐ～東京2020大会、 そして未来へ～」(43号)

11月30日(土) みなとパーク芝浦

講演者 渡邊一樹氏(セントラルスポーツ)
明虹会運営、73名が参加

○企画部研修会「サロン活動について」(43号)

12月4日(水)

白金台区民協働スペース 37名参加

講演者 12期 平田渥美

○活動報告会中止 (43号)

2020年2月22日(土)午後開催予定の活動報
告会は新型コロナウイルスの感染が拡大した
ため中止となった。

2020. 4～2021. 3 (44～45号)

○2020年度運営部門活動報告 (44号)

- ・2020年度第5回CCクラブ総会(書面総会)

CCクラブ代表 及川廣子（6期）
新型コロナウイルスの感染が拡大したため、総会を行わず、書面総会とした。

- ・オンライン会合体験会
企画部会ではオンライン会議に対応するための講習会を3日間行い、延べ57名が参加した。

- ・地区CC会議

7月17日にHUG高輪を会場としてZoomを利用したオンライン会議で実施した。

- ・成年後見制度研修講演会

7月28日（火） 白金台区民協働スペース
講演者 港区社会福祉協議会木村礼子係長
会場とリモートで32名が参加した。

- ・消毒ボランティア活動

6月18日から7月18日まで赤羽小学校でボランティアとして参加。

○2020年度活動報告会（45号）

2月20日（土）13:30～16:30

開催形式 リモート（Zoom）での配信

場所 明治学院大学法廷教室及び会議室

参加者 報告者、リモート合わせて80名

運営部門報告CCクラブ代表石川啓子（8期）

地域CCクラブ報告、

自主活動グループ報告

地域を繋げる折り紙活動

中村喜美子（7期）

みなと外遊びの会「その後のご報告とこれから」
曾木紀代子（10期）

タワーマンションでのサロン活動

平田渥美（12期）

白金台いきいきプラザの麻雀サロン事業

「ボランティア活動8年の歩みとコロナ対応」
大竹裕（5期）

講演会

「日々のリスクマネジメント」

チャレンジコミュニティ大学統括コーディネーター 明治学院大学

岡本多喜子名誉教授



会場の明治学院大学10号館法廷教室

○コロナ禍の中での地域福祉活動について意見交換会（45号）

11月18日（水）14時～15時45分

白金台区民協働スペースとリモート 15名が参加

○ロンドンの高齢者とのZoomミーティング

1月12日（火）20時～約1時間

ロンドンの参加者8名、CCクラブ会員9名と岡本多喜子先生でリモート意見交換会。

○新型コロナウイルス感染症対策勉強会

12月17日（木）14時30分～16時

港区立がん在宅緩和ケア支援センター「ういケアみなと」

講師：港区感染症アドバイザー・東京都看護協会危機管理室アドバイザー堀成美氏

○なかの生涯学習大学チームICTとの意見交換会

12月1日（火）14時～15時30分 Zoom

「なかの生涯学習大学」チームICTとCCクラブ11名で意見交換会

2021.4～2022.3（46～47号）

○2021年第6回CCクラブ総会（書面議決報告会）・ホームカミングデイ（46号）

6月19日（土）

明治学院大学3201教室とリモート

会場には会員38名、来賓4名の方、リモートには45名の会員が参加。

第1号議案（2020年度活動実績、会計報告）、

第2号議案（2021年度活動計画案）

第3号議案（役員選任の件）をパワーポイントを使い約25分間、説明をした。

書面議決の報告

総会開催案内発送総数681通、回答数、

255通（はがき・ファックス合計181通、

メール74通）賛成254通、反対0通、無効1通

- ・ホームカミングデイ講演会

「円周率って何だろう？」

明治学院大学学長 村田玲音先生

「元気の出る数学の話」をテーマに円周率の数字が生まれる推移の話でした。



ホームカミングデイ村田学長講演会

○CCクラブ 2021 年度活動報告会 (47 号)

2021 年 2 月 26 日 (土)

明治学院大学法廷教室と講演者自宅

- ・運営部門報告 代表石川啓子 (8 期)

- ・地域CCクラブ活動報告

- ・自主活動報告

- なぎさサロン 高野建二 (12 期)

- 「タワーマンションでの老人クラブ活動」

- 内田夕貴子 13 期)

- 「みなと外遊びの会「その後のご報告とこれから」

- 曾木紀代子 (10 期)

- 「バリアフリーマップ作成事業」

- 岩佐徳太郎 (9 期)

講演会

「気候危機克服と再生可能エネルギー普及～市民・地域主導で持続可能な社会を目指そう～」

和歌山大学客員教授、自然エネルギー市民の会代表、元・日本環境学会会長和田武氏

○ICT活動 (47 号)

- ・Zoom 講習会

- ・社会福祉協議会、JALインフォテックとCCクラブの協働活動講習会

1月14日(金)、2月15日(火)

主催：港区社会福祉協議会

講師 JALインフォテック

テーマ「知っておきたいプロに学ぶ！オンラインツール講座」

○2021 年度CCクラブ活動報告 (47 号)

- ・第1回学ぶ会

日時：7月7日(水) 14:30～16:00

場所：白金台ゆかしの杜 港区白金台区民協働スペース

講演者：みなと図書館長・郷土歴史館長

江村信行氏

テーマ：港区の歴史と地域文化 (総論)

～コミュニティから港区を捉える～

参加者：会場 30 名(含スタッフ)とリモート (Zoom) 参加者 42 名、

- ・第2回学ぶ会

日時：9月22日(水) 14:30～16:30

場所：白金台ゆかしの杜 港区区民協働スペース

講演者：元港区教育委員会学芸員

松本健氏

テーマ：港区の坂と地形

参加者：会場 28 名(含スタッフ)、リモートが (Zoom) 22 名

- ・第3回学ぶ会

11月18日(木) 14時から

ゆかしの杜協働スペース

参加者会場 28 名、リモートに 6 名が参加
講師 高輪地区ふれあい相談員松田綾子氏

「変化と課題～高齢者福祉と地域活動のこれからを考える～」の基調講演後、参加者で意見交換会



第3回学ぶ会熱心にメモをとる会場の皆さん

- ・企画部主催まち歩き

10月28日(木) 10時から

参加者 30 名

虎ノ門駅から東京タワー

「港区の坂」の講演会のまち歩き

○14 期生対象活動

- ・14 期生対象の Zoom 講習会

- ・14 期生対象の 1 Day for Others

プレーパーク (みなと外遊びの会) 3 名参加

なぎさサロン (港区広域サロン) 1 名参加

みなとパーキンソン病友の会支援活動

1名参加
港区バリアフリーマップ作成事業

3名参加

2022.4～2023.3 (48～49号)

- 2022年第7回CCクラブ総会（書面議決報告会）・ホームカミングデイ（48号）
6月18日（土）
明治学院大学3201教室とリモート
会場に会員43名と来賓5名の方とリモートには34名の会員が参加した。
第1号議案（2021年度活動実績）
第2号議案（2022年度活動計画案）
第3号議案（役員選任の件）パワーポイントを使い約25分間、説明をした。
書面議決の報告
総会開催案内発送総数711通、回答数、251通（はがき・ファックス合計173通、メール78通）賛成249通、反対0通、無効2通
- ・ホームカミングデイ講演会
「港区の温暖化について」
港区環境リサイクル支援部環境課地球環境係長 秋葉大輔様
- 明治学院高等学校家庭科授業ゲストスピーチ（48号）
5月16日から31日まで4日間8時限で、CCクラブ会員15名が明治学院高等学校3年生を対象にスピーチした。
- CCクラブ2022年度活動報告会（49号）
2022年2月18日（土）
明治学院大学3101教室とリモート
参加者会員75名と来賓10名
- ・運営部門報告
- ・地域CCクラブ活動報告
- ・自主活動報告
- 一八会活動報告 8期 山崎範夫
「バリアフリーマップ作成事業」
9期 岩佐徳太郎
港区社会福祉協議会 峯岸理恵子
- ・パイプオルガン・レクチャーコンサート
講師・演奏者 明治学院音楽主任者
長谷川 美保先生

○2022年度CCクラブ活動報告（49号）

- ・第6回学ぶ会
日時：7月13日（水）14:00～16:00
場所：白金台ゆかしの杜 港区白金台区民協働スペース

参加者：会場27名（含スタッフ）とリモート（Zoom）参加者6名、
テーマ：コロナ禍に於ける地域活動の課題と対策

基調報告

港区社会福祉協議会地域福祉係
加藤三奈係長
港区立介護予防総合センター
栃堀賀江副センター長

講演後の参加者からの活動紹介

- ・第7回学ぶ会
日時：10月5日（水）14:00～15:30
場所：白金台ゆかしの杜 港区区民協働スペース
講演者：元港区教育委員会学芸員

高山優氏

テーマ：海で生きる～本芝浦・金杉浦の漁業史

参加者：会場28名（含スタッフ）、リモートが（Zoom）9名

- ・企画部主催まち歩き
11月16日（木）10時から
参加者44名
田町駅東口から竹芝ふ頭
「海で生きる」講演会のまち歩き



まち歩きの集合写真（竹芝ふ頭）

○みなと区民まつり（49号）

10月8日（土）、9日（日）に4年振りに開催されたみなと区民まつりに参加。
クイズを行い約600名が参加し、記念品を贈

- 呈。約 50 名の会員が協力。
- 港区社会福祉協議会と（株）JALインフォテック オンラインツール講座協力（49号）
11月28日（月）、12月6日（火）
会場 芝コミュニティはうすとリモート
会場には30名、リモートで20名参加
 - なかの生涯学習大学ICTチーム交流会（49号）
1月23日に昨年に続き、CCクラブ6名となかのチームICT6名が参加。
 - ういケアみなと 折り紙講座協力（49号）
1月28日（土）港区立がん在宅緩和ケア支援センターが主催しCCクラブが協力して開催。
 - 1 Day for Others（明治学院大学連携活動）（49号）
CC大学15期生が4つの活動に4名と明治学院大学が3つの活動に9名が参加。
 - 昔遊び継承活動（49号）
お手玉作成と昔遊び練習会を行い、1月17日（火）に赤羽小学校1年生100名と幼稚園児20名を対象に昔遊びを教える授業に協力。
CCクラブ会員18名と明学生、PTA役員、地域の方が参加。



昔遊び継承活動 お手玉と羽根つきコーナー

- このゆび、と～まれ発信（49号）
ボランティア活動グループが協力員を募集するための手段としてホームページを利用して発信。
- アクティブシニアのライフストーリーを聞く（49号）
社会学部からの依頼があり、1期生が協力した。
- CC大学16期生募集協力
CC大学募集にあたり1月13日から1月18日で4か所にて説明会があり、港区から依頼

があり、代表、副代表と地域CCクラブが協力した。

2023.4～2024.3（50～51号）

- 2023年第8回CCクラブ総会（書面議決報告会）・ホームカミングデイ（50号）
6月17日（土）
明治学院大学3201教室とリモート
会場に会員112名と来賓9名の方とリモートには20名の会員が参加した。
第1号議案（2022年度活動実績）
第2号議案（2023年度活動計画案）
第3号議案（役員選任の件）
書面議決の報告
総会開催案内発送総数755通、回答数、321通（はがき・ファックス合計199通、メール122通）賛成314通、反対0通、無効7通
・ホームカミングデイ講演会
「美術館の美しさと美術館のこれから」
根津美術館顧問
元美術館副館長兼学芸部長 西田宏子氏
- 明治学院高等学校家庭科授業ゲストスピーチ（50号）
5月16日から31日までの4日間8時限で、CCクラブ会員17名が明治学院高等学校で行った。
- CCクラブ2023年度活動報告会（51号）
2024年2月24日（土）
明治学院大学3101教室
参加者：会員111名と来賓・家族友人22名、CC大学16期生27名
・運営部門報告 代表 阿部令子（10期）
・地域CCクラブ活動報告
・活動実態調査報告
調査の概要 CCクラブ顧問・明治学院大学 河合克義名誉教授
調査の結果（基本集計）・自由回答から 帝京平成大学健康医療スポーツ学部 石川由美准教授
コロナ禍でできなくなったこと、CC大学修了後の交流について CCクラブの今後のあ

るべき方向

地域連携部会長

金原智子(10期)



活動報告会 講演会会場

・講演会

「新型コロナのこれまでとこれから」

講演者 公益財団法人結核予防会

理事長尾身茂氏

・交流会

5年ぶりにパレットゾーンにゲストを含

め約100名が集まり懇親を深めた。

○2023年度CCクラブ活動報告(51号)

・第10回学ぶ会

日時：10月18日(水) 14:00～16:00

場所：白金台ゆかしの杜 港区白金台区民協働スペース

参加者：会場30名(含スタッフ)とリモート(ZOOM)参加者1名、

テーマ：コロナ禍前、コロナ禍中とコロナ禍以降の地域活動について

4名のCCクラブ会員の報告後に参加者で意見交換

発表者：2期久津弘子、5期大竹裕、7期太田則義、12期平田渥美

・第11回学ぶ会

日時：11月8日(水) 14:00～15:30

場所：白金台ゆかしの杜 港区白金台区民協働スペース

講演者：元港区教育委員会学芸員

高山優氏

テーマ：道をさぐる～中原道を巡って参加

者：会場39名(含スタッフ)、リモート

(Zoom)7名

・企画部主催まち歩き

11月29日(木)10時から

参加者25名

三田駅から高輪泉岳寺付近

「道をさぐる」講演会内容の旧東海道を芝の語り部ガイドで散策した。

○みなと区民まつり(51号)

10月7日(土)、8日(日)に開催されたみなと区民まつりに参加。クイズを行い約

540名が参加した。今年度は会員が2か月間で作成した記念品を贈呈。42名の会員

が当日運営に協力。



多くの会員がみなと区民まつりに協力

○1 Day for Others(明治学院大学連携活動)(51号)

CC大学16期生が4つの活動に5名と明治学院大学が4つの活動に39名が参加。明治学院大学生はコロナの影響がなくなり大幅に増加。

○昔遊び継承活動(51号)

1月18日(木)に赤羽小学校1年生約100名を対象に昔遊びを教える授業に協力。CCクラブ会員17名と明学生、PTA役員、地域の方が参加。

○港区社会福祉協議会と(株)JALインフォテック オンラインツール講座協力(51号)

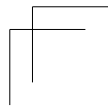
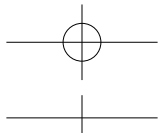
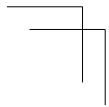
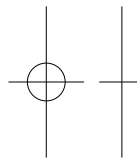
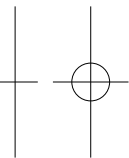
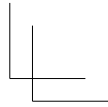
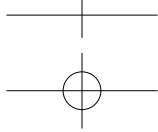
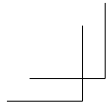
11月16日(木)、17日(金)

会場 芝コミュニティはうすとリモート

会場には2日間で38名、リモートで25名が参加。

○CC大学17期生募集協力

CC大学生募集にあたり1月10日から1月20日にかけて4か所にて説明会があった。港区から依頼があり、代表、副代表と地域CCクラブが協力し、2022年度より多くの区民が会場に訪れた。



2023年東京都港区 チャレンジコミュニティ・クラブの実態と活動に関する調査報告書
—地域における学びと活動のあり方—

編集/チャレンジコミュニティ・クラブ 地域連携部会(2023年度)

金原 智子 (10期)	太田 則義 (7期)
今泉 昌代 (10期)	呉 東富 (5期)
大塚 堅一 (11期)	山岸 洋子 (11期)
丸毛 昭生 (13期)	荒川 太 (14期)
小杉 良子 (14期)	大友 登喜雄 (15期)

2023年東京都港区 チャレンジコミュニティ・クラブの実態と活動に関する調査報告書
—地域における学びと活動のあり方—

発行日 2024年8月1日

発行者 チャレンジコミュニティ・クラブ
港区高輪地区総合支所協働推進課

編集 チャレンジコミュニティ・クラブ 地域連携部会

協力 明治学院大学名誉教授 学長特別補佐 河合克義
帝京平成大学健康医療スポーツ学部准教授 石川由美
明治学院大学学長室社会連携課

明治学院サービス株式会社 (CCクラブ事務局)

〒108-0071 東京都港区白金台1-2-37

Tel. 03-5421-1555 Fax. 03-5421-1556

Email ccclub@meijigakuin-s.co.jp